

【学部共通科目】

講義コード	科目名		回 生	単 位	開 講 期	曜 時 限	担 当 者	備 考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
0012001	哲学基礎文化学系	ゼミナールI	1-4	2	前期	木2	上原, 周藤, 安井, 高木, ROMARIC, 藤貫, 伊原木, 樽田	コーディネーター:上原, 周藤	学部共通科目1
0022001	東洋文化学系	ゼミナールI	1-4	2	前期	木5	成田, 大関, 楊, 高橋, 趙	コーディネーター:成田	学部共通科目2
0032001	西洋文化学系	ゼミナールI	1-4	2	前期	集中	小林, 宮坂, 中村, 久保田, 霜田, 高田, 山口, 飯島	コーディネーター:小林	学部共通科目3
0032002	西洋文化学系	ゼミナールII	1-4	2	前期	集中	小林, 竹下, 山下(裕), 山下(大), 野末, 籠, 柴田, 西谷	コーディネーター:小林	学部共通科目4
0042001	歴史基礎文化学系	ゼミナールI	1-4	2	前期	木1	磯貝, 加藤, 岡島, 佐藤, 金, 勅使河原, 伊藤, 青木, 李, 平良, 高木, 板垣, 高野, 坂川	コーディネーター:磯貝	学部共通科目5
0042002	歴史基礎文化学系	ゼミナールII	1-4	2	後期	木1	磯貝, 松島, LI, 王, KIM, 李, 小堀, 髙, 辻田, 田中, 法貴, 浮網, 谷口	コーディネーター:磯貝	学部共通科目6
0052001	行動・環境文化学系	ゼミナールI	1-4	2	前期	木5	蘆田, 池田, Guillaume, 谷本, 田多井, 武田, 山本	コーディネーター:蘆田	学部共通科目7
0052002	行動・環境文化学系	ゼミナールII	1-4	2	後期	木5	蘆田, 千々岩, 朝倉, 脇坂, 許, 戸根, 翁, 山本, 古本	コーディネーター:蘆田	学部共通科目8
0062001	基礎現代文化学系	ゼミナールI	1-4	2	前期	木5	伊勢田, TATARCZUK, 谷セツ子, PATRICK, 苗村	コーディネーター:伊勢田	学部共通科目9
0062002	基礎現代文化学系	ゼミナールII	1-4	2	後期	木5	伊勢田, 鈴木, 佐藤, 平岡, 白木	コーディネーター:伊勢田	学部共通科目10
9639001	ヘブライ語(初級)	語学	3-4	2	前期	火3	手島 勲矢	学部共通科目	学部共通科目11
9640001	ヘブライ語(中級)	語学	3-4	2	後期	火3	手島 勲矢	学部共通科目	学部共通科目12
9616001	ハンスクリット(2時間コース)	語学	1-4	4	通年	月4	山口 周子	学部共通科目	学部共通科目13
9617001	ハンスクリット(4時間コース)	語学	1-4	8	通年	月5, 木5	Klevanov Andrey	学部共通科目	学部共通科目14
9633001	ヒンディー語(初級)	語学	1-4	4	通年	金5	小松 久恵	学部共通科目	学部共通科目15
9659001	ヒンディー語(中級)I	語学	2-4	2	前期	火3	西岡 美樹	学部共通科目	学部共通科目16
9660001	ヒンディー語(中級)II	語学	2-4	2	後期	火3	西岡 美樹	学部共通科目	学部共通科目17
9628001	チベット語(初級)	語学	2-4	2	前期	月1	高橋 慶治	学部共通科目	学部共通科目18
9629001	チベット語(初級)	語学	2-4	2	後期	月1	高橋 慶治	学部共通科目	学部共通科目19
9630001	チベット語(中級)	語学	3-4	2	前期	水1	宮崎 泉	学部共通科目	学部共通科目20
9630002	チベット語(中級)	語学	3-4	2	後期	水1	宮崎 泉	学部共通科目	学部共通科目21
9664001	ギリシア語(初級I)	語学	2-4	2	前期	金3	西村 洋平	学部共通科目	学部共通科目22
9665001	ギリシア語(初級II)	語学	2-4	2	後期	金3	西村 洋平	学部共通科目	学部共通科目23
9615001	ギリシア語(4時間コース)	語学	2-4	8	通年	月1, 木1	広川 直幸	学部共通科目	学部共通科目24
9666001	ラテン語(初級I)	語学	2-4	2	前期	水1	勝又 泰洋	学部共通科目	学部共通科目25
9667001	ラテン語(初級II)	語学	2-4	2	後期	水1	勝又 泰洋	学部共通科目	学部共通科目26
9645001	ラテン語(4時間コース)	語学	2-4	8	通年	月2, 金2	佐藤 義尚	学部共通科目	学部共通科目27
9661001	ポーランド語(初級I)	語学	1-4	2	前期	木4	Bogna Sasaki	学部共通科目	学部共通科目28
9662001	ポーランド語(初級I)	語学	1-4	2	後期	木4	Bogna Sasaki	学部共通科目	学部共通科目29
9642001	ポーランド語(中級II)	語学	1-4	2	前期	木5	Bogna Sasaki	学部共通科目	学部共通科目30
9642002	ポーランド語(中級II)	語学	1-4	2	後期	木5	Bogna Sasaki	学部共通科目	学部共通科目31
9646001	ロシア語(初級)	語学	1-4	2	後期	水2	中村 唯史	学部共通科目	学部共通科目32
9647001	ロシア語(中級)	語学	1-4	2	前期	水2	中村 唯史	学部共通科目	学部共通科目33
9673001	スペイン語(初級)I	語学	2-4	2	前期	火4	小西 咲子	学部共通科目	学部共通科目34
9674001	スペイン語(初級)II	語学	2-4	2	後期	火4	小西 咲子	学部共通科目	学部共通科目35
9668001	スペイン語(中級)I	語学	2-4	2	前期	火5	小西 咲子	学部共通科目	学部共通科目36
9669001	スペイン語(中級)II	語学	2-4	2	後期	火5	小西 咲子	学部共通科目	学部共通科目37
9675001	イタリア語(初級4時間コース)I	語学	2-4	4	前期	月2, 木3	菅野 類	学部共通科目	学部共通科目38
9676001	イタリア語(初級4時間コース)II	語学	2-4	4	後期	月2, 木3	菅野 類	学部共通科目	学部共通科目39
9663001	イタリア語会話(中級)	語学	2-4	2	前期	火5	Ida Duretto	学部共通科目	学部共通科目40
9663002	イタリア語会話(中級)	語学	2-4	2	後期	火5	Ida Duretto	学部共通科目	学部共通科目41
9604001	アラブ語(初級)	語学	2-4	4	通年	木2	西尾 哲夫	学部共通科目	学部共通科目42
9608001	イラン語(初級)	語学	3-4	4	通年	火2	杉山 雅樹	学部共通科目	学部共通科目43
9620001	シュメール語(初級)	語学	3-4	4	通年	金1	森 若葉	学部共通科目	学部共通科目44
9612001	オランダ語(初級)	語学	2-4	2	前期	火3	河崎 靖	学部共通科目	学部共通科目45
9613001	オランダ語(中級)	語学	2-4	2	後期	火3	河崎 靖	学部共通科目	学部共通科目46
9624001	スワヒリ語(初級)	語学	2-4	2	前期	火3	井戸根 綾子	学部共通科目	学部共通科目47
9625001	スワヒリ語(中級)	語学	2-4	2	後期	火3	井戸根 綾子	学部共通科目	学部共通科目48
9648001	朝鮮語(初級A)	語学	2-4	2	前期	金1	杉山 豊	学部共通科目	学部共通科目49
9649001	朝鮮語(初級B)	語学	2-4	2	後期	金1	杉山 豊	学部共通科目	学部共通科目50
9650001	朝鮮語(中級A)	語学	2-4	2	前期	火2	朴 真完	学部共通科目	学部共通科目51
9651001	朝鮮語(中級B)	語学	2-4	2	後期	火2	朴 真完	学部共通科目	学部共通科目52
9672001	古代エジプト語・コプト語(初級)	語学	2-4	2	前期	木4	宮川 創	学部共通科目	学部共通科目53
9677001	古代エジプト語・コプト語(中級)	語学	2-4	2	後期	木4	宮川 創	学部共通科目	学部共通科目54
9635001	フランス語(中級)	語学	2-4	2	前期	水4	Raphaelle BRIN		学部共通科目55
9635002	フランス語(中級)	語学	2-4	2	後期	水4	Raphaelle BRIN		学部共通科目56
9636001	フランス語(上級)	語学	3-4	2	前期	水5	Raphaelle BRIN		学部共通科目57
9636002	フランス語(上級)	語学	3-4	2	後期	水5	Raphaelle BRIN		学部共通科目58
8005001	博物館学I	講義	2-4	2	前期	火1	松岡 久美子	学芸員用	学部共通科目59
8006001	博物館学II	講義	2-4	2	後期	火1	松岡 久美子	学芸員用	学部共通科目60
8007001	博物館学III	講義	2-4	2	後期	水2	宮川 禎一	学芸員用	学部共通科目61
8107001	書道	演習	2-4	2	前期	火5	万殿 伸昭	教職用	学部共通科目62
8107002	書道	演習	2-4	2	後期	火5	万殿 伸昭	教職用	学部共通科目63
8041001	英語論文作成法	演習	2-4	2	前期	火4	大崎 紀子		学部共通科目64
8041002	英語論文作成法	演習	2-4	2	後期	火4	大崎 紀子		学部共通科目65
9702001	人文学の多面的展開	演習	1-4	2	後期	不定	杉浦, 別所, 小林, 安井, 武田, 澤田, ギョーム, タタルチュック	大学コンソーシアム 京都による「プラザ 推奨科目」を兼ねる	学部共通科目66
9610001	インドネシア語I(初級)	語学	1-4	2	前期	木5	柏村 彰夫		学部共通科目67
9611001	インドネシア語II(初級)	語学	1-4	2	後期	木5	柏村 彰夫		学部共通科目68
9626001	タイ語I(初級)	語学	1-4	2	前期	木5	弓庭 育子		学部共通科目69
9627001	タイ語II(初級)	語学	1-4	2	後期	木5	弓庭 育子		学部共通科目70

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
9631001	ビルマ(ミャンマー)語I(初級)	語学	1-4	2	前期	木3	本行 沙織		学部共通科目71
9637001	ベトナム語I(初級)	語学	1-4	2	前期	火2	吉本 康子		学部共通科目72
9638001	ベトナム語II(初級)	語学	1-4	2	後期	水2	吉本 康子		学部共通科目73
9822001	タイ研修	特殊講義	1-4	2	前期	集中	西島 薫		学部共通科目74
9822002	ベトナム研修	特殊講義	1-4	2	前期	集中	西島 薫		学部共通科目75
9822005	インドネシア研修	特殊講義	1-4	2	後期	集中	西島 薫		学部共通科目76
9822003	戦争と植民地の歴史認識	特殊講義	1-4	2	後期	木2	小山 哲,高嶋 航		学部共通科目77
JK03001	Introduction-Introductory seminar (KBR)	演習	3-4	2	前期	火2	VASUDEVA, Somdev		学部共通科目78
JK04001	Introduction-Introductory seminar (SEG)	演習	3-4	2	前期	水3	安里 和晃		学部共通科目79
JK05001	Introduction-Introductory seminar (VMC)	演習	3-4	2	前期	火3	Bjorn-Ole Kamm		学部共通科目80
JK07001	Skills for Transcultural Studies I-English	演習	3-4	2	前期	水2	ERICSON, Kjell David		学部共通科目81
JK10001	Foundations I-Seminar (SEG)	特殊講義	3-4	2	前期	木3	ERICSON, Kjell David		学部共通科目82
JK11002	Foundations I-Seminar (VMC)	特殊講義	3-4	2	前期	集中	印南 美沙子		学部共通科目83
JK11003	Foundations I-Seminar (VMC)	特殊講義	3-4	2	前期	月2	KITSNIK, Lauri		学部共通科目84
JK13001	Foundations I-Seminar (KBR/VMC)	特殊講義	3-4	2	前期	木5	張本 研吾		学部共通科目85
JK15001	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	月5	海田 大輔		学部共通科目86
JK15002	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	金4	川島 隆		学部共通科目87
JK17005	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	木2	佐野 真由子		学部共通科目88
JK17006	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	水2	河合 淳子		学部共通科目89
JK19001	Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	水4,水5	Mitsuyo Wada-Marciano		学部共通科目90
JK19002	Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	火4,火5	Mitsuyo Wada-Marciano		学部共通科目91
JK21001	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	火2	高嶋 航,村上 衛,ERICSON, Kjell David		学部共通科目92
JK21002	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	火3	Bjorn-Ole Kamm		学部共通科目93
JK21003	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	木3	ERICSON, Kjell David		学部共通科目94
JK21005	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	不定	ERICSON, Kjell David		学部共通科目95
JK24002	Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Colloquium)	演習	3-4	2	後期	水5	早瀬 篤		学部共通科目96
JK26001	Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquium)	演習	3-4	2	後期	月3	Bjorn-Ole Kamm		学部共通科目97

学部共通科目1

科目ナンバリング		U-LET40 10012 SJ36									
授業科目名 <英訳>	哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上原 麻有子 文学研究科 准教授 周藤 多紀 非常勤講師 安井 絢子 非常勤講師 高木 裕貴 非常勤講師 JANNEL ROMARIC 非常勤講師 藤貫 裕 非常勤講師 伊原木 詩乃 非常勤講師 樽田 勇樹				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目	哲学基礎文化学入門										
[授業の概要・目的]											
<p>哲学基礎文化学系各専修の大学院で学んだ若手研究者によるリレー講義。それぞれのイキのいい研究テーマについて、学部学生向けに、分りやすく、そして楽しく語ってもらいます。</p> <p>この授業の特色として、毎回、質問の時間を用意しています。その日の講義の内容はもちろんのこと、学生生活や研究生生活の相談や、進路相談など、経験豊富な先輩にどしどしぶつけてみましょう。皆さんにとって学問の最前線に触れるとともに、研究室の先輩と早い目から交流する場となることもこの授業の目的のひとつです。</p> <p>なお受講者には担当者が代わるたびに授業アンケートに答えていただきます。これからあちこちの大学で教鞭を取る若手教員を育てるつもりになって、参考にも励みにもなる回答をお寄せください。</p>											
[到達目標]											
哲学基礎文化学系に進むための基本的な知識とスキルを習得する。哲学で論じられる幅広いトピックに対応できる柔軟な思考力を養う。											
[授業計画と内容]											
<p>第1回～2回 安井 絢子講師：ベナーの現象学的看護論入門</p> <p>第3回～4回 伊原木詩乃講師：宗教と家族の分析</p> <p>第5回～7回 Romaric JANNEL講師：山内得立の哲学における仏教思想と西欧哲学の邂逅</p> <p>第8回～9回 藤貫裕講師：九鬼哲学における時間と文学</p> <p>第10回～11回 高木 裕貴講師：カントの道徳哲学</p> <p>第12回～14回 樽田勇樹講師：現象学が開いた問い ハイデガーによる解釈から</p> <p>第15回 まとめ・総括</p>											
[履修要件]											
特になし											
----- 哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----											

哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業に際しては、毎回出席をとります。全講義の8割以上に出席することが、単位認定の条件です。成績評価は学期末レポートで行います。提出要領その他は授業時に伝達します。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に適宜指示する。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に適宜指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目2

科目ナンバリング		U-LET41 10022 SJ36									
授業科目名 <英訳>		東洋文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 成田 健太郎 非常勤講師 大関 綾 非常勤講師 楊 維公 非常勤講師 高橋 健二 非常勤講師 趙 偵宇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目		東洋の文化と思想(インド古典学・中国語学中国文学・国語学国文学)									
【授業の概要・目的】											
<p>各担当者がそれぞれの研究内容について、インド古典学、中国語学中国文学、国語学国文学の研究が具体的にどのようなものであるかを受講者に紹介する。東洋の文献を読むための基本的な知識を身につけると同時に、東洋の文献を扱う研究の手法と、各分野の文献から読み取れる思想について、二次文献の講読などを交えながら学ぶ。授業形式は各講師によって異なるが、「文献学」という一貫したテーマのもと、すべての授業において、受講生が「文献学とは何か」という問いを設定し、積極的に発言し質問することによって、自分なりの見解を得ることを期待する。</p>											
【到達目標】											
<p>本科目の履修を通して、以下のような知識と能力の習得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インド古典学、中国語学中国文学、国語学国文学の専修において、どのような研究が行われているのかを知ること。 ・インド、中国、日本の思想、文化、言語について幅広い興味関心を持つこと。 ・「文献学とは何か」を自分なりに理解したうえで、興味を持った分野について自身の見解を整理し、レポートとしての的確にまとめられるように取り組む。 											
【授業計画と内容】											
<p>初回授業においてゼミナールについてのガイダンスを行う。</p> <p>第1回：幕末期の戯作本(1) 読本・長編合巻とは (大関・国語学国文学)</p> <p>第2回：幕末期の戯作本(2) 曲亭馬琴の中国文学受容 (大関・国語学国文学)</p> <p>第3回：幕末期の戯作本(3) 曲亭馬琴の軍記利用 (大関・国語学国文学)</p> <p>第4回：中国の恋物語(1) 『鶯鶯伝』と『西廂記』 (楊・中国語学中国文学)</p> <p>第5回：中国の恋物語(2) 『牡丹亭』 (楊・中国語学中国文学)</p> <p>第6回：中国の恋物語(3) 『長恨歌』と『梧桐雨』、『長生殿』 (楊・中国語学中国文学)</p> <p>第7回：中国の恋物語(4) 『桃花扇』 (楊・中国語学中国文学)</p> <p>第8回：古代インド叙事詩『マハーバーラタ』の世界(1) 物語とその意味 (高橋・インド古典学)</p> <p>第9回：古代インド叙事詩『マハーバーラタ』の世界(2) 神話とヒンドゥー教 (高橋・インド古典学)</p> <p>第10回：古代インド叙事詩『マハーバーラタ』の世界(3) 哲学思想の展開 (高橋・インド古典学)</p> <p>第11回：古代インド叙事詩『マハーバーラタ』の世界(4) 批判校訂研究とその方法論 (高橋・インド古典学)</p>											
----- 東洋文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----											

東洋文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

第12回：近代の日・中漢詩交流(1)	明治漢詩概説 (趙・中国語学中国文学)
第13回：近代の日・中漢詩交流(2)	明治の日本漢詩人 (趙・中国語学中国文学)
第14回：近代の日・中漢詩交流(3)	明治の日中漢詩交流 (趙・中国語学中国文学)
第15回：近代の日・中漢詩交流(4)	中国漢詩人が詠う明治日本 (趙・中国語学中国文学)

フィードバック方法については各講師が授業の中で説明します。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点(20%)と学期末のレポート(80%、課題選択制)

【教科書】

配布資料による。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

質問等は授業後に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目3

科目ナンバリング		U-LET42 10032 SJ36										
授業科目名 <英訳>		西洋文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子 非常勤講師 宮坂 真依子 非常勤講師 中村 満耶 非常勤講師 久保田 麻里 非常勤講師 霜田 洋祐 非常勤講師 高田 映介 非常勤講師 山口 知廣 非常勤講師 飯島 雄太郎				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語	
題目		西洋文学へのいざない										
[授業の概要・目的]												
本研究科西洋文献文化学専攻出身の若手研究者7名によるリレー講義。西洋文化学系で学ぼうと考えている1・2回生をおもな対象として、西洋文学にかんする入門的な授業をおこなう。西洋古典文学、ロシア文学、ドイツ文学、フランス文学、イタリア文学の作家や作品を通して、西洋文学の多面的な魅力にふれるとともに、文学研究のさまざまなテーマや方法を学ぶことを目的とする。授業は講義形式を基本とするが、必要に応じて演習形式を取り入れることもある。												
[到達目標]												
西洋文学の代表的な作家・作品について学び、西洋文学の世界の多面的な魅力を理解する。合わせて、文学研究の方法への案内とする。												
[授業計画と内容]												
取り上げる担当者とテーマは次の通り。 一つのテーマについて2コマの授業時間をあてる。 第1～2回 宮坂真依子 「プラウトゥスの喜劇を読む」 第3～4回 中村満耶 「ギリシア抒情詩を読む」 第5～6回 久保田麻里 「モリエールのコメディ=バレエに見る古典演劇の作劇法と宮廷祝祭の精神」 第7～8回 霜田洋祐 「疫病文学のアクチュアリティ マンゾーニ『婚約者』を中心に」 第9～10回 高田映介 「チェーホフの初期短編を読む」 第11～12回 山口知廣 「カフカと朗読」 第13～14回 飯島雄太郎 「トーマス・ベルンハルトにおける言語懷疑」 第15回:総括(小林久美子)												
[履修要件]												
特になし												
----- 西洋文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----												

西洋文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点：1回の授業につき5点満点で評価
期末レポート：40点満点で評価

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

あまり関心のないテーマにかんする授業でも、きっと新しい発見があるはずなので、ぜひ出席してみてください。

コーディネーター：小林久美子

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目4

科目ナンバリング		U-LET42 10032 SJ36									
授業科目名 <英訳>	西洋文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子 非常勤講師 竹下 哲文 非常勤講師 山下 裕大 同志社大学 嘱託講師 山下 大吾 非常勤講師 野末 幸子 非常勤講師 籠 碧 非常勤講師 柴田 秀樹 非常勤講師 西谷 茉莉子				
	配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期		2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	ゼミナール
題目	西洋文学の諸相										
[授業の概要・目的]											
<p>本研究科西洋文献文化学専攻出身の若手研究者7名によるリレー講義。西洋文化学系で学ぼうと考えている1・2回生をおもな対象として、西洋文学にかんする入門的な授業をおこなう。西洋古典文学、ロシア文学、ドイツ文学、アメリカ文学、イギリス文学、フランス文学のさまざまなジャンルの作品を通して、西洋文学の多面的な魅力にふれるとともに、文学研究のテーマや方法への理解を深めることを目的とする。授業は講義形式を基本とするが、必要に応じて演習形式を取り入れることもある。</p>											
[到達目標]											
西洋文学の代表的な作家・作品について学び、西洋文学の世界の多面的な魅力を理解する。合わせて、文学研究の方法への案内とする。											
[授業計画と内容]											
<p>取り上げるテーマと担当者は次の通り。 一つのテーマについて2回の授業時間をあてる。</p> <p>第1～2回 竹下哲文 「ウェルギリウス『農耕詩』を読む」 第3～4回 山下裕大 「18世紀フランスの恋愛喜劇 マリヴォー『愛と偶然の戯れ』」 第5～6回 山下大吾 「プーシキンの『青銅の騎士』を読む」 第7～8回 野末幸子 「イーディス・ウォートンの幽霊小説を読む」 第9～10回 籠碧 「ドイツ語文学における「孤独」のイメージ ティーク、シュトルム、S. ツヴァイク」 第11～12回 柴田秀樹 「20・21世紀フランスの文学 同時代の哲学との関連から」 第13～14回 西谷茉莉子 「北アイルランドの現代詩 社会的背景から作品を読み解く」 第15回 総括(小林久美子)</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点：1回の授業につき5点満点で評価											
----- 西洋文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----											

西洋文化学系(ゼミナールII)(2)

期末レポート：40点満点で評価

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

あまり関心のないテーマにかんする授業でも、きっと新しい発見があるはずなので、ぜひ出席してみてください。

コーディネーター：小林久美子

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目5

科目ナンバリング		U-LET43 10042 SJ36										
授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名			文学研究科 教授 磯貝 健一 非常勤講師 加藤 麻子 非常勤講師 岡島 陽子 非常勤講師 佐藤 早紀子 非常勤講師 金 賢祐 非常勤講師 勅使河原 拓也 非常勤講師 伊藤 啓介 非常勤講師 青木 貴史 非常勤講師 李 ヘジン 非常勤講師 平良 聡弘 非常勤講師 高木 康裕 非常勤講師 板垣 優河 非常勤講師 高野 紗奈江 非常勤講師 坂川 幸祐				
	配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目	歴史学研究の最前線(1) 日本史学、考古学のフロンティア											
[授業の概要・目的]												
歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、自らの研究の体験をふまえながら、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。前期の授業では、日本史学、考古学の新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得ることを目的とする。												
[到達目標]												
新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。												
[授業計画と内容]												
ゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。講義担当者と講義題目は以下のとおり。日程については初回の授業で発表する。												
<p>加藤麻子「律令の公文書と文書行政」 岡島陽子「日本古代女官制度について」 佐藤早紀子「平安時代の貴族装束について」 金賢祐「平安時代の日朝関係について」 勅使河原拓也「院政期政治史と王権」 伊藤啓介「気候変動と日本中世史」 青木貴史「年貢散用状からみる庄園収取の変遷」 李ヘジン「朝鮮通信使と「誠信」外交」 平良聡弘「対日使節派遣運動の展開と日本開国 ペリー来航の再検討」 高木康裕「縄文時代草創期の石器研究」 板垣優河「縄文時代の植物採集活動について」 高野紗奈江「『縄文』にみる日本列島の先史文化」 高野紗奈江「『縄文』の素材探究」</p>												
----- 歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----												

歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

坂川幸祐「先史時代の遊牧民の腰帯から見た文化と交流」

磯貝：フィードバック

*コーディネーター：磯貝健一

フィードバックについては、授業中に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の感想を中心とする毎回の小レポート(40%)と、学期末のレポート(60%)にもとづいて総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、講師・テーマが変わるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理すること。

(その他(オフィスアワー等))

受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。

前期は日本史・考古学、後期は東洋史・西南アジア史・西洋史と分かれているが、歴史学を様々な視点からみてほしいので、できれば志望する専修如何にかかわらず、前後期ともに受講するのが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目6

科目ナンバリング		U-LET43 10042 SJ36									
授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科				
							教授 磯貝 健一 非常勤講師 松島 隆真 非常勤講師 LI HONGZHE 非常勤講師 王 天馳 非常勤講師 KIM HANBARK 非常勤講師 李 ハンキョル 非常勤講師 小堀 慎悟 非常勤講師 瞿 艶丹 非常勤講師 辻田 明子 非常勤講師 田中 悠子 非常勤講師 法貴 遊 非常勤講師 浮網 佳苗 非常勤講師 谷口 良生				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目	歴史学研究の最前線(2) 東洋史学・西南アジア史学・西洋史学のフロンティア										
【授業の概要・目的】											
歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。後期の授業では、東洋史学・西南アジア史学・西洋史学の新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得ることを目的とする。											
【到達目標】											
新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。											
【授業計画と内容】											
ゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。講義担当者と講義題目は以下のとおり。日程については初回の授業で発表する。											
松島隆真「前漢武帝の封建論」 李弘喆「中国古代の書物と学問」 王天馳「17世紀のマンチュリア社会」 キムハンバク「前近代中国の刑罰制度と配流刑」 李ハンキョル「1910年代中国の知識人論」 小堀慎悟「植民地における近代的公衆衛生システムの形成と「地方自治」 イギリス領香港を例として」 瞿艶丹「近代北京における肺結核予防治療事業について」 辻田明子「古代メソポタミアの書記教育」 田中悠子「古代末期とイスラーム初期：異端をめぐる言説から」 法貴遊「中世イスラーム圏のユダヤ教徒：カイロ・ゲニザ文書の観点から」 浮網佳苗「近代イギリスの消費文化と倫理」 浮網佳苗「近代イギリスの消費社会と若者」 谷口良生「フランス第三共和政期の議員たちの世界 議員たちの経歴と議員職の兼任」 谷口良生「第三共和政をどのようにとらえるか 地方議会からフランス史の議会史叙述を乗り越える」											
----- 歴史基礎文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----											

歴史基礎文化学系(ゼミナールII)(2)

機貝：フィードバック

*コーディネーター：機貝健一

フィードバックについては、授業中に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義の感想を中心とする毎回の小レポート（40％）と、学期末のレポート（60％）にもとづいて総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、講師・テーマが変わるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。

前期は日本史・考古学、後期は東洋史・西南アジア史・西洋史と分かれているが、歴史学を様々な視点からみてほしいので、できれば志望する専修如何にかかわらず、前後期ともに受講するのが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目7

科目ナンバリング		U-LET44 10052 SJ36									
授業科目名 <英訳>		行動・環境文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏 非常勤講師 池田 裕 非常勤講師 LADMIRAL, Guillaume 非常勤講師 谷本 涼 非常勤講師 田多井 俊喜 非常勤講師 武田 龍樹 非常勤講師 山本 寛樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時間	木5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目		行動文化学への招待									
[授業の概要・目的]											
<p>行動文化系の分野で研究している新進気鋭の研究者たちが、この分野で研究する事の意義や楽しさを紹介し、あわせて研究の始め方や、基本となる入門書、当初に遭遇する困難など、学生に近い立場から具体的に語りかけるとともに、学生の相談にも応えます。</p>											
[到達目標]											
<p>行動文化学に関する最新の知見と方法論を習得し、人間が日常使う言語や、心の動き、社会の中の行動とそれを取り巻く地域そのものについて包括的に理解する力をつけます。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>下記のテーマについて扱う予定です。変更や追加もあり得ますので、その場合はKULASIS上でお知らせします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 入門計量社会学(池田 裕) 3. 態度の社会学に向けて(池田 裕) 4. ネットワーク分析入門 グローバル化と世界経済システムを応用例にして(ラドミラル ギヨーム) 5. 量的データ分析入門 新型コロナウイルス感染症感染拡大の要因を応用例にして(ラドミラル ギヨーム) 6. 民主制と代表政権、政権の分類体系(ラドミラル ギヨーム) 7. 地理学における生活の質とアクセシビリティ(谷本 涼) 8. 生活関連施設にかかわるアクセシビリティ分析の事例(谷本 涼) 9. 性的アイデンティティのあり方(田多井 俊喜) 10. 経済社会と性的多様性との関連について。(田多井 俊喜) 11. 職場におけるトランスジェンダーのカミングアウト(田多井 俊喜) 12. 暴力の人類学(1)(武田 龍樹) 13. 暴力の人類学(2)(武田 龍樹) 14. 親子の視点から乳児の発達環境をさぐる(山本 寛樹) 15. フィードバック 											
----- 行動・環境文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----											

行動・環境文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価です。毎回小テストを実施し、前期を通じての平均点で評価します。小テストを受けない回は0点として計算されます。

【教科書】

教材は必要に応じて授業中に配布します。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設けませんが、授業の後に担当の講師と話し合ってください。また各講師ごとに授業に関するアンケートをします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目8

科目ナンバリング		U-LET44 10052 SJ36									
授業科目名 <英訳>	行動・環境文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 蘆田 宏 非常勤講師 千々岩 眸 非常勤講師 朝倉 禎人 非常勤講師 脇坂 美和子 非常勤講師 許 燕華 非常勤講師 戸梶 民夫 非常勤講師 翁 和美 非常勤講師 山本 博子 非常勤講師 古本 真				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目	行動文化学への招待										
【授業の概要・目的】											
行動文化系の分野で研究している新進気鋭の研究者たちが、この分野で研究する事の意義や楽しさを紹介し、あわせて研究の始め方や、基本となる入門書、当初に遭遇する困難など、学生に近い立場から具体的に語りかけるとともに、学生の相談にも応えます。											
【到達目標】											
行動文化学に関する最新の知見と方法論を習得し、人間が日常使う言語や、心の動き、社会の中での行動とそれを取り巻く地域そのものについて包括的に理解する力をつけます。											
【授業計画と内容】											
下記のテーマについて扱う予定です。変更や追加もあり得ますが、KULASIS上でお知らせします。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 比較認知科学への誘い(千々岩 眸) 3. 科学で知りたいイヌ・ネコのこころ(千々岩 眸) 4. 生活空間の観光化と地域社会の論理(朝倉 禎人) 5. 農村らしさの商品化と観光地の葛藤(朝倉 禎人) 6. 地域資料と方言研究(脇坂 美和子) 7. やさしい日本語とやさしくない日本語(脇坂 美和子) 8. マイノリティであり、マジョリティでもあることは?(許 燕華) 9. 90年代以後の日本における性的マイノリティの性的政治の変遷と新自由主義化(戸梶 民夫) 10. 医療の場と「日常生活世界」(翁 和美) 11. 社会学の基礎 M・ヴェーバーの社会学 (山本 博子) 12. 片言を言うまで(古本 真) 13. 記述言語学研究で使えるTIPS(古本 真) 14. 仮説の検証(古本 真) 15. フィードバック 											
----- 行動・環境文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----											

行動・環境文化学系(ゼミナールII)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価です。毎回小テストを実施し、後期を通じての平均点で評価します。小テストを受けない回は0点として計算されます。

[教科書]

教材は必要に応じて授業中に配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設けませんが、授業の後に担当の講師と話し合ってください。また各講師ごとに授業に関するアンケートをします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目9

科目ナンバリング		U-LET45 10062 SJ36									
授業科目名 <英訳>		基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治 非常勤講師 TATARCZUK, Marcin Adam 非常勤講師 谷 セツニ 非常勤講師 苗村 弘太郎 文学研究科 助教 宮川 創			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目		現代文化学への招待Ⅰ									
【授業の概要・目的】											
<p>現代文化学専攻の博士課程を修了した若手研究者が、現代文化学系を志す後輩達に、自分たちの最新の研究成果をふまえて、現代文化学系の学問についてわかりやすく講義します。この科目は二つの性格をもっています。</p> <p>一つ目は、現代文化学に関心をもつ1、2回生のための導入的専門科目という性格です。多様な現代文化学系の研究内容の一端を示すことで、現代文化学系への理解を深めてもらい、1回生には、系分属選択の判断材料を、2回生には、専修選択の判断材料を提供することがその目的です。</p> <p>第二の性格は、大学教員をめざす若手研究者のための教育実践（大学教育改善のための実践＝FDの一環であるプレFD）の場であるということです。今回この授業は、現代文化学系と行動文化学系の合同のプレFDとして開催しています。現代文化学系および行動文化学系で学び、将来大学教員を志す若手研究者が、実際に学生に教えることで、その教育力を延ばすことが目的となります。そのために毎回授業終了後に、授業について感想や意見を書いもらうアンケートを実施します。</p>											
【到達目標】											
<p>この科目は、現代文化学系に関心をもっている学生に、多様性に富む現代文化学系の学問内容の一端を提示することを目的としています。リレー講義を担当する若手の研究者は、未熟ですが、同時に最先端に近いところで研究をしています。そういった研究の新動向を少しでも知ることによって、受講生が現代文化学系に関心をもつようになり、専修分属を決める際の判断材料の材料となります。</p>											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス（伊勢田哲治・梅野宏樹）(4/8)											
第2回～第4回 デジタル人文学への招待（宮川創）											
1. デジタル人文学とは何か？(4/15)											
2. デジタル・アーカイブの役割と開発(4/22)											
3. デジタル・コーパスの分析と構築(5/6)											
第5回～第7回 社会科学の哲学としての歴史学の哲学入門（苗村弘太郎）											
1. 導入：社会科学の哲学の起こりと論理実証主義(5/13)											
2. 歴史学的説明論争 共感的理解をめぐる(5/20)											
3. 歴史学的説明論争 物語的説明をめぐる(5/27)											
第8回～第10回 戦間期日本の知識人の対中国認識（谷 セツニ）											
1. 第一次世界大戦と東アジア(6/3)											
2. 大正デモクラットの中国観：吉野作造と福田徳三(6/10)											
-----基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く-----											

基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

3. 「外地」メディアにおける中国評論：橘樸の観察 (6/17)

第11回～第13回 京都の文化観光と物語から考える地域性(マルチン・タタルチュク)

1. 近代日本と「平安文化」の京都(6/24)
2. 20世紀と物語観光(7/1)
3. 現代京都と安倍晴明(7/8)

第14回～第15回 授業のまとめとフィードバック
フィードバックについては、授業内に指示する。

【履修要件】

授業は主として1, 2回生を受講者に想定しておこないますが、3, 4回生の受講も可。

【成績評価の方法・観点】

授業への参加態度と試験によって総合的に成績を評価します。試験は、各授業担当者が与える課題についてレポートの提出してもらいます。

平常点50%、レポート点50%とし、

平常点：リフレクションシートによって評価します。全回提出および未提出1回は50点、2回は45点、3回は40点、4回は35点、5回は30点、6回は25点、7回以上は0点とします。
レポート点：4人の講師が出す課題から2つを選んで、レポートを提出します。2つのレポートの点数を平均してレポート点を算出します。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業時に、各担当者から、課題が提示されることがあります。その指示にしたがってください。

(その他(オフィスアワー等))

この授業は、若手研究者のためのプレFDプログラムに参加しています。そのために毎回授業終了後に、授業について感想や意見を書いもらうアンケートを実施するほかにも、受講生以外の参観者の出席をみとめています。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目10

科目ナンバリング		U-LET45 10062 SJ36									
授業科目名 <英訳>		基礎現代文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治 非常勤講師 鈴木 健雄 文学研究科 助教 佐藤 夏樹 非常勤講師 平岡 久代 非常勤講師 白木 正俊			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語
題目		現代文化学への招待 I I									
【授業の概要・目的】											
<p>現代文化学専攻の博士課程を修了した若手研究者が、現代文化学系を志す後輩達に、自分たちの最新の研究成果をふまえて、現代文化学系の学問についてわかりやすく講義します。この科目は二つの性格をもっています。</p> <p>一つ目は、現代文化学に関心をもつ1、2回生のための導入的専門科目という性格です。多様な現代文化学系の研究内容の一端を示すことで、現代文化学系への理解を深めてもらい、1回生には、系分属選択の判断材料を、2回生には、専修選択の判断材料を提供することがその目的です。</p>											
【到達目標】											
<p>この科目は、現代文化学系に関心をもっている学生に、多様性に富む現代文化学系の学問内容の一端を提示することを目的としています。リレー講義を担当する若手の研究者は、未熟ですが、同時に最先端に近いところで研究をしています。そういった研究の新動向を少しでも知ることによって、受講生が現代文化学系に関心をもつようになり、専修分属を決める際の判断材料の材料となります。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回～第3回 1910/20年代ドイツにおける社会主義思想と運動（鈴木健雄）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：今なぜ社会主義を？ドイツの事例とともに 2. ドイツ革命と二大社会主義政党の成立 3. 複数の社会主義の潮流と、小規模社会主義政党 <p>第4回～第6回 エスニック集団ヒスパニック/ラティーノの構築（佐藤夏樹）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ラティーノとは：アメリカ社会におけるラティーノ、非合法移民問題の展開 2. 合衆国国勢調査と「ヒスパニック」1：1970年国勢調査をめぐって 3. 合衆国国勢調査と「ヒスパニック」2：1980年国勢調査をめぐって <p>第7回～第9回 近代以降の文化財移動と国際文化交流（平岡久代）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フェノロサとボストン美術館 2. 戦後占領期の接收刀剣 3. 文化財移動と国際文化交流 <p>第10回～第12回 日本近代都市における人と水の関係史～京都市を事例に～（白木正俊）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近代社会における人と水の関係史 2. 都市における利水事業の展開 3. 都市における治水事業の展開 											
----- 基礎現代文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----											

基礎現代文化学系(ゼミナールII)(2)

第13回～第15回 授業のまとめとフィードバック
フィードバックについては、授業内に指示する。

【履修要件】

授業は主として1, 2回生を受講者に想定しておこなうが、3, 4回生の受講も可。

【成績評価の方法・観点】

授業への参加態度と試験によって総合的に成績を評価します。試験は、各授業担当者が与える課題についてレポートの提出してもらいます。

日常点50%、レポート点50%とし、

日常点：リフレクションシート提出8回以下は0点、9回25、10回30、11回35、12回40、13回45、14/15回50点とします。

レポート点：4人の講師が出す課題から2つを選んで、レポートを提出します。2つのレポートの点数を平均してレポート点を算出します。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業時に、各担当者から、課題が提示されることがあります。その指示にしたがってください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目11

科目ナンバリング		U-LET49 39639 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（初級）（語学） Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（初級）									
【授業の概要・目的】											
ヘブライ語の文字、母音記号などの聖書テキストの伝統、またラビ文学を含む歴史的な言語文化の変化を概要するとともに、文法の基礎（名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞、語根、分詞ほか）を教える。名詞文の特徴的構造に親しみ、さらに個々の文法事項がもつ聖書解釈上の意義についても解説する。その際、16 - 17世紀の文法学者の意見も紹介する。											
【到達目標】											
ヘブライ語の文字と母音記号を認識して、文章を声に出して読めること。ヘブライ語作文ができること。辞書を使えるようになること。また簡単な名詞文の和訳ができること。											
【授業計画と内容】											
1．ヘブライ語の歴史（概観）、2．文字と母音記号、3．音節と区切り、4．形容詞と名詞（単数と複数）、5．形容詞と名詞（ジェンダーと性別他）、6．存在詞と非存在詞、7．現在分詞と名詞、8．語根とビニヤン（導入）、9．カルとニファル、10．ピエルとプアル、11．ヒフィルとフファル、12．ヒトパエルとニファル、13．人称代名詞と接尾辞、14．一般と唯一、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回を当てる場合もある。 * * 内容や順番は授業の進捗状況で多少変化することもある。 * * * 確認クイズは 2 ~ 3 回、学習の区切りで行う。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、小テスト（50%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
-----ヘブライ語（初級）（語学）(2)へ続く-----											

ヘブライ語（初級）(語学)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示する暗記課題や練習問題をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目12

科目ナンバリング		U-LET49 39640 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（中級）（語学） Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（中級）									
【授業の概要・目的】											
<p>動詞（完了形・未完了形・命令形、時制など）のシステムと、その文章構造の理解を中心にヘブライ語文法の基礎を学ぶ。語根別の共通変化パターン、および歴史的な語根の混同また時制システムの歴史的な問題を学ぶ。聖書テキストを含む色々な時代のテキストを声に出して読み、テキスト翻訳の中で注意すべき文法的な事項の認識を深める。また聖書テキストの中にある、言葉の結びつきと切り離しの伝統（タアメイ・ミクラー）の重要性も解説する。動詞の理解については、16 - 17世紀の文法学者の意見にも注目する。</p>											
【到達目標】											
<p>動詞 / 完了・未完了の基本活用を覚えること。語根パターンが生む不規則変化を認識できること。完了・未完了・分詞を含む現代ヘブライ語の文構造を理解し翻訳できること。聖書ヘブライ語の特殊な時制構造を理解すること。辞書を効果的に用いること。母音記号なしのテキストも多少読めること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1．名詞文と動詞の確認、2．名詞と動詞パラダイムの諸問題、3．完了形（基本）、4．未完了形（基本）、5．不定詞と命令形、6．レヴィータ文法（自動詞、他動詞）、7．レヴィータ文法（時制と時間）、8．語根 / ギズラー、9．W倒置と北西セム語、10．読解聖書、11．読解ラビ文献、12．読解中世文献、13．読解近代文献、14．読解現代文、15．まとめ</p> <p>* 1 課題あたり 1 ~ 2 回の授業を要する場合もある。 * * 進捗状況をみながら内容や順番は多少変化する。 * * * 学習の区切りで、2~3回の確認クイズをする。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、注解レポート（50%）											
-----ヘブライ語（中級）（語学）(2)へ続く-----											

ヘブライ語（中級）(語学)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示する暗記課題やテキスト読解の予習をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目13

科目ナンバリング		U-LET49 19616 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit(2H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級文法(2時間コース)									
【授業の概要・目的】											
サンスクリット語は南アジア(インド)において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。											
【到達目標】											
このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。											
【授業計画と内容】											
以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。											
前期 サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回) 名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回) 代名詞、数詞、複合語(第14-15回)											
後期 動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回) 年度末テスト(テスト期間) フィードバック期間:フィードバック(第30回)											
授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。											
----- サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)

[履修要件]

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

[成績評価の方法・観点]

- ・平常点(練習問題への理解度、および理解への積極性、50点)
- ・年度末筆記試験(50点)。

[教科書]

吹田隆道(編著)『実習サンスクリット文法:萩原雲来『実習梵語学』新訂版』(春秋社)ISBN:978-4393101728

必要に応じて、補助資料(プリント)を配布します。

[参考書等]

(参考書)

辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波書店)ISBN:978-4000202220

[授業外学修(予習・復習)等]

予習:各回の進捗状況に合わせて、原則として次の2つのいずれかを授業中に指示します。

- ・宿題として出された練習問題の解答(訳)を準備してくること。
- ・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておくこと。

復習:授業内容を見直すこと(特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す)。

授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目14

科目ナンバリング		U-LET49 19617 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(4時間コース)(語学) Sanskrit(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey			
配当 学年	1回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月5,木5	授業 形態	語学	使用 言語	英語
題目		Sanskrit Grammar									
【授業の概要・目的】											
This course targets at students with no prior knowledge of Sanskrit and offers a systematic introduction to the language. The main focus is laid upon learning the foundations of grammar, developing a basic vocabulary, and acquiring skills in understanding of Sanskrit texts.											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - to read and write in Devanagari-script (also used for Hindi) - to gain a systematic overview of basic and intermediate grammar of Classical Sanskrit - to develop skills of reading and interpreting simple prose and verse in Classical Sanskrit - to develop basic skills in composing prose sentences in Classical Sanskrit 											
【授業計画と内容】											
<p>We will largely follow the plan laid out in M. Deshpande ' s manual “ Samskrita-Subodhini: A Sanskrit Primer ” .</p> <p>The overall duration of the course is 30 weeks (15 + 15). We will spend the main bulk of this time (ca. 25 weeks) on the study and practice of Sanskrit grammar. During the final ca. five weeks of the course we will turn to reading of simple Sanskrit texts.</p>											
【履修要件】											
Classes will be held in English with translational help provided by a Japanese TA.											
【成績評価の方法・観点】											
Active participation in the classroom, review of studied materials, biweekly homework.											
【教科書】											
<p>M. Deshpande 『 Samskrita-Subodhini: A Sanskrit Primer 』 (The University of Michigan Press) ISBN: 9780891480792</p> <p>E.D. Perry 『 A Sanskrit Primer 』 (Nabu Press 2011) ISBN:178794733</p>											
----- サンスクリット(4時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット(4時間コース)(語学)(2)

[参考書等]

(参考書)

Arthur A. MacDonell 『A Sanskrit Grammar for Students』 (OUP, 1971)

[授業外学修(予習・復習)等]

Homework involves preparing translations from Sanskrit into English and translations from English into Sanskrit. Weekly review of grammatical categories and memorization of vocabulary. The expected preparation time is approximately two hours per class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目15

科目ナンバリング		U-LET49 19633 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（初級）（語学） Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 国際教養学部 准教授 小松 久恵			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語（初級）									
【授業の概要・目的】											
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初等文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。											
【到達目標】											
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。インドの公用語であるヒンディー語を通して異文化世界としての北インドについて学び、世界認識の幅を広げる。ヒンディー文字を習得し、ヒンディー語の初級文法と簡単な会話を理解する。											
【授業計画と内容】											
教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。											
前期											
1．導入【1週】											
2．文字と発音【4週】											
3．文法と会話【9週】											
4．中間試験【1週】											
5．中間試験のフィードバック【1週】											
後期											
6．文法と会話【8週】											
7．文法と絵本・新聞講読【6週】											
8．期末試験【1週】											
9．期末試験のフィードバック【1週】											
【履修要件】											
授業には継続的に参加すること。											
----- ヒンディー語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

ヒンディー語（初級）(語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（30％）と筆記試験（期末30、年度末40）によって評価する。

[教科書]

町田和彦『ニューエクスプレス ヒンディー語』（白水）ISBN:978-4-560-06791-8（同著者の「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）

[参考書等]

（参考書）

辞書については初回の授業で紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業の前日までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド関係の情報に関心を持つこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目16

科目ナンバリング		U-LET49 29659 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（中級）I Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 西岡 美樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語中級 I									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑な文章を精読できるようになる。 2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。 3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。 4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：アクバルとビールバル、パンチャタントラ、小話ほか 第6～10週目：インド神話関連の物語 第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（マハーバーラタ、カター・サーガルなど）</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。 また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。 ・ ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課 - 第12課の文法項目）習得していること。（初級文法でここまで到達していない場合は受講不可） 											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加（40%） 期末試験あるいはレポート（60%）</p>											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
----- ヒンディー語（中級）I(2)へ続く -----											

ヒンディー語（中級）I(2)

（関連URL）

<https://www.youtube.com/channel/UCsyoNsQE37tZIkuvqVPTa7g>(Hindi Fairy Tales)
<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Acharya)
https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw(Indian Stories For Kids)
<https://www.youtube.com/channel/UCR22sCPCRx3J9nfCUV4htGw>(Akbar Birbal Stories)
https://www.youtube.com/channel/UCVP73_P70GlqgG618HNX8qg(Panchatantra Stories in Hindi)
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzlO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta（インドのヒンディー語新聞）)
http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/(Nav Bharat Times（インドのヒンディー語新聞）)
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS（インドのニュース・報道専門番組）)
<http://khabar.ndtv.com/>(NDTV（インドのニュース・報道専門番組）)
<https://www.youtube.com/user/aajtaktv>(Aaj Tak（インドのニュース・報道専門番組）)
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtwcyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)
<https://publication.aa-ken.jp>(西岡美樹（2017）『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』、『初級ヒンディー語文型練習帳』)
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID（教育用Video SNSサービス）)
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets（復習用オンライン・アプリケーション）)

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

（その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中上級レベルの予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目17

科目ナンバリング		U-LET49 29660 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（中級）II Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 西岡 美樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語中級 II									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑な文章を精読できるようになる。 2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。 3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。 4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：現代の短篇小説、ヒンディー語映画の詩歌 第6～10週目：新聞記事、TVニュース 第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（ラーマヤナ、ヴィシュヌ・プラーナ、カター・サーガルなど）</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。 また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。 ・ ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課 - 第12課の文法項目）習得していること。（初級文法でここまで到達していない場合は受講不可） 											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加（40%） 期末試験あるいはレポート（60%）</p>											
----- ヒンディー語（中級）II(2)へ続く -----											

ヒンディー語（中級）II(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Aacharya)
https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw(Indian Stories For Kids)
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzIO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtweyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS (インドのニュース・報道専門番組))
<http://khabar.ndtv.com/>(NDTV (インドのニュース・報道専門番組))
<https://www.youtube.com/user/aahtaktv>(Aaj Tak (インドのニュース・報道専門番組))
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta (インドのヒンディー語新聞))
http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))
<https://publication.aa-ken.jp>(西岡美樹 (2017) 『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』、 『初級ヒンディー語文型練習帳』)
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID (教育用Video SNSサービス))
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets (復習用オンライン・アプリケーション))

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

（その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中上級レベルの予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目18

科目ナンバリング		U-LET49 29628 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（初級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
前期はチベット文字およびその読み方を習得し、チベット語の名詞の構造、文での使い方を理解する。											
【授業計画と内容】											
授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1週） 2. 文字と発音（4週） 3. 名詞（4週） 4. 形容詞（1週） 5. 助動詞（3週） 6. まとめ（1週） 7. フィードバック（1週） <p>「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。</p> <p>受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。</p>											
チベット語（初級）(語学)(2)へ続く											

チベット語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特にないが、後期のチベット語（初級）をあわせて受講することが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

成績は、学期末に行う試験（100％）によって決定する。
チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目19

科目ナンバリング		U-LET49 29629 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語(初級)(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
後期は動詞の屈折を中心として学び、文の構造を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>前期のチベット語(初級)に引き続き、チベット語初級文法を解説する。授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動詞(5週) 2. 複文他(5週) 3. チベット語テキスト演習(4週) 4. フィードバック(1週) <p>基本的な文法の解説を終えた後は、性格の異なる短い文章をできる限り読み、実践的なチベット語の習得を目指す。</p>											
【履修要件】											
前期のチベット語(初級)を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績は、学期末に行う試験(100%)によって決定する。 チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。</p>											
----- チベット語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

チベット語（初級）(語学)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目20

科目ナンバリング		U-LET49 39630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業は、チベット語初級を学んだ学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めることを目的とする。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中で使われるチベット語も多様であるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げることで、広い分野の仏教文献に対処できる基礎的な能力を身につけることを目指す。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、多様なチベット語文献を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業では、時代によるチベット語自体の違いや、翻訳文献の中でも経典や注釈といったスタイルの違いも網羅するために、以下のような文献を順に取り上げる予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 古チベット語を含むチベット撰述仏教文献 2. サンスクリット経典からの翻訳文献 3. サンスクリット注釈からの翻訳文献 											
それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴を解説し、読解に必要な内容の説明を行う。その後各文献を四から五週程度かけて輪読する。											
第1回 インTRODクシヨN 第2回～第14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。授業中の発表により評価する。											
チベット語（中級）(語学)(2)へ続く											

チベット語（中級）(語学)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

それぞれのチベット語文献の性格に注意しながら予習し、問題点を整理しておくことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目21

科目ナンバリング		U-LET49 39630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業は、チベット語初級を学んだ学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めることを目的とする。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中で使われるチベット語も多様であるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げることで、広い分野の仏教文献に対処できる基礎的な能力を身につけることを目指す。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、多様なチベット語文献を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業では、独立した論書と他の論書に対する注釈といった翻訳文献中のスタイルの違いや、翻訳文献とチベット撰述文献の相違に対する理解を深めるため、以下のような文献を順に取り上げる予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. サンスクリット論書からの翻訳文献 2. サンスクリット注釈からの翻訳文献 3. チベット撰述古典チベット語文献 											
それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴を解説し、読解に必要な内容の説明を行う。その後各文献を四から五週程度かけて輪読する。											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。前期のチベット語（中級）を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。授業中の発表により評価する。											
チベット語（中級）(語学)(2)へ続く											

チベット語（中級）(語学)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

それぞれのチベット語文献の性格に注意しながら予習し、問題点を整理しておくことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目22

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		ギリシア語（初級I）（語学） Greek				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語を学ぶ									
【授業の概要・目的】											
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>											
【到達目標】											
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション、ギリシア文字の読み方・書き方 第2回から第14回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第3課から第17課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また活用・変化を覚えてもらうために小テストを2・3回実施する。 期末試験 第15回 フィードバック（試験の解説、前期の復習）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
練習問題への取り組み（30%）、小テスト（20%）、試験（50%）で評価する。											
【教科書】											
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
毎回課される練習問題に取り組む、活用・変化を覚えるために繰り返し自習することが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

学部共通科目23

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		ギリシア語（初級II）（語学） Greek				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語を学ぶ									
【授業の概要・目的】											
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>											
【到達目標】											
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回から第15回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第18課から第36課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また最後の3回は哲学・文学・歴史など履修者の関心に合わせて、短いテキストを講読する。</p>											
【履修要件】											
<p>前期の「ギリシア語（初級I）」を履修しているか、それに相当する文法知識を持っていること。 詳しくは初回のイントロダクションの際に相談すること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>練習問題・講読への取り組みで評価する。また履修者数や学習状況によっては、授業内試験を実施する。</p>											
【教科書】											
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）											
----- ギリシア語（初級II）（語学）(2)へ続く -----											

ギリシア語（初級II）（語学）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される練習問題に取り組み、語形変化・活用を覚えるための自習を行い、講読のために予習しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目24

科目ナンバリング		U-LET49 29615 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ギリシア語 (4時間コース) (語学) Greek(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 広川 直幸			
配当 学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月1,木1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ギリシア語 (4時間コース)									
[授業の概要・目的]											
<p>ギリシア語 (正確にはギリシャ語) はヨーロッパで最も歴史の長い言語である。線文字B文書を別にすれば、紀元前8世紀後半から現在に至るまで文献が残っている。その長い歴史の中で便宜上「古典ギリシア語」と呼ばれる期間のギリシア語の基礎を習得するのがこの授業の目的である。教科書では紀元前5～4世紀頃のアッティカ方言を中心に学ぶ。アッティカ方言は、標準語を持たなかった古典ギリシア語の中で最も豊富に文献を残しており、比較的良好に実態が解明されている方言である。それゆえ、アッティカ方言の学習は、同時代の他の方言で書かれた文献を読むためにも、またそれ以前の文献 (例えばホメロス) やそれ以後の文献 (例えば『新約聖書』) を読むためにも必須である。この授業では、教科書により基礎的文法と最小限の語彙を習得することを目指すのはもちろんのこと、教科書終了後、平易なテキストを講読することにより、教科書で得られる知識と本格的な原典講読のために必要な知識との間にある非常に大きな隔たりをできるだけ小さくするところまでを目指す。</p>											
[到達目標]											
<p>古典ギリシア語アッティカ方言の基礎を習得することにより、辞書、文法書等を活用して各自が望むあるいは必要とするギリシア語原典 (紀元前8世紀の叙事詩から紀元後4世紀頃の擬古文まで) の読解に取りかかることができるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>まずは全36課の教科書を原則として一回に一課ずつ学習する。授業は教科書の構成に添って進めるが、それだけでは習得に必要な反復練習や知識のネットワーク化ができないので、必要に応じて何度でも既習事項の確認・復習や関連付けを行いながら進める。特に文法に関して、何よりもまず習得すべきは屈折 (いわゆる語形変化) なので、毎回授業開始時に前回学習した屈折を覚えているかを確認し、さらに教科書の練習問題を解いてもらう度にランダムに屈折の口頭練習を行うことにより知識の早期定着を図る。</p> <p>教科書終了後は、できるだけ受講者の希望を考慮に入れてテキストを決定し講読を行う。</p> <p>前期 第1回 イントロダクション、第1課「文字と発音」の解説 第2回 第1課の練習問題、第2課「アクセント」の解説 第3回 第1課と第2課の復習 第4回 第3課の解説 第5回 第3課の屈折表の暗記の確認および練習問題、第4課の解説 第6回～第30回 第5回と同様に授業の前半に前回指定した屈折表の暗記の確認と練習問題を行い、後半に次の課の解説を行う。</p> <p>後期 第31回～第38回 前期と同様に教科書の続きを学ぶ。</p>											
----- ギリシア語 (4時間コース) (語学)(2)へ続く -----											

ギリシア語（４時間コース）(語学)(2)

第 3 9 回 ~ 第 6 0 回 平易なテキストを講読する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（課題遂行状況、積極的な授業参加）に基づいて評価する。必要な場合、年度末に試験を行う。

出席数が全授業数の 4 分の 3 に満たない者には、理由の如何を問わず、単位を認定しない。

【教科書】

水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）ISBN:4000008293

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、十分に復習と予習をしたうえで出席すること。他人から入手した練習問題の解答を写すことは手直しを加えていようと予習ではない。必ず自分の力で予習を行わなければならない。予習・復習の具体的な方法は、授業中に詳しく指示する。

（その他（オフィスアワー等））

分からないことについては、遠慮をせずに積極的に質問すること。
授業の初めに前回学習したパラダイムの暗記の確認を行うので遅刻をしないこと。
遅刻は 3 回につき欠席 1 回とみなす。また、30 分以上の遅刻は欠席とみなす。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目25

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		ラテン語（初級I）（語学） Latin				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 勝又 泰洋			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語（初級I）									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の前半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
第1回～第14回：教科書第1節～第42節 定期試験 第15回：試験フィードバック											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
後期開講の「ラテン語（初級II）」とセットで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。											
【教科書】											
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- ラテン語（初級I）（語学）(2)へ続く -----											

ラテン語（初級I）（語学）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目26

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		ラテン語（初級II）（語学） Latin				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 勝又 泰洋			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語（初級II）									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の後半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
第1回～第14回：教科書第43節～第82節 定期試験 第15回：試験フィードバック											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
前期開講の「ラテン語（初級I）」とセットで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。											
【教科書】											
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- ラテン語（初級II）（語学）(2)へ続く -----											

ラテン語（初級Ⅱ）（語学）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目27

科目ナンバリング		U-LET49 29645 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ラテン語(4時間コース)(語学) Latin(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 佐藤 義尚			
配当 学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月2,金2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語(4時間コース)									
【授業の概要・目的】											
<p>ラテン語の初歩を学ぶことを目的とする。一年間、週に二回の授業を行う。 古代ローマから近世にいたるまで哲学、文学は言うに及ばず、法律、自然科学の書物もラテン語で書かれている。ラテン語は長期にわたって西欧文化の表現手段であった。西欧の諸言語、文化はラテン語という母胎から産み落とされてきたという事実はもう少し知られてもいいだろう。ラテン語を知らずして西欧の理解はありえない。</p>											
【到達目標】											
<p>古代、中世、近世にラテン語で書かれた文献が読解できるようになることを目標とする。 フランス語、イタリア語などの近代語を生み出した言語を学ぶことで、これらの言語の仕組みがより深く理解できるようになることを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業は教科書にそってすすむ。各課の文法事項を説明し、ラテン語和訳の練習問題を読む。動詞、名詞、形容詞の語形変化はプリントを配布して詳述する。一回の授業で二課ぐらいの進度ですすむ。ラテン語は単語の変化がすべてとも言える言語なので、変化の練習を繰り返し行い習熟を目指す。前期は文字、発音、アクセントから始まって、動詞、名詞の基本的な変化を中心に学び、後期は分詞、接続法などを学習する。後期のなかばで教科書を終え、簡単なラテン語を読んでいく。</p> <p>前期 第1回；ラテン語の仕組み。関連ウェブサイトの紹介。 第2回～第29回；一回に二課ぐらいの進度ですすむ。 第30回；学習到達度の評価</p> <p>後期 第1回～第15回；教科書を二課ずつすすみ、学習し終える。 第16回～第30回；平易なラテン語作品を文法事項を確認しながら読む。 後期定期試験。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点60点、試験40点で評価する。											
【教科書】											
<p>松平千秋・国原吉之助 『新ラテン文法』(東洋出版) ISBN:4-8096-4301-8 教科書だけではわかりにくいので、解説資料を配布する。</p>											
----- ラテン語(4時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

ラテン語（4時間コース）(語学)(2)

教科書巻末に語彙集がついているので、最初の段階では辞書不要。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で次回にやる練習問題を指示するのでそれを予習しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

ギリシア語既習であればラテン語学習はかなり容易。逆にラテン語を勉強すれば将来のギリシア語学習は容易になる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目28

科目ナンバリング		U-LET49 19661 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（初級I） Polish (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>前期では、名詞と動詞の活用を学ぶとともに、ポーランド語になれていきます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、前期ではその前半分を学習します。</p> <p>期末に映画も鑑賞し、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ポーランド語の基礎知識（文字、アクセント、語尾変化、発音など）【1週】 2．基本的な構文、格の基礎知識、名詞の主格、挨拶や自己紹介に関する語彙【1週】 3．基本動詞bycの変化、名詞の性の見極め方と性による形容詞の変化【1週】 4．ここまでの内容の確認と練習【1週】 5．名詞と形容詞の単数複数造格、日本語の「～である」に相当する主格と造格の使い分け【1週】 6．名詞の単数生格、panとpaniの用法【1週】 7．名詞と形容詞の複数主格、「あなたがた、皆さん」の言い方【1週】 8．ここまでの総復習、基本的な構文や語彙の確認【1週】 9．名詞の単数複数対格、動詞の第1変化（-m,-sz型）【1週】 10．動詞の第2変化（-e,-isz型）、名詞の単数複数与格、「知っている」に当たる表現【1週】 11．動詞の第3変化（-e,-esz型）、現在形の動詞変化のまとめ、名詞の単数複数前置格【1週】 12．sie動詞、ktoとcoの格変化、名詞の複数生格、数量を表す言葉【1週】 13．前期の総復習、格の使い分けや、基本的な構文の確認、語彙の復習【1週】 14．映画を鑑賞し、ポーランドの文化に触れる【1週】 15．定期試験【1週】 16．フィードバック【1週】 											
【履修要件】											
特になし											
----- ポーランド語（初級I）(2)へ続く -----											

ポーランド語（初級I）(2)

[成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス+ ポーランド語』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目29

科目ナンバリング		U-LET49 19662 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語 (初級I) Polish (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>後期では、動詞の時制や、ポーランド語における様々な構文を学びます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、後期ではその後半分を学習します。</p> <p>期末に映画の鑑賞などをして、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 . 否定生格という現象、呼格、基本的な助動詞の使い方【1週】 2 . 動詞の過去形、非人称文の過去時制、人称代名詞と再帰代名詞の格変化【1週】 3 . 動詞bycと一般動詞の合成未来形、時刻に関する表現、非人称文の未来時制、nie maの過去形と未来形【1週】 4 . 動詞のアスペクト、命令法、数詞と名詞の総合規則【1週】 5 . 命令法の続き、仮定法、miecの助動詞的な用法【1週】 6 . 移動の動詞isc/chodzic, jechac/jezdzicの用法、場所と移動の起点を表す前置詞【1週】 7 . 関係代名詞ktoryの用法【1週】 8 . ここまでの総復習、動詞の時制などの学習内容の確認【1週】 9 . 仮定法の用法の続き、関係副詞による複文の作り方、能動形容分詞、非人称動詞【1週】 10 . sieによる非人称構文、形容詞と副詞の比較変化【1週】 11 . 副分詞の作り方と用法、受動形容分詞と受動構文【1週】 12 . 非人称能動過去形と完了体動詞の副分詞、年月日の言い方【1週】 13 . 一年間の総復習、分かりにくかった点などを確認する【1週】 14 . ポーランドの文化に触れる【1週】 15 . 定期試験【1週】 16 . フィードバック【1週】 											
【履修要件】											
前期のポーランド語 (初級I) の受講など、ポーランド語の基礎知識が要求されます。											
----- ポーランド語 (初級I) (2)へ続く -----											

ポーランド語（初級I）(2)

[成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目30

科目ナンバリング		U-LET49 19642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（中級II）（語学） Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級II									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。											
【教科書】											
授業中に受講生と話し合っ決めて決めた資料を用意し配布します。											
【参考書等】											
（参考書）											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級Ⅱ）(語学)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目31

科目ナンバリング		U-LET49 19642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（中級II）（語学） Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。											
【教科書】											
授業中に受講生と話し合っただけ決めた資料を用意し配布します。											
【参考書等】											
（参考書）											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級Ⅱ）(語学)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目32

科目ナンバリング		U-LET49 19646 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語(初級)(語学) Russian I				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語やロシア文化に関心のある学生を対象として、ロシア語を一から勉強していきます。日本ではあまりなじみのない文字の書き方と発音から始めて、意外に日本語との類推が利く基本的な文法と構文、語彙を学習していきます。											
【到達目標】											
1) ロシア語で使用されているキリル文字とその発音を習得する。 2) ロシア語の基礎的な文法を習得する。											
【授業計画と内容】											
授業は配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。 序：文字と発音 第1課 「これはナターシャです」：平叙文 第2課 「私はナターシャではありません」：人称代名詞・疑問文・否定文 第3課 「これは私のスーツケースです」：所有代名詞・指示代名詞 第4課 「あそこに古い写真があります」：形容詞と名詞の性 第5課 「雑誌を読んでいます」：動詞現在形第1変化 第6課 「日本語を話します」：動詞現在形第2変化・複数形 第7課 「彼女はどこに住んでいるのですか」：不規則動詞と前置格 第8課 「電話を持っていますか」：所有の表現・命令形 第9課 「音楽を聴いているのですか」：不規則動詞と対格 第10課 「小包を送りたい」：運動の動詞と行先の表現 第11課 「日本文学を勉強していました」：動詞の過去形 第12課 「家にいました」：様々な過去時制 第13課 「今晚はお客様が来ます」：動詞の未来形・不規則動詞 第14課 「カサがありません」：生格の用法											
フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
【教科書】											
プリントを配付します。											
----- ロシア語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

ロシア語（初級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目33

科目ナンバリング		U-LET49 19647 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語（中級） Russian II				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語の初級を前年度に履修したか、それと同程度の基礎運用能力を習得している学生を対象として、ロシア語の基本文法の完成をめざします。											
【到達目標】											
1) ロシア語の基礎文法を完成させる。 2) 辞書を引けば、平易なロシア語を読めるようになる。											
【授業計画と内容】											
授業は、前年度初級に引き続き、配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。（第1回～第6回） 第15課 「夫にプレゼントを買いたいのです」：与格の表現 第16課 「紅茶は普通ミルクを入れて飲みます」：造格の表現 第17課 「日本料理店でアントンを見かけました」：活動体名詞の対格・形容詞の格変化 第18課 「それがアントンでないとどうして分かるのですか？」：動詞の完了体と不完了体 第19課 「捨てるのなら手伝います」：時制のまとめ・助動詞的用法 第20課 「もし私が鳥だったら」：仮定法 その後、ロシア語の文章を読むのに必要な文法事項をさらに学びます。（第7回～12回） ・関係詞 ・副動詞 ・形動詞 ・被動相 文法事項の確認を兼ねて、平易なロシア語の文章を読みます。（第13回～第14回） 第15回 まとめ フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
ロシア語（初級）を前年度に履修したか、それと同程度のロシア語能力を有していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
----- ロシア語（中級）(2)へ続く -----											

ロシア語（中級）（2）

[教科書]

プリントを配付します。

[参考書等]

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目34

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		スペイン語（初級）I Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（初級I）									
【授業の概要・目的】											
<p>スペイン語の発音および基礎文法（直説法まで）を教科書に沿って学習する。</p> <p>授業は文法事項の解説と例文訳読、練習問題、簡単なテキストや会話文の読解からなる。初級文法のうち直説法を一通り学習するので進度が速く、そのため予習と復習は必須である。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の発音のルールを理解し正しく発音できるようになる。 ・スペイン語の基本的な構造を理解し、直説法を用いた平易な文章を読解しまた作文できるようになる。 ・初級Ⅱ（接続法、命令法、初級文法発展）の学習に繋げる。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下のとおり教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。</p> <p>第1回：オリエンテーション、スペイン語の歴史と地理について略説、第0課導入 第2回：第0課 [アルファベット、母音と子音、アクセント] 第3回：第1課 [名詞、冠詞] 第4回：第2課 [主語人称代名詞、動詞 直説法現在形、否定文] 第5回：第3課 [動詞 ser, estar, hay、形容詞] 第6回：第4課 [所有詞、指示詞、疑問文と疑問詞] 第7回：第5課 [動詞 直説法現在形（2）、目的格人称代名詞] 第8回：第6課 [動詞 直説法現在形（3）、時刻表現、過去分詞、現在完了形] 第9回：第7課 [gustar構文、前置詞各人称代名詞、再帰動詞] 第10回：第8課 [動詞 直説法点過去] 第11回：第9課 [動詞 直説法線過去、不定語・否定語、現在分詞] 第12回：過去時制とアスペクトについて確認（教科書外の練習問題等を使用） 第13回：第10課 [動詞 直説法未来、関係詞（1）] 第14回：まとめと総括 期末試験 第15回：フィードバック</p>											
----- ス페인語（初級）I (2)へ続く -----											

スペイン語（初級）I (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

小テスト 20%（語彙や動詞活用等、既習事項の定着を図るため随時実施）
期末試験 80%（直説法の活用・用法を理解しているか判定する）

【教科書】

長谷川信弥 他 『これでわかる！スペイン語の初級』（朝日出版社,2016）ISBN:978-4-255-55078-7
必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。

【参考書等】

（参考書）

辞書 『現代スペイン語辞典』（白水社）

辞書 『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級まで対応した文法解説書）

【授業外学修（予習・復習）等】

進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）と予習（語彙調査、例文等の下訳、練習問題の解答、等）をした上で出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目35

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		スペイン語（初級）II Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（初級II）									
【授業の概要・目的】											
<p>「初級I」に続きスペイン語の初級文法を教科書に沿いながら接続法、命令法、条件法まで学習する。</p> <p>授業は文法事項の解説と例文訳読、練習問題、簡単なテキストや会話文の読解からなる。</p>											
【到達目標】											
<p>CEFRのA 1程度のレベルを修得する。</p> <p>辞書を用いて時間をかけて調べれば、日常生活にかかわるごく簡単なテキストなら意味を把握することができる。母語話者の補助があれば、挨拶など日常生活に最低限必要なコミュニケーションをとることができる。トイレ・出口といった市民生活に不可欠な街頭指示なら理解できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のとおり教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。</p> <p>第1回：オリエンテーション、第0課～10課の振り返り、接続法への導入 第2～3回：第11課 [動詞 接続法現在] 第4～5回：第12課 [動詞 命令形、感嘆文、動詞 直説法過去完了] 第6回：第13課 [比較表現、関係詞(2)] 第7～8回：第14課 [動詞 直説法過去未来、接続法過去] 第9～10回：文法発展 [動詞 - 直説法過去未来完了、条件文] 第11～14週：文法発展 [テキスト講読または中級文法] 期末試験 第15週：フィードバック</p> <p>第11週以降は履修生の関心領域なども踏まえて教科書外の教材を配布する。</p>											
【履修要件】											
<p>前期開講の「初級I」の学修者であること、もしくは同等（教科書第10課まで修了）のスペイン語知識を有していること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>小テスト 20%（語彙や動詞活用の定着を図るため随時実施する）</p>											
----- スペイン語（初級）II (2)へ続く -----											

スペイン語（初級）Ⅱ(2)

期末試験 80%（接続法を中心とした文法を理解しているか判定する）

[教科書]

長谷川信弥 他 『これでわかる！スペイン語の初級』（朝日出版社,2016）ISBN:978-4-255-55078-7
（初級Ⅰと同じ教科書である。）

[参考書等]

（参考書）

辞書 『現代スペイン語辞典』（白水社）

辞書 『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級まで対応した文法解説書）

上記のものでなくとも初修時に使用していた辞書、参考書があれば引き続き活用すること。

[授業外学修（予習・復習）等]

進度に沿って教科書各課および配布される教材の復習（既習事項の定着）と予習（語彙調査、例文等の下訳、練習問題の解答、等）をした上で出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目36

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		スペイン語（中級I）（語学） Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（中級I）									
【授業の概要・目的】											
教科書に沿ってスペイン語文法の根幹である各法・時制の動詞活用とその用法を再確認する。動詞活用や作文などやや多めの練習問題に取り組み、理解力だけでなく記述力も養成する。また各課で会話文を通し自然で日常的な表現に触れ、スペインの地理や歴史を紹介した平易なテキストを講読し読解力も高める。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・CEFRのA2程度のレベルを修得する。 ・辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の記事を読解することができる。 ・定型文を発展させて自らで文章を作ることができる。 ・スペイン語に関する知識と併せてスペインの文化に関する理解を深める。 ・中級Ⅱ（接続法、条件法など文法発展）の学習に繋げる。 											
【授業計画と内容】											
以下のとおり教科書に沿って進める。											
第1回 オリエンテーション、発音と初級文法（主に直説法現在）の復習 第2～3回 第1課 直説法の過去時制・講読「スペイン人の日常生活」 第4～5回 第2課 直説法の未来時制・講読「地理と社会」 第6～8回 第3課 再帰動詞・関係詞・講読「祭り」 第9～11回 第4課 再帰受身・無人称文・無意志表現・講読「歴史的文化財」 第12～14回 第5課 接続法（その1）規則変化・名詞節・講読「スペインの歴史」 期末試験 第15回 フィードバック											
<ul style="list-style-type: none"> ・各課とも「文法解説」「会話文」「練習問題」「テキスト講読」のサイクルで進める。 ・受講者の理解度を確認しながら進度を調節することもある。 ・必要に応じて補助的にプリント教材を挿入する。 											
【履修要件】											
スペイン語の初級文法（少なくとも接続法現在まで）が修得済みであること。											
----- スペイン語（中級I）（語学）(2)へ続く -----											

スペイン語（中級I）（語学）(2)

[成績評価の方法・観点]

小テスト 20% [語彙や動詞活用等、既習事項の定着を図るため随時実施]
期末試験 80% [直説法および接続法の用法を理解しているかを判定]

[教科書]

パロマ・トレナド 他 『プラサ・マヨールIIソフト版～ステップアップ・スペイン語～』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55026-8

[参考書等]

（参考書）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2
辞書は初修時に使っていたものを引き続き活用すること。

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）、予習（語彙調べ、練習問題の解答、テキストの下訳）のうえ授業に参加すること。

（その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目37

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		スペイン語（中級II）（語学） Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（中級II）									
【授業の概要・目的】											
<p>「スペイン語文中級I」を発展させ、教科書に沿って接続法および条件法の用法を再確認する。動詞活用や作文など多めの練習問題に取り組み、理解力だけでなく記述力も養成する。また各課で会話文を通し自然で日常的な表現に触れ、スペインの地理や歴史を紹介した平易なテキストを講読し読解力も高める。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・CEFRのA2からB1程度のレベルを修得する。 ・辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の論説文や簡単な文芸作品を読解することができる。 ・定型文を発展させて自らで文章を作ることができる。 ・スペイン語に関する知識と併せてスペインの文化に関する理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
以下のとおり教科書に沿って進める。											
<p>第1回 オリエンテーション、第5課 接続法（その1）の復習 第2～4回 第6課 接続法（その2）形容詞節・現在完了・講読「絵画と美術」 第5～7回 第7課 接続法（その3）副詞節・独立文・講読「セルバンテスとドン・キホーテ」 第8～10回 第8課 接続法の過去・過去完了・講読「20世紀のスペイン」 第11～13回 第9課 条件文・講読「スペイン語」 第14回 文法補足〔比較表現・命令文など〕 期末試験 第15回 フィードバック</p>											
<ul style="list-style-type: none"> ・各課とも「文法解説」「会話文」「練習問題」「テキスト講読」のサイクルで進める。 ・受講者の理解度を確認しながら進度を調節することもある。 ・必要に応じて補助的にプリント教材を挿入する。 											
【履修要件】											
<p>スペイン語の初級文法（少なくとも接続法現在まで）が修得済みであること。</p> <p>スペイン語（中級I）を修了していることが望ましいが、未修の場合は同科目のシラバスを参照し、教科書の第6課までの内容を理解し、文法事項を復習しておくこと。</p>											
----- スペイン語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

スペイン語（中級Ⅱ）（語学）(2)

【成績評価の方法・観点】

小テスト 20% [語彙や動詞活用等、既習事項の定着を図るため随時実施]
期末試験 80% [接続法や条件法の用法を理解しているかを判定]

【教科書】

パロマ・トレナド 他 『プラサ・マヨールⅡソフト版～ステップアップ・スペイン語～』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55026-8（スペイン語（中級Ⅱ）と同じ教科書である。）

【参考書等】

（参考書）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2
辞書は初修時に使っていたものがあれば引き続き活用すること。

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）、予習（語彙調べ、練習問題の解答、テキストの下訳）のうえ授業に参加すること。

（その他（オフィスアワー等））

教員メール [konishi.sakiko.45s](mailto:konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp) アットマーク st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目38

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		イタリア語（初級4時間コース）I Italian(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 菅野 類			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2,木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イタリア語（初級I）									
【授業の概要・目的】											
<p>イタリア語文法の基礎を学習し、読み書きに必要な知識の習得を目指す。 授業の進め方としては、文法解説の後で練習問題を解いてもらい、知識の定着を図るというオーソ ドックスなものを想定している。 イタリア語やロマンス諸語に興味のある初学者を対象とする。</p>											
【到達目標】											
<p>現在・過去・未来の各時制と代名詞の使い方を学習し、簡単な読み書きとコミュニケーションがで できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1週：オリエンテーションと発音 第2週：Lezione 1 [名詞、冠詞] 第3週：Lezione 2 [動詞 essere と avere] 第4週：Lezione 3 [形容詞] 第5週：Lezione 4 [直説法現在・規則動詞] 第6週：Lezione 5 [直説法現在・不規則動詞] 第7週：Lezione 6 [人称代名詞] 第8週：Lezione 7 [再起動詞] 第9週：テストと解説 第10週：Lezione 8 [命令法] 第11週：Lezione 9 [直説法近過去] 第12週：Lezione 10 [直説法半過去・大過去] 第13週：Lezione 11 [直説法未来・先立未来] 第14週：Lezione 12 [受動態] 第15週：テストと解説</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>各課の締めくくりで行う小テスト（30%） 前期中2回行うまとめのテスト(70%)</p>											
【教科書】											
杉本 裕之 『基礎イタリア語講座 - CD付き改訂版 - 』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55311-5											
----- イタリア語（初級4時間コース）I(2)へ続く -----											

イタリア語（初級4時間コース）I(2)

[参考書等]

（参考書）

『伊和中辞典』（小学館）ISBN:4095154020

『プリーモ伊和辞典』（白水社）ISBN:4560000859

[授業外学修（予習・復習）等]

各授業の前に60分前後の予習が求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目39

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		イタリア語（初級4時間コース）II Italian(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 菅野 類			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2,木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イタリア語（初級II）									
[授業の概要・目的]											
イタリア語文法の基礎を学習済みの学生を対象に、イタリア語で書かれたテキストを読むために必要な知識や技術を習得する。											
[到達目標]											
条件法や接続法といった動詞の性質を理解し、現代イタリアの短編小説やWeb上の情報を自立的に読めるようになる。											
[授業計画と内容]											
第1週：Lezione 13 [比較級・最上級] 第2週：Lezione 14 [関係詞] 第3週：Lezione 15 [ジェルンディオ・ciとneの解説] 第4週：Lezione 16 [条件法] 第5週：Lezione 17 [接続法] 第6週：Lezione 17 [接続法・仮定文] 第7週：テスト 第8 - 14週：遠過去および講読 第15週：テスト・フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
各課終了ごとの小テスト(30%) 後期に2回行われるまとめのテスト(70%)											
[教科書]											
杉本 裕之 『基礎イタリア語講座 - CD付き改訂版 - 』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55311-5 講読用のテキストは適宜こちらが用意する。											
[参考書等]											
（参考書） 『伊和中辞典』（小学館）ISBN:4095154020 『プリーモ伊和辞典』（白水社）ISBN:4560000859											
[授業外学修（予習・復習）等]											
各授業前に60分前後の予習が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

学部共通科目40

科目ナンバリング		U-LET49 29663 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イタリア語（会話） Spoken Italian				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	イタリア語
題目		Corso di conversazione in italiano (livello intermedio)									
【授業の概要・目的】											
<p>Attraverso un viaggio virtuale alla scoperta dell' Italia, il corso si propone di fornire gli strumenti per la conversazione su un' ampia varietà di argomenti, che includono l' arte e la musica, la letteratura e il cinema, tra tradizione e innovazione. Città dopo città, gli studenti impareranno a conoscere gli aspetti più affascinanti della cultura italiana, familiarizzeranno con il lessico della vita quotidiana, dei viaggi e del tempo libero. In questo modo acquisiranno una più sicura padronanza della lingua italiana, in particolare nella sua produzione orale, ampliando il loro vocabolario, migliorando la pronuncia, e rafforzando le competenze grammaticali e sintattiche.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti perfezioneranno la propria competenza della lingua italiana. Impareranno a gestire al meglio le funzioni comunicative fondamentali e acquisiranno familiarità con la conversazione su argomenti essenziali della vita quotidiana; dimostreranno buona conoscenza delle strutture grammaticali e del vocabolario di base in periodiche esercitazioni. Saranno in grado di guardare e discutere un film in lingua, di progettare una presentazione orale e di eseguirla di fronte alla classe.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Corso di conversazione in italiano (livello intermedio)</p> <p>1: “ Prima di partire ” : introduzione</p> <p>2-13: “ Viaggio in Italia ” : le tappe del viaggio includono alcune delle più belle città della Penisola e la conversazione su temi centrali della cultura italiana: l' arte e i musei, la poesia e la letteratura, la cucina, la moda, il teatro, la musica e il cinema. Nella definizione dell' itinerario di viaggio verranno tenuti in particolare considerazione gli interessi degli studenti. Una lezione sarà dedicata alla proiezione e al commento un importante film italiano.</p> <p>14-15: “ Racconta il tuo viaggio ” : presentazioni orali preparate dagli studenti su un aspetto della cultura italiana che ha suscitato il loro interesse.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
<p>Questo corso è rivolto agli studenti di italiano elementare e intermedio di tutte le facoltà.</p>											
----- イタリア語（会話）(2)へ続く -----											

イタリア語（会話）(2)

[成績評価の方法・観点]

La valutazione sarà basata sulla partecipazione attiva alle lezioni, sulle esercitazioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni è fondamentale per superare l' esame. È consentita una sola assenza.

[教科書]

Handouts

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture ed esercitazioni da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

（その他（オフィスアワー等））

L' orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目41

科目ナンバリング		U-LET49 29663 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イタリア語（会話） Spoken Italian				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	イタリア語
題目		Corso di conversazione in italiano (livello intermedio)									
【授業の概要・目的】											
<p>Attraverso un viaggio virtuale alla scoperta dell' Italia, il corso si propone di fornire gli strumenti per la conversazione su un' ampia varietà di argomenti, che includono l' arte e la musica, la letteratura e il cinema, tra tradizione e innovazione. Città dopo città, gli studenti impareranno a conoscere gli aspetti più affascinanti della cultura italiana, familiarizzeranno con il lessico della vita quotidiana, dei viaggi e del tempo libero. In questo modo acquisiranno una più sicura padronanza della lingua italiana, ampliando il loro vocabolario, migliorando la pronuncia, e rafforzando le competenze grammaticali e sintattiche.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti perfezioneranno la propria competenza della lingua italiana. Impareranno a gestire al meglio le funzioni comunicative fondamentali e acquisiranno familiarità con la conversazione su argomenti essenziali della vita quotidiana; dimostreranno buona conoscenza delle strutture grammaticali e del vocabolario di base in periodiche esercitazioni. Saranno in grado di guardare e discutere un film in lingua, di progettare una presentazione orale e di eseguirla di fronte alla classe.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Corso di conversazione in italiano (livello intermedio)</p> <p>1: “ Prima di partire ” : introduzione</p> <p>2-13: “ Viaggio in Italia ” : le tappe del viaggio includono alcune delle più belle città della Penisola e la conversazione su temi centrali della cultura italiana: l' arte e i musei, la poesia e la letteratura, la cucina, la moda, il teatro, la musica e il cinema. Nella definizione dell' itinerario di viaggio verranno tenuti in particolare considerazione gli interessi degli studenti. Una lezione sarà dedicata alla proiezione e al commento di un importante film italiano.</p> <p>14-15: “ Racconta il tuo viaggio ” : presentazioni orali preparate dagli studenti su un aspetto della cultura italiana che ha suscitato il loro interesse.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
<p>Questo corso è rivolto agli studenti di italiano elementare e intermedio di tutte le facoltà.</p>											
----- イタリア語（会話）(2)へ続く -----											

イタリア語（会話）(2)

[成績評価の方法・観点]

La valutazione sarà basata sulla partecipazione attiva alle lezioni, sulle esercitazioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni è fondamentale per superare l' esame. È consentita una sola assenza.

[教科書]

Handouts

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture ed esercitazioni da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

（その他（オフィスアワー等））

L' orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目42

科目ナンバリング		U-LET49 29604 LJ48									
授業科目名 <英訳>		アラブ語(初級)(語学) Arabic				担当者所属・ 職名・氏名		国立民族学博物館 グローバル現象研究部 教授 西尾 哲夫			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	木2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		アラビア語の初級									
【授業の概要・目的】											
<p>前期の授業は、オンライン形式で実施する。 アラビア語は、西はモロッコから東はイラクまでの中東・北アフリカ諸国で使われており、およそ一億五千万人の母語となっている。またイスラム教(イスラーム)の聖典『コーラン(クルアーン)』はアラビア語で書かれているため、南アジア・東南アジア・中国などのムスリム(イスラム教徒)もアラビア語の知識をもっている。 この授業では、アラビア語の文字の書き方からはじめ、初級程度の文法事項をおしえる。</p>											
【到達目標】											
アラビア文字が読めて書けるようになる。また基本的単語については、弱子音を語根に含む単語についてアラビア語の辞書が引けるようになる。基本的な文章表現について読む・書く・話ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
(1) アラビア語についての概説(1回目) (2) アラビア語学習法の概説(1回目) (3) アラビア文字(2回目から5回目) (4) 名詞(3回目) (5) 冠詞(4回目) (6) 名詞の格変化(5回目) (7) 規則複数(6回目) (8) 形容詞の用法(7回目) (9) 疑問文(8回目) (10) 場所の前置詞(9回目) (11) これまでの復習(10回目) (12) 存在文(11回目) (13) 国名とニスバ形容詞(12回目) (14) 数字の書き方と1~10までの数詞(13回目) (15) 不規則複数(1)(14回目) (16) 色の表現(15回目) (17) 動詞完了形(16回目) (18) 辞書の引き方(17回目) (19) 不規則複数(2)(18回目) (20) 11~100までの数詞(19回目) (21) これまでの復習(20回目) (22) 曜日の表現(21回目) (23) 動詞未完形(22回目) (24) 名詞文と動詞文(語順)(23回目) (25) 時間表現(24回目)											
----- アラブ語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

アラブ語（初級）(語学)(2)

- (26) 比較表現 (25回目)
- (27) 弱動詞 (26回目)
- (28) 動詞派生形 (1) (27回目)
- (29) 未来表現 (28回目)
- (30) 動詞派生形 (2) (29回目)
- (31) これまでの復習と今後の学習方法 (30回目)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。出席を重視し、欠席が多い場合には単位を認めない。前期についてはオンラインで実施し、当該授業資料をダウンロードして学習した場合に出席したものとみなす。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

西尾哲夫 『言葉から文化を読む アラビアンナイトの言語世界』(臨川書店)(とくに現代アラブ世界の言語状況についてふれた第1章)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業毎に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目43

科目ナンバリング		U-LET49 39608 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イラン語（初級）（語学） Iranian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語大学 国際言語平和研究所 嘱託研究員 杉山 雅樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イラン語（初級）									
【授業の概要・目的】											
イランの公用語であるペルシア語の初級を学ぶ。基本文法、基礎単語を修得し、初級レベルの総合的なペルシア語力を養うことを目的とする。											
【到達目標】											
基本的なペルシア語の文法規則・単語を習得することにより、平易な文章であれば辞書を使用しつつ読むことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
（前期）											
第1回 インTRODクシヨン、文字											
第2回 発音と表記の注意点											
第3回 名詞、基本的な文章、疑問詞											
第4回 形容詞、エザーフエ、人称代名詞											
第5回 過去形、前置詞											
第6回 現在形 ・複合動詞											
第7回 現在形 ・未来形、副詞											
第8回 現在完了形・命令形											
第9回 仮説法、助動詞											
第10回 助動詞 、人称代名詞 、受動態											
第11回 接続詞											
第12回 関係詞、祈願文、副詞											
第13回 接続詞 、複合動詞 、過去分詞、現在分詞、その他											
第14回 確認テスト（1）、数詞											
第15回 フィードバック											
（後期）											
第16回 前期授業の復習、複雑な構造の文章 以降の授業では、平易なペルシア語のテキストを継続的に読み進める											
第17～28回 テキスト読解（1）～（12）											
第29回 後期授業の総括および確認テスト（2）											
第30回 フィードバック											
前期には文字の読み方や書き方を練習しつつ、基本的な文法や単語を学ぶ。後期には簡単な物語等を扱い、読解力の基礎を身につける。 原則として、前期の文法の授業では毎回復習のための小テストを行う。											
----- イラン語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

イラン語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価

前期（基礎文法）は、小テスト（50点）、確認テスト（50点）

後期（テキスト読解）は、予習の取り組み（50点）、確認テスト（50点）

【教科書】

授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

特に後期の授業では、黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』（大学書林）などペルシア語辞書を用いて予習する必要がある。

その他の辞書や文法書など参考になる文献については、授業中に指示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

文字の書き方、基本文法、基礎単語の修得が中心となる前期においては、毎授業後十分に復習をし、次の授業の冒頭に行われる小テストに備えること。

簡単な物語等を読み進める後期においては、各自辞書で単語を調べて訳文を作成しておくなど予習が必須である。

（その他（オフィスアワー等））

質問等があれば、sugiyama.masaki.25z@st.kyoto-u.ac.jpにご連絡下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目44

科目ナンバリング		U-LET49 39620 LJ48									
授業科目名 <英訳>		シュメール語（初級）（語学） Sumerian				担当者所属・ 職名・氏名		国士舘大学 イラク古代文化研究所 研究員 森 若葉			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介									
[授業の概要・目的]											
<p>古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。</p> <p>この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。</p> <p>文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の解読についてもふれる。</p> <p>比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。</p>											
[到達目標]											
<p>世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する。</p> <p>また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。</p> <p><前期> 楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。</p> <p>第1回 シュメール語の背景 メソポタミア文明の世界について</p> <p>第2回 シュメール語と楔形文字について</p> <p>第3回 楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）</p> <p>第4回 楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）</p> <p>第5回 シュメール語文法（1）、楔形文字文献について</p> <p>第6回 シュメール語文法（2）、王碑文を読む</p> <p>第7回 シュメール語文法（3）、王碑文を読む</p> <p>第8回 シュメール語文法（4）、行政文書を読む</p> <p>第9回 楔形文字粘土板・円筒印章実習 - 粘土板と印章を作成</p> <p>第10回 シュメール語文法（5）、行政文書を読む</p> <p>第11回 シュメール文学の紹介</p> <p>第12回 シュメール文学作品を読む</p> <p>第13回 シュメール・メソポタミアの「法典」紹介</p> <p>第14回 裁判記録を読む</p> <p>第15回 行政文書・裁判記録を読む</p>											
										シュメール語（初級）（語学）(2)へ続く	

シュメール語（初級）(語学)(2)

<後期>

文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。

- 第1回 文献から見るシュメールの生活
- 第2回 シュメール語文法（6）、行政文書を読む
- 第3回 シュメール語文法（7）、行政文書を読む
- 第4回 シュメール語文法（8）、行政文書を読む
- 第5回 シュメール文学作品を読む
- 第6回 シュメール語文法（9）、行政文書を読む
- 第7回 シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
- 第8回 京都大学総合博物館所蔵資料紹介
- 第9回 京都大学総合博物館所蔵資料を読む
- 第10回 京都大学総合博物館粘土板見学実習
- 第11回 シュメール文学作品を読む
- 第12回 シュメール文学作品、王碑文を読む
- 第13回 行政文書、王碑文を読む
- 第14回 行政文書、王碑文を読む
- 第15回 まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定。

[教科書]

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。
楔形文字の実習の際、粘土やカッターナイフ等を各自用意してもらう必要がある。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目45

科目ナンバリング		U-LET49 29612 LJ48									
授業科目名 <英訳>		オランダ語（初級）（語学） Dutch				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究所 教授 河崎 靖			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		オランダ語初級									
[授業の概要・目的]											
オランダ語の総合的な語学力を養成することを目標とする。											
[到達目標]											
CEFRのおよそA1/A2レベルの語学力を目指す。											
[授業計画と内容]											
入門レベルの文法解説から始め（第1～5回、各回：発音・人称変化・代名詞など）、話す・聴く能力を高めるドリルも行い（第6～10回、各回：助動詞・時制・前置詞など）、併せて、ランデスキュンデ的な情報を盛り込む（第11～15回、各回：受動態・erの用法・指小辞など）。専門分野を問わず熱心な参加（予習・復習ふくめ）を期待する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
基本的に平常点による。積極的な授業参加が望まれる。											
[教科書]											
使用しない こちらで教材を準備する。											
[参考書等]											
（参考書） 河崎 靖 『オランダ語の基礎』（白水社） 河崎 靖 『オランダ語学への誘い』（大学書林）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
こちらで用意する教材を、授業の前後（予習・復習）確実に準備してもらう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

学部共通科目46

科目ナンバリング		U-LET49 29613 LJ48									
授業科目名 <英訳>		オランダ語（中級）（語学） Dutch				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 河崎 靖			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		オランダ語 初・中級									
[授業の概要・目的]											
オランダ語の総合的な語学力を養成することを目標とする。											
[到達目標]											
CEFRでB1レベルに達することを目指す。											
[授業計画と内容]											
入門レベルの文法解説から始め（第1～5回、各回：発音・人称変化・代名詞など）、話す・聴く能力を高めるドリルも行い（第6～10回、各回：助動詞・時制・前置詞など）、併せて、ランデスクンデ的な情報を盛り込む（第11～15回、各回：受動態・erの用法・指小辞など）。専門分野を問わず熱心な参加（予習・復習ふくめ）を期待する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
基本的に平常点による。積極的な授業参加が望まれる。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 河崎 靖 『オランダ語の基礎』（白水社） 河崎 靖 『低地諸国の言語事情』（大学書林）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
こちらで用意する教材を、授業の前後（予習・復習）確実に準備してもらう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

学部共通科目47

科目ナンバリング		U-LET49 29624 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（初級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語（初級）									
【授業の概要・目的】											
<p>バンツー諸語に属すスワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。テキストを用いた会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。また、テキストの会話表現には社会的・文化的事象が多く含まれる。その背景についての補足説明によって、東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。関連する実物や画像は授業中に紹介される。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てることができる 3：短い日常会話の流れを把握できる 4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション / スワヒリ語文法の概要 第2回 第1課 / 現在時制 第3回 第2課 / コピュラ文 第4回 第4課 / 所有表現 第5回 第5課 / 未来時制 第6回 名詞クラス 第7回 第3課 / 存在表現 第8回 第1～5課の復習と補足説明 第9回 第6課 / あいさつ表現 第10回 第7課 / 過去時制 第11回 第8課 / 完了時制 第12回 第9課 / 形容詞 第13回 第10課 / 接続形 第14回 第6～10課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（初級）(語学)(2)へ続く -----											

スワヒリ語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習状況などの平常点（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目48

科目ナンバリング		U-LET49 29625 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（中級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語（中級）									
【授業の概要・目的】											
<p>テキストはスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。テキストの基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその社会・文化的背景についても説明し、関連する実物や画像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解する 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話すことができる 3：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる 4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション / 第1～10課の復習 第2回 第11課 / 時間 第3回 第12課 / 指示詞 第4回 第13課 / 使役 第5回 第14課 / 条件節 第6回 関係節 第7回 第15課 / 受身 第8回 第11～15課の復習と補足説明 第9回 第16課 / 相互形 第10回 第17課 / 仮想時制 第11回 第18課 / 複合時制 第12回 第19課 / ことわざ・なぞなぞ 第13回 第20課 / 手紙の書き方 第14回 第16～20課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

スワヒリ語（中級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習状況などの平常点（30％）、期末試験の結果（70％）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目49

科目ナンバリング		U-LET49 29648 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語（初級A）(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 外国語学部 助教 杉山 豊			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語（初級）									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。											
【到達目標】											
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。											
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：文字(1)（第1課相当）</p> <p>第3回：文字(2)（第1課相当）</p> <p>第4回：発音(1)（第2課相当）</p> <p>第5回：発音(2)（第2課相当）</p> <p>第6回：単語の表記(1)（第3課相当）</p> <p>第7回：単語の表記(2)（第3課相当）</p> <p>第8回：単語の発音(1)（第4課相当）</p> <p>第9回：単語の発音(2)（第4課相当）</p> <p>第10回：現在終止形（上称体）（第5課相当）</p> <p>第11回：名詞と助詞（第6課相当）</p> <p>第12回：数詞と助数詞(1)（第7課相当）</p> <p>第13回：数詞と助数詞(2)（第7課相当）</p> <p>第14回：否定と肯定（第8課相当）</p> <p>第15回：期末試験・フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30点）と学期末試験（70点）。											
----- 朝鮮語（初級A）(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（初級A）(語学)(2)

[教科書]

松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

（その他（オフィスアワー等））

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目50

科目ナンバリング		U-LET49 29649 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語（初級B）(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 外国語学部 助教 杉山 豊			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語（初級）									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。											
【到達目標】											
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。											
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：略待上称体(1)（第9課相当）</p> <p>第3回：略待上称体(2)（第9課相当）</p> <p>第4回：変則用言(1)（第10課相当）</p> <p>第5回：変則用言(2)（第10課相当）</p> <p>第6回：過去終止形（第11課相当）</p> <p>第7回：未来終止形（第12課相当）</p> <p>第8回：敬語形（第13課相当）</p> <p>第9回：命令・勧誘・禁止（第14課相当）</p> <p>第10回：連用形（第15課相当）</p> <p>第11回：連体形（第16課相当）</p> <p>第12回：各種接続語尾（第17課相当）</p> <p>第13回：各種補助用言（第18課相当）</p> <p>第14回：各種補助用言(第18課相当)</p> <p>第15回：期末試験・フィードバック</p>											
【履修要件】											
前期よりの継続なので、前期に初級を履修しているか、またはそれと同等の学習歴のある者。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30点）と学期末試験（70点）。											
----- 朝鮮語（初級B）(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（初級B）(語学)(2)

[教科書]

松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

（その他（オフィスアワー等））

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目51

科目ナンバリング		U-LET49 29650 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語(中級A)(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 外国語学部 教授 朴 真完			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語(中級)									
【授業の概要・目的】											
<p>朝鮮語文法における用言の活用、助詞の用法、接続語尾にいたるまで、中級文法を一通り解説する。各課の内容は以下の文法事項のほか、簡単な会話を含む。文法説明は講義形式で行うが、会話と読解はペア練習または発表形式で練習する。また、適宜文化、歴史の話題を折り込み韓国・朝鮮についての理解も深めてゆきたい。</p>											
【到達目標】											
中級朝鮮語文法を身につけ、会話において直接その知識を活用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 発音の注意点 第2回 音変化 第3回 発音の注意点 第4回 丁寧語尾(平叙) 第5回 丁寧語尾(疑問) 第6回 尊敬 第7回 接続語尾 第8回 時制(過去) 第9回 時制(未来) 第10回 連体形 第11回 助詞の形式と用法 第12回 変則活用 1 第13回 変則活用 2 第14回 数詞と助数詞 第15回 期末試験、フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業での発表(20点)、小テスト(1回、20点)、期末試験(60点)											
----- 朝鮮語(中級A)(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（中級A）(語学)(2)

[教科書]

熊谷明泰 『アリラン』（朝日出版社）ISBN:978-4255556185

[参考書等]

（参考書）

油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『朝鮮語辞典』（小学館）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業は教科書に沿って行うので、授業前に次回の内容を予習して下さい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目52

科目ナンバリング		U-LET49 29651 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語（中級B）(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 外国語学部 教授 朴 真完			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語（中級）									
【授業の概要・目的】											
中級レベルの文法、発音、会話、作文、読解を学習する。主要テーマとして日韓交流の歴史を挙げ、語学だけではなく、文化・社会・歴的事項も視野に入れ、総合的に韓国・朝鮮の諸般事情について情報を与える。授業内容の理解を確認するために小テストを実施する。必要に応じて、プリント教材を配布して内容の理解を助ける。											
【到達目標】											
中級朝鮮語文法を身につけ、会話において直接その知識を活用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 受け身 第2回 名詞化語尾 第3回 形容詞からの派生動詞 1 第4回 形容詞からの派生動詞 2 第5回 選択否定 第6回 限定 第7回 引用 第8回 漢字語 1 第9回 漢字語 2 第10回 主要な助詞 1 第11回 主要な助詞 2 第12回 主要な語尾 1 第13回 主要な語尾 2 第14回 疑問形 第15回 期末試験、フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業での発表（20点）、小テスト（1回、20点）、期末試験（60点）											
----- 朝鮮語（中級B）(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（中級B）(語学)(2)

[教科書]

曹美庚, 林炫情, 金眞 『韓国文化を読む』（朝日出版社）ISBN:978-4255556147

[参考書等]

（参考書）

油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『朝鮮語辞典』（小学館）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業は教科書に沿って行うので、授業前に次回の内容を予習して下さい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目53

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		古代エジプト語・コプト語（初級） Ancient Egyptian and Coptic				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 宮川 創			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		中エジプト語とコプト語の基礎									
[授業の概要・目的]											
5,000年以上の書記記録を持つエジプト語の様々な変種の文法を学び、文法化・語彙化・音韻変化など歴史言語学で扱われる様々な事象を分析する。背景となった古代エジプトやコプトの歴史・宗教・文化についても学ぶ。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒエログリフとコプト文字を読めるようになる。 ・中エジプト語とコプト語の文法を学んでこれらの言語のテキストの基礎的な文法解析ができるようになる。 ・中エジプト語とコプト語という同一言語の異なる通時的言語変種を学び、言語変異を分析できるようになる。 											
[授業計画と内容]											
エジプト語は紀元前34～32世紀頃から現代まで文字記録があり、様々な言語変種がある。											
この「古代エジプト語・コプト語（初級）」の授業では、古代エジプト語の中、古典語となった中エジプト語と古代エジプト語の解読の鍵となった、古代エジプト語の直接の末裔であるコプト語について学ぶ。											
中エジプト語は、紀元前23世紀頃から使われ、『シヌへの物語』など古代エジプト文学の白眉となる作品を多数生み出した。その後、紀元後4世紀まで、古典語として用いられ、古代エジプト文明を象徴するエジプト語の一変種となった。この言語は、ヒエログリフとヒエラティックという2種類の文字で書かれた。											
これに対して、コプト語はエジプト語の最終段階であり、ギリシア文字24文字に6#123167程度の民衆文字由来の文字を加えたコプト文字で書かれたエジプト語である。コプト語は、『トマスによる福音書』などのグノーシス主義の文献、『ケファライア』などのマニ教文献、様々な初期キリスト教の文献など、宗教学上重要な文献を多く有している言語であり、現在でもコプト・キリスト教会で典礼言語として用いられている。											
この授業では、エジプト語のこれらの2つの言語変種の文字・文法を学びながら、エジプト語の言語変化について深く分析する言語学的能力を身につける。その他、古代エジプトの歴史や宗教文化などの周辺事項についても学ぶ。											
第1回 古代エジプトとエジプト語の歴史 第2回 ヒエログリフとコプト文字（1） 第3回 ヒエログリフとコプト文字（2） 第4回 中エジプト語とコプト語の名詞 第5回 中エジプト語とコプト語の形容詞											
----- 古代エジプト語・コプト語（初級）(2)へ続く -----											

古代エジプト語・コプト語（初級）(2)

- 第6回 中エジプト語とコプト語の前置詞
第7回 中エジプト語とコプト語の動詞
第8回 中エジプト語とコプト語の文型
第9回 中エジプト語とコプト語のその他の文法事項
第10回 コプト語『トマスによる福音書』を読む（1）
第11回 コプト語『トマスによる福音書』を読む（2）
第12回 コプト語『トマスによる福音書』を読む（3）
第13回 中エジプト語『難破した水夫の物語』を読む（1）
第14回 中エジプト語『難破した水夫の物語』を読む（2）
第15回 中エジプト語『難破した水夫の物語』を読む（3）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業への貢献、練習問題、課題など）60％・期末レポート40％

【教科書】

講師が用意する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習・復習となる練習問題や課題が課される。

（その他（オフィスアワー等））

研究室（文系学部校舎406室）でも質問や相談を受け付けます。月曜日2限目をオフィスアワーとします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目54

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		古代エジプト語・コプト語（中級） Coptic and Ancient Egyptian				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 宮川 創			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		中エジプト語とコプト語の知識を活用して古エジプト語、新エジプト語、民衆文字エジプト語を学ぶ									
【授業の概要・目的】											
5,000年以上の書記記録を持つエジプト語の様々な変種の文法を学び、文法化・語彙化・音韻変化など歴史言語学で扱われる様々な事象を分析する。背景となった古代エジプトやコプトの歴史・宗教・文化についても学ぶ。											
【到達目標】											
「古代エジプト語・コプト語（初級）」で学んだ中エジプト語とコプト語の知識を活用して、他の古代エジプト語の変種、すなわち、古エジプト語、新エジプト語、民衆文字エジプト語の文法知識を身につけ、エジプト語の歴史変化をより深く分析できるようになる。											
【授業計画と内容】											
「古代エジプト語・コプト語（初級）」で学んだ中エジプト語とコプト語の知識を用いて、古エジプト語、新エジプト語、民衆文字エジプト語を学ぶ。											
古エジプト語は、主に紀元前27世紀から紀元前21世紀ころまで用いられ、最大のコーパスは第5王朝・第6王朝・第8王朝の王や王妃のピラミッドの内部にヒエログリフで刻まれている『ピラミッド・テキスト』である。古エジプト語は中エジプト語に似るが、相違点も多数ある。											
新エジプト語は、紀元前14世紀から紀元前4世紀まで用いられ、特に新王国第19王朝・第20王朝で発達した、口語に近い言語変種を書き記したものである。新エジプト語の文法は、中エジプト語の要素を残しながらも、コプト語に近くなっている。テキストのジャンルとしては、物語、恋愛詩、宗教詩などがある。											
民衆文字エジプト語は、紀元前8世紀から紀元後5世紀まで用いられ、民衆文字で表された。当時の口語をある程度反映しているものと思われ、文法はコプト語に極めて似ている。ロゼッタストーンの中段に書かれている言語もこの民衆文字エジプト語であり、物語、知恵文学から裁判記録や日常のメモや手紙など様々な文献がある。											
第1回 古エジプト語の文法（1）											
第2回 古エジプト語の文法（2）											
第3回 古エジプト語の文法（3）											
第4回 古エジプト語『ピラミッド・テキスト』読解（1）											
第5回 古エジプト語『ピラミッド・テキスト』読解（2）											
第6回 新エジプト語の文法（1）											
第7回 新エジプト語の文法（2）											
第8回 新エジプト語の文法（3）											
第9回 新エジプト語『呪われた王子』読解（1）											
第10回 新エジプト語『呪われた王子』読解（2）											
----- 古代エジプト語・コプト語（中級）(2)へ続く -----											

古代エジプト語・コプト語（中級）(2)

第11回 民衆文字エジプト語の文字と文法（1）

第12回 民衆文字エジプト語の文字と文法（2）

第13回 民衆文字エジプト語の文字と文法（3）

第14回 民衆文字エジプト語『セトネ・カエムワセトの物語』読解（1）

第15回 民衆文字エジプト語『セトネ・カエムワセトの物語』読解（2）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業への貢献、練習問題、課題など）60％・期末レポート40％

【教科書】

講師が用意する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習・復習となる練習問題や課題が課される。

（その他（オフィスアワー等））

研究室（文系学部校舎406室）でも質問や相談を受け付けます。月曜日2限目をオフィスアワーとします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目55

科目ナンバリング		U-LET49 29635 LJ48									
授業科目名 <英訳>		フランス語 (中級) (語学) French				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Raphaelle BRIN			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	語学	使用 言語	フランス語
題目		Intermediate French									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is for students who have already studied French for one year or more. It will provide them with the opportunity to systematize and reinforce their knowledge of French vocabulary, grammar, pronunciation and culture, and allow them to work further on their command of written and spoken French.</p> <p>At the end of the year, students should be able to pass the intermediate French proficiency test designed by the French Ministry of Education (DELF A2 or B1), which addresses four language skills: reading, writing, listening, and speaking.</p> <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>											
【到達目標】											
<p>Upon the successful completion of this course, students will have learned the vocabulary, grammatical structures, and communicative norms to allow them to do the following in French:</p> <ul style="list-style-type: none"> - converse with ease when dealing with routine tasks and social situations - read and interpret narratives, including more complex texts on topics of interest - present, orally and in writing, discourse on a variety of familiar topics - identify and discuss fundamental elements of French culture 											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the course, we will practice various exercises (weeks 2-14), fitting the schemes of the Delf exam : oral and written comprehension, oral and written production.</p> <p>Total:14 classes and 1 feedback</p>											
【履修要件】											
All the students are welcome from the second academic year on, as soon as they have already studied French.											
----- フランス語 (中級) (語学)(2)へ続く -----											

フランス語（中級）(語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

The students will be evaluated through continuous assessment : this includes 2 tests during the semester, oral and written class activities, but also participation (class attendance, classroom behavior, personal work). Details will be explained in class.

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

(その他（オフィスアワー等）)

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目56

科目ナンバリング		U-LET49 29635 LJ48									
授業科目名 <英訳>		フランス語 (中級) (語学) French				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Raphaelle BRIN			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	語学	使用 言語	フランス語
題目		Intermediate French									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is for students who have already studied French for one year or more. It will provide them with the opportunity to systematize and reinforce their knowledge of French vocabulary, grammar, pronunciation and culture, and allow them to work further on their command of written and spoken French.</p> <p>At the end of the year, students should be able to pass the intermediate French proficiency test designed by the French Ministry of Education (DELF A2 or B1), which addresses four language skills: reading, writing, listening, and speaking.</p> <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>											
【到達目標】											
<p>Upon the successful completion of this course, students will have learned the vocabulary, grammatical structures, and communicative norms to allow them to do the following in French:</p> <ul style="list-style-type: none"> - converse with ease when dealing with routine tasks and social situations - read and interpret narratives, including more complex texts on topics of interest - present, orally and in writing, discourse on a variety of familiar topics - identify and discuss fundamental elements of French culture 											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the course, we will practice various exercises (weeks 2-14), fitting the schemes of the Delf exam : oral and written comprehension, oral and written production.</p> <p>Total:14 classes and 1 feedback</p>											
【履修要件】											
All the students are welcome from the second academic year on, as soon as they have already studied French.											
【成績評価の方法・観点】											
<p>The students will be evaluated through continuous assessment : this includes 2 tests during the semester, oral and written class activities, but also participation (class attendance, classroom behavior, personal work). Details will be explained in class.</p>											
----- フランス語 (中級) (語学)(2)へ続く -----											

フランス語（中級）(語学)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

（その他（オフィスアワー等））

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目57

科目ナンバリング		U-LET49 39636 LJ48									
授業科目名 <英訳>		フランス語(上級)(語学) French				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Raphaelle BRIN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	語学	使用 言語	フランス語
題目		Advanced French									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is designed to give students who have already begun to deepen their understanding of the French language and culture the opportunity to master a fuller range of vocabulary, structures, pronunciation, and cultural information.</p> <p>Upon completion of this course, students should be able to take the advanced French proficiency test (DELF B2 or DALF C1), required to enter French universities.</p> <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>											
【到達目標】											
<p>Strengthen listening comprehension and reading from various documents</p> <ul style="list-style-type: none"> - Consolidate grammar and lexical use - Increase knowledge on oral and written structures in French applied to academic (or formal) speaking and writing - Develop communicative skills 											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the class, we will train on various exercises, fitting the schemes of the DELF / DALF exam : oral and written comprehension, oral and written production (week 2-14).</p> <p>Total:14 classes and 1 feedback</p>											
【履修要件】											
To attend to this class, students must already have a good level in French.											
【成績評価の方法・観点】											
<p>The students will be evaluated through continuous assessment : this includes 2 tests during the semester, oral and written class activities, but also participation (class attendance, classroom behavior, personal work)</p> <p>Details will be explained in class.</p>											
----- フランス語(上級)(語学)(2)へ続く -----											

フランス語（上級）(語学)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

（その他（オフィスアワー等））

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目58

科目ナンバリング		U-LET49 39636 LJ48									
授業科目名 <英訳>		フランス語(上級)(語学) French				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Raphaelle BRIN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	語学	使用 言語	フランス語
題目		Advanced French									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is designed to give students who have already begun to deepen their understanding of the French language and culture the opportunity to master a fuller range of vocabulary, structures, pronunciation, and cultural information.</p> <p>Upon completion of this course, students should be able to take the advanced French proficiency test (DELF B2 or DALF C1), required to enter French universities.</p> <p>The class will be conducted in French by a native speaker.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - Strengthen listening comprehension and reading from various documents - Consolidate grammar and lexical use - Increase knowledge on oral and written structures in French applied to academic (or formal) speaking and writing - Develop communicative skills 											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the class, we will train on various exercises, fitting the schemes of the DELF / DALF exam : oral and written comprehension, oral and written production (week 2-14).</p> <p>Total:14 classes and 1 feedback</p>											
【履修要件】											
To attend to this class, students must already have a good level in French.											
【成績評価の方法・観点】											
<p>The students will be evaluated through continuous assessment : this includes 2 tests during the semester, oral and written class activities, but also participation (class attendance, classroom behavior, personal work) Details will be explained in class.</p>											
----- フランス語(上級)(語学)(2)へ続く -----											

フランス語（上級）(語学)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

（その他（オフィスアワー等））

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目59

科目ナンバリング		U-LET49 28005 LJ36									
授業科目名 <英訳>		博物館学 I (講義) Museum Science I				担当者所属・ 職名・氏名		近畿大学文芸学部 准教授 松岡 久美子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		博物館概論									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、博物館に関する基礎的な知識を身につけることにある。博物館が成立した歴史的・文化的背景を振り返り、様々な博物館活動について通覧し、あわせて今日の博物館を取り巻く諸課題について考察する。											
【到達目標】											
博物館に関する基礎的な知識を身につけ、各自が博物館や学芸員の今後のあり方について自覚的かつ主体的に考える力を養う。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい、時事問題への言及などに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．博物館とは、学芸員とは 2．西欧における博物館の歴史 3．日本における博物館前史 4．日本における博物館のあゆみ 5．統計から見る博物館 6．博物館の定義と分類 7．館種別にみる博物館 総合博物館 8．館種別にみる博物館 歴史博物館・郷土博物館 9．館種別にみる博物館 美術館 10．館種別にみる博物館 自然史博物館・理工博物館・動植物園水族館 11．博物館の活動 展示 12．博物館の活動 収集・保存・調査研究 13．文化財行政と博物館 14．学校教育と博物館 15．社会の要請に応える博物館活動 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末レポート 70%</p> <p>講義時に実施する小レポート 30%</p> <p>出席回数が60%に満たない場合は単位を認めません。</p>											
----- 博物館学 I (講義)(2)へ続く -----											

博物館学Ⅰ(講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

様々な分野の博物館に実際に足を運び、それぞれの館の可能性や課題について考える。

(その他(オフィスアワー等))

連絡先 kumiko.matsuoka@lac.kindai.ac.jp
連絡時は必ず科目名、所属、氏名を明記してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目60

科目ナンバリング		U-LET49 28006 LJ36									
授業科目名 <英訳>		博物館学II(講義) Museum Science II				担当者所属・ 職名・氏名		近畿大学文芸学部 准教授 松岡 久美子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		博物館経営論									
【授業の概要・目的】											
20世紀後半以降を中心に、博物館を取り巻く様々な制度の変遷やその背景、課題について取り上げる。博物館をとりまく環境が大きく変化していく中で、博物館が存続し、社会的意義を果たしていくためにはどうすればよいかを考察する。											
【到達目標】											
博物館を取り巻く様々な問題に関心を持ち、歴史的経緯を踏まえた上で現状を分析し、経営的視点を持って今後の博物館のあり方について考察できるようになる。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい、時事問題への言及などに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．博物館の経営 2．国立博物館をとりまく制度と課題 3．公立博物館をとりまく制度と課題 4．公立博物館をとりまく制度と課題2 5．博物館の公共性・公益性をめぐる諸課題 6．私立博物館をとりまく制度と課題 7．大学博物館をとりまく制度と課題 8．使命と評価 9．博物館の定義と倫理規定、行動規範 10．リスクマネジメント 11．ユニバーサルデザイン 12．外部組織との連携 13．博物館をつくる 14．博物館をめぐる今日的課題 15．まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末レポート 70%</p> <p>講義時に実施する小レポート 30%</p> <p>出席回数が60%に満たない場合は単位を認めません。</p>											
----- 博物館学II(講義)(2)へ続く -----											

博物館学II(講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

博物館を取り巻く時事問題について情報収集し、分析し、考察する習慣を身につける。
様々な分野の博物館をできるだけ多く、問題意識を持ちながら見学する。

(その他(オフィスアワー等))

連絡先 kumiko.matsuoka@lac.kindai.ac.jp
連絡時は必ず科目名、所属、氏名を明記してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 28007 LJ36											
授業科目名 <英訳>		博物館学III(講義) Museum Science III				担当者所属・ 職名・氏名		京都国立博物館 学芸部 上席研究員				宮川 禎一	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語		
題目		博物館学 (博物館資料論)											
【授業の概要・目的】													
<p>博物館・美術館の学芸員の仕事を博物館業務の実態をもとに具体的に講義する。特に作品・資料の収集・搬入の方法、また作品の取り扱い方法や収蔵庫や展示場での保存方法を中心に講義を進める。すなわち資料作品の収集・管理・研究・展示・運搬など資料にまつわる具体的作業について述べる。また京都国立博物館で実際に企画運営されている展覧会の実情を述べて博物館・美術館学芸員の役割への理解を深める。さらには実際の展覧会・展示場の見学もあわせて博物館美術館業務への認識を向上させることを目的とする。</p>													
【到達目標】													
<ol style="list-style-type: none"> 1 博物館・美術館の成り立ちと意義 - 博物館とはなにかを理解する 2 作品の種類と性質 - 資料の性質と収蔵の問題を考えて理解する 3 博物館における作品の収集とは - 寄託・寄贈・購入の実態を理解する 4 作品の保存処理 - 作品を科学的に守る方法を理解する 5 収蔵庫の要件 - 保存環境の問題を理解する 6 作品の貸借と作品保護 - 保存と公開のあいだにある問題を理解する 7 展覧会の作り方 1 - 展示を構想し出品をめざすことの意味 8 展覧会の作り方 2 - 展示に際しての諸問題があることを理解する 9 展覧会図録の作り方 - 鑑賞を助け、未来に記録する意義を理解する 10 良い展覧会とは何か? - 人と作品の関係と展覧会の意義を考える 11 実際に展示を見学しよう - 実際の展示からわかる保存と公開の問題を考える 12 博物館美術館の未来 - デジタル化の行方と未来の展示を考える 13 世界の博物館・美術館 - 世界にある様々な博物館美術館のありかたを考える 14 学芸員になるには - 求められる学芸員の資質に関して考える 15 博物館をめぐるディスカッション - これまでの講義を受けて学生と討論する 													
【授業計画と内容】													
<ol style="list-style-type: none"> 1 博物館美術館の成り立ちと意義 2 作品の種類と性質 3 博物館における作品の収集 4 作品の保存処理 5 収蔵庫の要件 6 作品の貸借と作品保護 7 展覧会の作り方(1) 8 展覧会の作り方(2) 9 展覧会図録の作り方 10 良い展覧会とは何か? 11 実際に展示を見学しよう(京都大学総合博物館の展示見学) 12 博物館美術館の未来 13 世界の博物館・美術館 													
----- 博物館学III(講義)(2)へ続く -----													

博物館学Ⅲ(講義)(2)

- 14 学芸員になるには
15 博物館をめぐるディスカッション

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

受講態度およびレポートの成績で評価する。
受講態度30%、レポート内容70%の割合で評価する。

[教科書]

講義中に適宜資料等を配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

博物館・美術館の展覧会図録を図書館などで読んで、図録のありかたに興味をもってほしい。また日本歴史・考古学・美術史などの図書も積極的に読んで欲しい。

[授業外学修(予習・復習)等]

学芸員を目指し、資格を得ようとする学生のための講義であるので、受講生は日ごろから問題意識をもって博物館・美術館などの見学を行ってほしい。また講義を超えて展示物や解説から自己の学術的興味の範囲を広げてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

日時は定めていないが、京都国立博物館での講義(例えば土曜日午後など)を行うのでそのつもりでいてほしい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目62

科目ナンバリング		U-LET49 28107 SJ36									
授業科目名 <英訳>		書道(演習) Calligraphy				担当者所属・ 職名・氏名		京都市立紫野高等学校 教諭 万殿 伸昭			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		書道									
【授業の概要・目的】											
書道や書写を学ぶための基礎的な力を養う。これからの書の学習のための必要な知識とともに、書 の能力を高めるための硬筆毛筆の実習を行う。さらには書の表現力を豊かにするために、歴代の漢 字古典および古筆の臨書を通してそれぞれの特徴を理解し技法を習得する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字の楷書や行書と、それらに調和した仮名の書き方を理解する。 ・ 実技の習得を目的とし、課題に対して自主的、継続的に取り組む能力を養う。 ・ 学校教育の現場で必要とされる書を学ぶ心得や知識、また楷書・行書・仮名の基本を習得する。 ・ 文部科学省による中学校指導要領の目的に沿って、書写の基本から応用まで実技練習を通して学 び、中学校教員免許（国語）に役立てる能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス・書写と書道、その研究倫理について 第2回～4回 硬筆・毛筆による平仮名・片仮名の学習 第5回～8回 楷書・行書の学習、漢字と仮名の調和 第9回～11回 古典による学習 楷書「九成宮醴泉銘」、行書「蘭亭序」、隸書「曹全碑」 第12回～14回 仮名の学習（単体・連綿） 第15回 制作作品の鑑賞および批評（提出課題のフィードバック）											
【履修要件】											
実技を伴う科目であるので、毎回の書道道具の携帯が必要となる。 半紙・墨等の消耗品も各自持参すること。											
【成績評価の方法・観点】											
提出課題（80%）課題への積極的な学習と授業での意欲的な姿勢（20%）を総合的に判断し、 評価する。											
----- 書道(演習)(2)へ続く -----											

書道(演習)(2)

[教科書]

全国大学書道学会編 『書の古典と理論 改訂版』（光村図書株式会社）ISBN:978-4-89528-681-7（後期の書道の授業においても使用。）
使用テキストのほか、授業内容に応じてプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

実際の書に触れるために、書展に出向くことを推奨する。
折につけ書展の情報などを告知する。

[授業外学修（予習・復習）等]

書の実技に関してはそれまでの経験などによって各自さまざまであることが予想される。各授業に対する予習や復習に努めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目63

科目ナンバリング		U-LET49 28107 SJ36									
授業科目名 <英訳>		書道(演習) Calligraphy				担当者所属・ 職名・氏名		京都市立紫野高等学校 教諭 万殿 伸昭			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		書道									
【授業の概要・目的】											
後期の授業では、より芸術性を帯びた書を学んでいくことを目的とする。歴代の漢字古典および古筆の臨書を中心に学習する。あわせて作品と作者、時代状況等に関して講述し、それぞれの特徴を理解し技法を習得する。											
【到達目標】											
中国・日本の古典古筆の臨書実習と鑑賞を通じて、基本的な知識を習得するとともに多様な技法に習熟する。書体の変遷等、史的な推移を重視し、単に個別の古典の技法的特色を知るだけでなく、歴史の流れの中で名作相互がどのように関連しあっているかを理解する。また、名筆を生み出す時代状況も考察する。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス・書道史上における古典古筆について。 第2回 殷代の書 甲骨文字 骨に刻まれた文字の表現を考える 第3回 周代の書 金文「大盂鼎」 金属に鑄刻された文字の表現を考える 第4回 秦代の書 小篆「泰山刻石」 小篆の書法について考える 第5回 漢代の書 木簡「張家山前漢簡」 隸書の書法について考える 第6回 三国時代の書 楷書「薦季直表」 楷書の変遷を知る 第7回～10回 楷書・行書・草書の書法について考える 「雁塔聖教序」「孔侍中帖」「真草千字文」「前赤壁賦」 第11回 日本の三筆・三蹟を考察する 第12回～14回 仮名の美 「高野切第三種」「粘葉本和漢朗詠集」「関戸本古今和歌集」 第15回 作品鑑賞・批評（提出課題のフィードバック）											
【履修要件】											
実技科目でもあるため、毎回書道用具の携帯が必要となる。 また、墨・半紙などの消耗品も持参すること。											
【成績評価の方法・観点】											
提出課題（80％）課題への積極的な学習や授業での意欲的な姿勢（20％）を総合的に判断し、評価する。											
【教科書】											
全国大学書道学会『書の古典と理論 改訂版』（光村図書出版株式会社）ISBN:978-4-89528-681-7 （前期の書道の授業においても使用。）											
----- 書道(演習)(2)へ続く -----											

書道(演習)(2)

使用テキストのほか、授業内容に応じてプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

出来るだけ積極的に書道の展覧会に足を運び、鑑賞力をつけることを勧める。

[授業外学修(予習・復習)等]

実習を中心とするので、各回毎に指示する用具・用材を忘れず準備すること。
各回のテーマに沿って自主的に作品制作に取り組むなど、積極的に授業に取り組んでほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目64

科目ナンバリング		U-LET49 28041 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語論文作成法(演習) Introduction to Academic Writing				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 大崎 紀子			
配当 学年	2-4回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アカデミック・ライティング(1)									
[授業の概要・目的]											
<p>学術論文やエッセイ(小論文)などの論理的な文章を英語で書く能力を養成する。前期では、パラグラフの構造を学び、英文を読むことを通じて論理的な文章構成への理解を深め、自らの視点を反映した論理的な文章を英語で書く活動を行うとともに、引用の方法についても基本的な知識と技術を学ぶ。</p>											
[到達目標]											
英語と日本語の修辞法の違いを理解し、論理的で説得力のある文章を英語で書く能力を養う。											
[授業計画と内容]											
<p>1 アカデミック・ライティングについての説明 2-3 学術英語の特徴 4 パラグラフの構造の理解 5 句読法 6-9 パラグラフ・ライティングの演習 10 引用の方法、文献目録の書き方(基本篇) 11-14 小論文作成演習: 受講者の作文に基づく内容・構成の検討を含む 15 まとめ フィードバック方法は授業中に説明します。</p>											
[履修要件]											
受講者20人まで											
[成績評価の方法・観点]											
授業参加(クイズ、宿題提出を含む。30点)、アサインメント(3回、計70点)											
[教科書]											
プリント教材を配布する。											
[参考書等]											
(参考書)											
Alice Oshima and Ann Hogue 『Writing Academic English, Fourth Edition』(Pearson Longman, 2006.) Swales, John M. and Feak, Christine B. 『Academic Writing for Graduate Students: Essential tasks and skills, third edition.』(The University of Michigan Press, 2012)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
教材は、事前に配布するので、予習をして授業に臨んでほしい。											
(その他(オフィスアワー等))											
課題の提出は、原則として電子メールを利用し、メールによる教員とのやり取りを英語で行うこと によって、英文メールの書き方についても学ぶ。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

学部共通科目65

科目ナンバリング		U-LET49 28041 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語論文作成法(演習) Introduction to Academic Writing				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 大崎 紀子			
配当 学年	2-4回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アカデミック・ライティング(2)									
[授業の概要・目的]											
英文アブストラクト、要約、引用、文献目録の書き方など、英語論文を書くための基本的な方法論を学び、英語で学術論文を書く能力を養う。											
[到達目標]											
英語と日本語の修辞法の違いを理解するとともに、剽窃を疑われない適切な引用の方法と技術を身につける。											
[授業計画と内容]											
1 アカデミック・ライティングの説明 2-5 引用、要約、文献目録の書き方と演習 6-8 履歴書、自己推薦書の書き方と演習 9 スタイル(MLA、APA、Chicagoスタイル等) 10-14小論文作成演習：受講者の作文に基づく議論、検討を含む 15 まとめ フィードバックの方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
前期を受講していることが望ましい。(受講者20人まで)											
[成績評価の方法・観点]											
授業参加(クイズ、宿題提出を含む。30点)、アサインメント(3回、計70点)											
[教科書]											
プリント教材を配布する。											
[参考書等]											
(参考書) Alice Oshima and Ann Hogue 『Writing Academic English, Fourth Edition』(Pearson Longman, 2006) Swales, John M. and Feak, Christine B. 『Academic Writing for Graduate Students: Essential tasks and skills, third edition.』(The University of Michigan Press, 2012.)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
教材プリントは、事前に配布するので、予習をして授業に臨んでほしい。											
(その他(オフィスアワー等))											
課題の提出は、原則として電子メールを利用し、メールによる教員とのやり取りを英語で行うこと によって、英文メールの書き方も学ぶ。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

【到達目標】

- ・より広い視野と洞察力をもって、現実の諸問題に対する解決策を提示できるようになる。
- ・学問的な知識や主体的な学びの方法を身につけると同時に、授業で学んだことを応用しつつ、実際の課題に積極的に取り組めるようになる。

【授業計画と内容】

第1回(9/30、オンライン):イントロダクション(杉浦・全員)

適切なケア関係のあり方とはどういうものか(安井)

第2回(10/7、対面):依存的関係って不健全なの?

第3回(10/14、対面):障害者と介助者はどういう関係が望ましいの?

アガンベンとともに暴力について考える(武田)

第4回(10/21、オンライン):暴力への露出

第5回(10/28、対面):暴力の経験は語りえないものなのか?

知覚・想像力・身体(小林)

第6回(11/4、オンライン):想像力は「頭の中」での出来事にすぎないのか?

第7回(11/11、対面):想像力の「不健全さ」とは?

観光化・歴史認識と「作られた京都像」(マルチン)

第8回(11/18、オンライン):京都はなぜ日本における伝統文化の象徴なのか?

第9回(11/25、対面):フィクションと観光の関係って健全なのか?

ネットワーク分析ミニ入門 グローバル化と世界経済システムを応用の例として(ラドミラル)

第10回(12/2、オンライン):ネットワーク分析ミニ入門 その1

第11回(12/9、オンライン):ネットワーク分析ミニ入門 その2

第12回(12/16、オンライン):レポートの書き方(澤田)

第13回(1/6、オンライン/対面):哲学的対話 改めて「不健全」の何が問題なのかを考える(澤田)

第14回(1/13、対面):レポート指導(別役)

第15回(1/20、対面):レポート指導(別役)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点60点+レポート40点(ただし、2/3以上の出席がない場合は評価の対象としない)

【教科書】

授業中に指示する

人文学の多面的展開:「不健全」の何が問題なのか?(3)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業時に、各担当者から、課題が提示されることがあります。その指示にしたがってください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目67

科目ナンバリング		U-LET49 19610 LJ48									
授業科目名 <英訳>		インドネシア語I (初級) (語学) Indonesian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語専門学校 専任講師 柏村 彰夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		インドネシア語 (初級)									
【授業の概要・目的】											
インドネシア語に関する基礎知識を習得し、基本的な運用能力の養成を目的とする。基本的には、インドネシア語の学習歴の無い者を対象とする。											
【到達目標】											
日常会話での慣用表現の発話・聞き取りができるようになる。また、基本的な文の創出ができるようになることを目指す。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。 なお、授業冒頭に語彙に関する小テストを（全10回）実施する。 また、第8回および第15回に、それまで学習した内容を確認するためのテストを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.イントロダクション 2.名詞文 3.発音と表記法 4.人称代名詞 5.基語動詞 6.ber-動詞 7.meN動詞 8.確認テスト 9.アスペクト、助数詞 10.疑問文、疑問詞 11.受動 12.時間表現 13.接尾辞 -an 14.接頭辞 pe-, peN- 15.確認テスト 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
語彙小テスト（10回、各5点）、確認テスト（2回、各25点）により評価する。											
----- インドネシア語I (初級) (語学)(2)へ続く -----											

インドネシア語I (初級) (語学)(2)

[教科書]

森山幹弘・柏村彰夫 『教科書インドネシア語』 (めこん) ISBN:4-8396-0159-3

[参考書等]

(参考書)
授業中に適宜紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

初歩段階では語彙数を増やすことが最も重要である。従って初出単語の暗記を中心とする復習が必要。

(その他 (オフィスアワー等))

第一回目の授業では、学習上必要な文献などの紹介を行う予定であるので、教科書や辞書を用意する必要は無い。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目68

科目ナンバリング		U-LET49 19611 LJ48									
授業科目名 <英訳>		インドネシア語II (初級) (語学) Indonesian				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語専門学校 専任講師 柏村 彰夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		インドネシア語 (初級)									
【授業の概要・目的】											
インドネシア語Iでの学習内容を踏まえ、インドネシア語の運用能力の養成を目的とする。											
【到達目標】											
日常会話レベルの基本的表現の創出能力を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。 なお、授業冒頭に語彙に関する小テストを(全10回)実施する。 また、第8回および第15回に、それぞれ確認のためのテストを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的表現の復習 2. 程度の副詞、接頭辞 se- 3. 比較級、最上級 4. 接頭辞 ter- 5. 前置詞 6. 接続詞 7. 関係詞 yang 8. 確認テスト 9. 接辞 peN-an、per-an 10. 複合語、接辞 ke-an 11. 命令文 12. meN-kan動詞、meN-i 動詞 13. memper 動詞 14. 畳語 15. 確認テスト 											
【履修要件】											
インドネシア語 I (初級) の履修または同程度のインドネシア語能力を前提とする。											
【成績評価の方法・観点】											
語彙小テスト(10回、各5点)、確認テスト(2回、各25点)により評価する。											
【教科書】											
森山幹弘・柏村彰夫 『教科書インドネシア語』(めこん) ISBN:4-8396-0159-3											
----- インドネシア語II(初級)(語学)(2)へ続く -----											

インドネシア語II (初級) (語学)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に適宜紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

語彙習得が重要であり、既出単語を身につけるための復習が重要となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目69

科目ナンバリング		U-LET49 19626 LJ48									
授業科目名 <英訳>		タイ語I(初級)(語学) Thai				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 弓庭 育子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		初めてタイ語にふれる人のためのタイ語学習									
【授業の概要・目的】											
臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。											
【到達目標】											
発音と声調の基礎が身についている。約100語の生活語彙と約20項目の基本文法が身についている。生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。											
【授業計画と内容】											
【学習方法】 PandA のZoomを用いて、リアルタイムで授業を実施する。講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。											
【学習内容：会話】											
1．オリエンテーション 学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認											
2．発音練習 母音、声調、子音											
3．第1課1．1～1．3 挨拶、国籍を紹介する、尋ねる											
4．第1課1けたの数字、											
5．第2課2．1～2．3 挨拶、名前を紹介する、尋ねる											
6．第2課2．4～3けたの数字 挨拶、否定の表現											
7．第3課3．1～3．3 職業を紹介する、尋ねる											
8．第3課3．4～3．6 完了、予定の表現											
9．第3課数字に関する表現											
10．第4課4．1～4．3 継続の表現											
11．第4課職業の表現											
12．第5課5．1～5．2 品詞と語順											
13．第5課5．3～親族名称 可能の表現											
14．総復習											
15．フィードバック											
【履修要件】											
効果的に語学を習得するため、履修期間中は 全講義に出席し、 テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。											
----- タイ語I(初級)(語学)(2)へ続く -----											

タイ語I(初級)(語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

各課学習後の課題(およそ500点)、総合の課題(およそ100点)を合計し、100点満点に換算して評価する。

[教科書]

宮本マラシー・村上忠良『世界の言語シリーズ9 タイ語』(大阪大学出版会)ISBN:978-4-87259-333-4 C3087

PandAのZoomを用いてリアルタイムで受講すること。授業時間に参加できないときには、記録動画を後日閲覧して授業内容を理解すること。

[参考書等]

(参考書)

中島マリン著 赤木攻監修『挫折しないタイ文字レッスン』(めこん)ISBN:4-8396-0197-6 C0387
(タイ文字の個人学習に関心のある学生に勧める)

[授業外学修(予習・復習)等]

予習:テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。

復習:既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

(その他(オフィスアワー等))

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には、第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目70

科目ナンバリング		U-LET49 19627 LJ48									
授業科目名 <英訳>		タイ語II(初級) (語学) Thai				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 弓庭 育子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		タイ語II(初級)									
【授業の概要・目的】											
【学習目的】 臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。											
【到達目標】 発音と声調の基礎が身についている。約200語の生活語彙と約38項目の基本文法が身についている。生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。タイ文字の子音字、母音符号の組み合わせの基礎が身についている。											
【授業計画と内容】											
【学習方法】 会話：講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。											
【学習内容：会話】											
1．オリエンテーション 学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認											
2．第6課6．1～6．2 指示代名詞											
3．第6課6．3～6．4 程度の表現											
4．第6課味覚表現											
5．第7課7．1～7．2 希望、要求の表現											
6．第7課7．3～7．5 許可の表現											
7．第7課交通機関の名称											
8．第8課8．1～8．2 指示形容詞											
9．第8課8．3～8．4 義務の表現											
10．第8課時刻の表現											
11．第9課9．1～9．2 順序の表現											
12．第9課9．3～方向、方角の表現											
13．第10課10．1～10．2 目的の表現											
14．総復習											
15．フィードバック											
----- タイ語II(初級) (語学)(2)へ続く -----											

タイ語II(初級)(語学)(2)

【履修要件】

タイ語I(初級)を履修していることが望ましい。
効果的に語学を習得するため、履修期間中は 全講義に出席し、 テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。

【成績評価の方法・観点】

講義中の小テスト(およそ500点)、学期末テスト(およそ100点)を合計し、100点満点に換算して評価する。

【教科書】

宮本マラシー・村上忠良 『大阪大学外国語学部 世界の言語シリーズ9 タイ語』(大阪大学出版会) ISBN:ISBN:978-4-87259-333-4 C3087

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

予習: テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。
復習: 既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

(その他(オフィスアワー等))

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目71

科目ナンバリング		U-LET49 19631 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ビルマ(ミャンマー)語I(初級)(語学) Burmese				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 本行 沙織			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ビルマ語入門									
【授業の概要・目的】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ビルマ語の発音と文字、文の成り立ちを理解する。 ・基礎的な語彙を覚え、文型を身に付け、簡単な会話を繰り返し練習する。 ・特に正確な発音の習得に重点を置き、母語話者に“通じる”ビルマ語を目指す。 											
【到達目標】											
ビルマ語を正確に発音するとともに、基本的な読み書き、簡単な日常会話ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
この授業は、zoomを介してオンラインで行われます。											
<p>第1回 オリエンテーション ミャンマーについて、ビルマ語の特徴、発音</p> <p>第2回 文字1(基本字母、複合文字、母音記号、末子音を伴う音節の表し方、有音化と綴り字)</p> <p>第3回 文字2(軽音音節の綴り、重ね文字、特殊な文字、不規則な読み方や不規則な綴り字、句読点、ビルマ数字、記号を書く順序)</p> <p>第4回 第1課 それはココヤシの実です</p> <p>第5回 第2課 元気です</p> <p>第6回 練習問題1、第3課 私は豚肉のおかずが好きではありません</p> <p>第7回 第3課 私は豚肉のおかずが好きではありません、第4課 ご飯食べましたか?</p> <p>第8回 第4課 ご飯食べましたか?、練習問題2</p> <p>第9回 第5課 マンダレーに行きます</p> <p>第10回 第6課 何の仕事をしているんですか?</p> <p>第11回 練習問題3、第7課 十冊くらいあります</p> <p>第12回 第7課 十冊くらいあります、第8課 シュエダゴン・パゴダに行きたいです</p> <p>第13回 第8課 シュエダゴン・パゴダに行きたいです、練習問題4</p> <p>第14回 第9課 電気製品を売っている店がありますか?</p> <p>第15回 これまでの授業内容の復習</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・すべての授業に出席すること。 ・授業時間外でも教科書に付属しているCDを積極的に聞き、ビルマ語の音に親しむこと。 											
【成績評価の方法・観点】											
授業態度、小テスト(50点)、期末試験(50点)											
----- ビルマ(ミャンマー)語I(初級)(語学)(2)へ続く -----											

ビルマ(ミャンマー)語(初級)(語学)(2)

[教科書]

加藤昌彦『ニューエクスプレス + ビルマ語』(白水社)ISBN:9784560088142

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習は特に必要ありませんが、復習を大切にしてください。

(その他(オフィスアワー等))

この授業は、zoomを介してオンラインで行われます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目72

科目ナンバリング		U-LET49 19637 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ベトナム語I(初級)(語学) Vietnamese				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 吉本 康子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ベトナム語I(初級)									
【授業の概要・目的】											
初学者を対象に、ベトナム語についての基礎知識を身につけるための講義を行う。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム語の文字の読み方を理解し、単語や文章を正しく読み上げることができる。 ・挨拶の表現や基本構文を用いて簡単な会話をすることができる。 ・言語の学習を通し、ベトナムの社会と文化についての理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
テキストに従って以下の計画を進めるが、状況に応じて多少変更する場合もある											
第1回 ガイダンス 第2～4回 ベトナム語の文字と発音、挨拶と自己紹介 第5～6回 7課 第7～8回 8課 第9～10回 9課 第11～12回 10課 第13～14回 11課 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により評価する。											
【教科書】											
清水政明『世界の言語シリーズ4 ベトナム語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-328-0 その他、授業中にプリントを配布する。											
----- ベトナム語I(初級)(語学)(2)へ続く -----											

ベトナム語(初級)(語学)(2)

[参考書等]

(参考書)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[入門編]』 (アルク)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[初級編]』 (アルク)

その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

予習

- ・ 本文に目を通し、テキスト付属のCD音声を聞く

復習

- ・ CD音声を再生しながら、本文を音読する

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目73

科目ナンバリング		U-LET49 19638 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ベトナム語II(初級)(語学) Vietnamese				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 吉本 康子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ベトナム語 (初級)									
【授業の概要・目的】											
ベトナム語の文字の読み方を理解し、挨拶や自己紹介などの基本的な会話が可能なレベルの学生を対象に、現地調査を実施する際に必要となる基礎的なベトナム語の習得を目的とした講義を行う											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム語の基本的な文法を理解し、簡単な文章を読むことができる ・現地での生活や調査において必要な単語やフレーズを習得し、簡単な会話をするすることができる ・言語の学習を通して、ベトナムの社会と文化についての理解を深める 											
【授業計画と内容】											
テキストに従って以下の計画で進めるが、状況に応じて多少変更する場合もある											
第1～2回 12課 第3～4回 13課 第5～6回 14課 第7～8回 15課 第9～10回 16課 第11～12回 17課 第13～14回 18課 第15回 まとめ											
【履修要件】											
ベトナム語 を履修していることが望ましいが、ベトナム語の文字が読め、挨拶や自己紹介、基本構文を用いた初歩的な会話ができれば可とする。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により評価する。											
【教科書】											
清水政明 『世界の言語シリーズ4 ベトナム語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-328-0 その他、授業中にプリントを配布する。											
----- ベトナム語II(初級)(語学)(2)へ続く -----											

ベトナム語II(初級)(語学)(2)

[参考書等]

(参考書)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[入門編]』 (アルク)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[初級編]』 (アルク)

その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

予習

- ・ 本文に目を通し、テキスト付属のCD音声を聞く

復習

- ・ CD音声を再生しながら、本文を音読する

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目74

科目ナンバリング		U-LET50 19822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		タイ研修 Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		学際融合教育研究推進センター 特定助教 西島 薫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	多文化共学短期[オンライン(未定)]留学プログラム タイ・チューラーロンコーン大学 スプリングスクール										
【授業の概要・目的】											
京都大学と大学間学生交流協定関係にあるチューラーロンコーン大学の協力を得て実施する。 事前講義(タイ語学習を含む)、チューラーロンコーン大学が提供するタイ語講座の受講(オンライン)、チューラーロンコーン大学の学生との共同プレゼンテーションによる日本語・日本文化の相互学習(オンライン)をおこなう。											
【到達目標】											
相手国学生に対し、日本語・日本文化について英語・日本語で紹介ができる。 日本を相対化しながら、タイおよびアセアン諸国について理解を深める。 日本-タイの両国関係について認識を深める。											
【授業計画と内容】											
3月上旬から下旬の間に実施予定。研修の詳細については、KULASISで確認すること。 履修登録、単位認定は文学部でおこなわれる。 本研修に参加するには別途申し込みをする必要があるため、申込方法などについてKULASIS等を参照すること。											
【履修要件】											
本スプリングスクール参加にあたって、全学共通科目「日本語・日本文化実習」を受講した上での参加を推奨している。タイ語初学者も歓迎するが、「タイ語(初級)」等の関連科目を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
講義への参加状況、タイ語講座と共同発表での評価、研修後の報告書による。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- タイ研修(2)へ続く -----											

タイ研修(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/>(京都大学アジア研究教育ユニット(KUASU))

[授業外学修(予習・復習)等]

タイに関する文献を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目75

科目ナンバリング		U-LET50 19822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		ベトナム研修 Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		学際融合教育研究推進センター- 特定助教 西島 薫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	多文化共学短期[オンライン(未定)]留学プログラム ベトナム国家大学ハノイ校サマ ースクール										
【授業の概要・目的】											
京都大学と大学間学生交流協定関係にあるベトナム国家大学ハノイ校の協力を得て実施する。人文 社会科学大学と外国語大学の協力のもと、ベトナム語とベトナム文化社会の講義を受講し、実地研 修に参加する。また、現地の学生の日本語教育・日本研究の支援をおこない、共同発表をおこなう。											
【到達目標】											
相手国学生に対し、日本語・日本文化について英語・日本語で紹介ができる。 日本を相対化しながら、ベトナムおよびアセアン諸国について理解を深める。 日本 - ベトナムの両国関係について認識を深める。											
【授業計画と内容】											
9月上旬～9月下旬実施予定。 研修の詳細についてはKULASISで確認すること。 履修登録、単位認定は文学部でおこなわれる。 本サマースクールに参加するには別途申し込みをする必要があるため、申込方法などについて KULASIS等を参照すること。											
2019年度プログラム例(9月8日-9月22日)											
【履修要件】											
本サマースクール参加にあたって、全学共通科目「日本語・日本文化実習」を受講した上での参加 を推奨している。ベトナム語初学者も歓迎するが、「ベトナム語(初級)」等の関連科目を受講 していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
事前学習への参加状況、現地での評価、研修後の報告会および報告書による。											
----- ベトナム研修(2)へ続く -----											

ベトナム研修(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/>(京都大学アジア研究教育ユニット(KUASU))

[授業外学修(予習・復習)等]

ベトナムに関する文献を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目76

科目ナンバリング		U-LET50 19822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		インドネシア研修 Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		学際融合教育研究推進センター 特定助教 西島 薫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		多文化共学短期[オンライン(未定)]留学プログラム インドネシア大学スプリングスクール									
【授業の概要・目的】											
京都大学と大学間学生交流協定関係にあるインドネシア大学の協力を得て実施する。 事前講義（インドネシア語学習を含む）、 インドネシア大学が提供するインドネシア語講座の受講（オンライン）、 インドネシア大学の学生との共同プレゼンテーションによる日本語・日本文化の相互学習（オンライン）をおこなう。											
【到達目標】											
相手国学生に対し、日本語・日本文化について英語・日本語で紹介ができる。 日本を相対化しながら、インドネシアおよびアセアン諸国について理解を深める。 日本 - インドネシアの両国関係について認識を深める。											
【授業計画と内容】											
2月中旬～3月初旬実施予定。 研修の詳細についてはKULASISで確認すること。 履修登録、単位認定は文学部でおこなわれる。 本スプリングスクールに参加するには別途申し込みをする必要があるため、申込方法などについてもKULASIS等を参照すること。 2020年度プログラム（3月1日-3月12日）											
【履修要件】											
本スプリングスクール参加にあたって、全学共通科目「日本語・日本文化実習」を受講した上での参加を推奨している。インドネシア語初学者も歓迎するが、「インドネシア語（初級）」等の関連科目を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
事前学習への参加状況、インドネシア大学による評価、帰国後の報告会および報告書による。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- インドネシア研修(2)へ続く -----											

インドネシア研修(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/>(京都大学アジア研究教育ユニット(KUASU))

[授業外学修(予習・復習)等]

インドネシアに関する文献を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目77

科目ナンバリング		U-LET50 19822 LJ31									
授業科目名 <英訳>		戦争と植民地の歴史認識 Asian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲 文学研究科 教授 高嶋 航			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		戦争と植民地をめぐる歴史認識問題									
【授業の概要・目的】											
東アジアの日、中、韓・朝間での「歴史認識問題」を中心とし、そこで焦点となっている慰安婦問題など過去の歴史についてより正確な事実を学ぶことを主としつつも、これら三国の間での歴史認識の差異を多面的に考察するとともに、より広く現代世界における「歴史認識問題」とくに過去の戦争や植民地支配の記憶をめぐる問題について考える手引きとなる講義をオムニバス形式で提供します。											
【到達目標】											
いわゆる「歴史認識」とはということかを理解したうえで、歴史学的に正確な事実を把握する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
文学研究科，人文科学研究所，人間・環境学研究科の教員を中心に，現在日本，中国，韓国，北朝鮮などの東北アジア諸国の間で国際的な問題となっている，過去の戦争と植民地支配にかかわる「歴史認識問題」について講義します。また，東北アジア以外の地域における「歴史認識問題」についても取扱います。 講義担当者は以下のとおりです。日程については後日掲示します。 小山 哲(文学研究科)：収容所の世紀の記憶の語り方 ポーランド人によるソ連強制収容所体験記を読む 高嶋 航(文学研究科)：「慰安婦」と中国 塩出浩之(文学研究科)：琉球/沖縄をめぐる歴史認識 谷川 穰(文学研究科)：靖国神社について 中村唯史(文学研究科)：日本プロレタリア文学と満洲 徳永直の場合 吉井秀夫(文学研究科)：朝鮮総督府古蹟調査事業の評価をめぐって 太田出(人間・環境学研究科)：“武器なき戦士”宣撫官と愛路運動 日中戦争の一断面 岡 真理(人間・環境学研究科)：歴史的鏡像としてのパレスチナ/イスラエル 小野寺史郎(人間・環境学研究科)：近代中国における戦争/平和をめぐる歴史認識 細見和之(人間・環境学研究科)：丹波篠山から考える、在日コリアンの足跡 石川禎浩(人文科学研究所)：日中国交回復時(1972年)の歴史認識 小関隆(人文科学研究所)：戦争はいかにして始まるのか?：第一世界大戦の場合 直野章子(人文科学研究所)：戦争被害受忍論からみる戦争責任論 藤原辰史(人文科学研究所)：毒ガスの歴史から考える戦争と植民地 フィードバック											
----- 戦争と植民地の歴史認識(2)へ続く -----											

戦争と植民地の歴史認識(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（50％）とレポート（50％）により総合的に評価します。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

関連する資料を講義担当者が指定した場合、予習しての出席、あるいは事後の自学をおこなっていることを前提に授業をすすめる。

（その他（オフィスアワー等））

専門知識が無くともわかりやすい講義を心がけますので、学部や専修の枠にとらわれずに受講してください。

昨年度後期の「戦争と植民地をめぐる歴史認識問題」とかなりの講義が類似の内容なので、重複履修はできません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目78

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		Introduction-Introductory seminar (KBR) Introduction-Introductory seminar (KBR)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 VASUDEVA , Somdev			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Introduction to Indian Aesthetics									
【授業の概要・目的】											
This course is designed as a general introduction to the theory and practice of Indian aesthetics. It provides two things: 1) a historiographic survey of the most influential authors, works, and theories; and 2) a narrative account of the major debates and disputes that led to specific evolutions of doctrine and practice.											
【到達目標】											
Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of analysis current in South Asian studies. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1 What is our goal? Introduction to the sources and languages.</p> <p>Week 2 The challenge of South Asian polyglossia, heteroglossia and hyperglossia. What is the point of historiography? How can we periodize and localize South Asia?</p> <p>Week 3 Bharata 's Natyasastra, The Foundational Text, Theatre, Dance, Music, Poetry and Other Arts</p> <p>Week 4 Early Development of the Rasa Theory</p> <p>Week 5 The Early Rhetoricians: Bhamaha and Dandin</p> <p>Week 6 Competing Categories I: Vamana and his Virtues; Defects; Textures; Styles</p> <p>Week 7 Competing Categories II: Rudrata and the Systematisation of Ornaments of Sound, Sense, and Both</p> <p>Week 8 Competing Categories III: Anandavardhana and the New Paradigm: Denotation, Implication, Suggestion, Sentiment</p> <p>Week 9 The Synthesizers: Bhoja and Mammata</p> <p>Week 10 Ruyyaka and the Epistemology of Aesthetics</p> <p>Week 11 Sobhakara's Modal Aesthetics</p> <p>Week 12 Aesthetics as Theology: Visvanatha, Simhabhupala and the Bhakti Movements</p> <p>Week 13 Aesthetics and the New Style of Philosophy: Appayadiksita and Jagannatha</p> <p>Week 14 The Unexpected Return of Figurative Poetry</p> <p>Week 15 Concluding Summary</p>											
【履修要件】											
Regular reading of assigned work and participation in the group discussions.											
Introduction-Introductory seminar (KBR) (2)へ続く											

Introduction-Introductory seminar (KBR) (2)

[成績評価の方法・観点]

In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%). One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).

[教科書]

Instructed during class

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

(その他(オフィスアワー等))

Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目79

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		Introduction-Introductory seminar (SEG) Introduction-Introductory seminar (SEG)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Fieldwork and Qualitative Research of Japanese Society									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is to examine concepts representing Japanese society, economy and governance through previous research and fieldwork. Even though we perceive various concepts on society, economy and governance through media and internet, it is often the case there is a gap between concept and reality when you go to the field. This class takes up various concepts on qualitative research such as field work, ethnography, focus group discussion, action research and so forth. Field visit is also expected such as Buraku community, welfare institution and public schools in the city.</p>											
【到達目標】											
<p>To be able to conceptualize society through primary data gathering in Kyoto. This class requires field research within Kyoto to conceptualize Kyoto itself so that students can grasp Kyoto by collecting data and interpreting what is going on through field visit.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The organization of course is as follows.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. introduction 2. qualitative research (1) 3. qualitative research (2) 4. qualitative research (3) 5. history and society (outcast community) 6. field visit to community 7. welfare and community development 8. field visit to welfare facility 9. education 10. field visit 11. diversity 12. field visit 13. conceptualizing Kyoto 14. Presentation 15. Presentation and feedback 											
【履修要件】											
特になし											
----- Introduction-Introductory seminar (SEG) (2)へ続く -----											

Introduction-Introductory seminar (SEG) (2)

[成績評価の方法・観点]

reflection papers(50%) and term paper(50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

readings and reaction comments are important.

(その他(オフィスアワー等))

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

(@) indicates @

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目80

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		Introduction-Introductory seminar (VMC) Introduction-Introductory seminar (VMC)			担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 Bjorn-Ole Kamm				
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Japanese Contemporary Popular Culture: Media Practices in a Global Context									
【授業の概要・目的】											
<p>Japanese popular media practices play not only in Japan a major role in the everyday lives of many people. The course investigates various elements of this popular and consumer culture, such as manga, anime, or games, from a transcultural perspective. The focus of this practice-oriented and interactive seminar lies on theoretical concepts and analytical techniques useful to engage transculturality in the cross-disciplinary research fields of visual, material and media culture.</p> <p>The course revisits key readings for a transcultural approach dealing with visual practices, such as cosplay, and media content, for example, cultural representations of nationality or gender. A second point of departure is formed by questions of production, reception and appropriation by users in and outside Japan. The theoretical input forms the basis for practical exercises in applying these methodologies to concrete cases. The course requires students to actively participate, do regular written homework and occasionally work in teams. It does not include a written term paper, but several written short pieces and a project report instead.</p>											
【到達目標】											
<p>The course seeks to establish an understanding not only of theories of transculturality, entertainment and user agency but of various angles of research methodology useful for the study of visual and media practices. Students will exercise to apply key methodologies to contemporary cases studies, such as cyber-ethnography of fans, qualitative visual and textual analysis of manga, or the analysis of discourses surrounding the physical embodiment of fictional characters. The aim of the course is to assist students in taking the leap to a position of knowledge-production and thus focuses on practical exercises and training in academic presentation skills.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>IMPORTANT・重要: The course will be offered online (remote) only (please go to PandA for the Zoom link).</p> <p>A detailed plan for each class will be determined depending on the number of and the feedback from the participants, but will be guided by the following overall procedure:</p> <p>(1) The students gain access to necessary tools via lectures and detailed discussions of methodological and theoretical examples taken from existing research [first five-week period].</p> <p>(2) The class decides on a shared question for project investigations, a specific object and appropriate methods. As networks of humans and artifacts (media), popular culture often necessitates analyses of contents as well as "users." Accordingly, and if the number of participants permits, the class is divided into different project groups (e.g. text analysis, ethnography, cyber-ethnography), working on the same question from different angles (triangulation) [second five-week period].</p> <p>(3) Employing an e-learning environment (forums, journals), the groups plan and execute the projects under the instructor's supervision. Finally, the groups present results, discuss problems and achievements in accordance with the overall study question [last five-week period].</p> <p>The lectures, individual preparations (homework/feedback) and group projects will figure 1/3 of the course each.</p>											
Introduction-Introductory seminar (VMC)(2)へ続く											

Introduction-Introductory seminar (VMC)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Homework (20%), project work, presentation and report (50%), feedback (10%), active participation (20%).

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

The course materials as well as lecture slides will be made available via the course webpage.
The course takes some guiding ideas from “ Inside-out Japan? Popular culture and globalization in the context of Japan, ” by Matthew Allen & Rumi Sakamoto. 2006.
Popular Culture, Globalization and Japan. London & New York: Routledge. pp.1-12. Reading their introduction/book is not mandatory but the chapter may be obtained prior to the course by contacting the instructor.

【授業外学修（予習・復習）等】

Participants need to prepare one reading before each in-class session and are asked to write short comprehension essays afterwards. During project phases, participants will conduct group work and submit meeting protocols afterwards. Preparation and review require at least one hour.

（その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment. The course webpage will be available to download the course material.

Please contact the instructor Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目81

科目ナンバリング		U-LET36 3JK07 SE36									
授業科目名 <英訳>		Skills for Transcultural Studies I-English Skills for Transcultural Studies I-English				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定助教 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Advanced skills for humanities research in English: reading, writing, and discussion									
【授業の概要・目的】											
<p>The goal of this course is to familiarize humanities-focused students with different genres of academic texts and to develop their abilities to express themselves to international audiences, both in writing and in speech. Simply put, by the end of the course students should be better able to participate in English-language research activities.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will develop their analytical skills and their understanding of how to organize research findings effectively. Intensive reading and writing practice will acquaint them with the vocabulary, grammatical structures, and modes of expression characteristic to academic papers. Presentations and discussions will improve their ability to express opinions about complex academic topics in English.</p> <p>Study Focus: all. Modules: Skills in Transcultural Studies I.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The primary assignments will be two 5-7 page essays. For the first essay, students will be making a persuasive argument. For the second essay, students will be doing a close analysis of a text (or texts), chosen in consultation with the instructor, on a topic related to their research interests. There will be several steps before submitting each essay. First, in the leadup to each essay students will complete three shorter writing exercises. Second, students will read one (or more) essays by their classmates, then provide written and oral feedback.</p> <p>The final project, preparations for which we will discuss throughout the course, is a 10- to 15-minute presentation on a topic related to students' research interests. Essay 2 will provide material around which students can structure their presentations.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Reading 3. Using sources 4. Arguments 5. Structure 6. Peer Review 1 7. Testing your argument and discussing writing practices (Essay 1 submission) 8. Searching out and gathering up ideas 9. Close-reading 10. Analysis 11. Style 12. Editing and Revision 											
----- Skills for Transcultural Studies I-English(2)へ続く -----											

Skills for Transcultural Studies I-English(2)

- 13. Peer Review 2
- 14. Discussing the mini research presentation (Essay 2 submission)
- 15. Mini research presentations

Please note that the above content of the course is subject to change. A finalized plan will be determined based on student numbers and feedback.

【履修要件】

Evidence of advanced English skills (a TOEIC score of 700 or higher).

【成績評価の方法・観点】

Class Participation: 15%
Exercises: 20%
Essay 1: 20%
Essay 2: 25%
Final Presentation: 20%

【教科書】

使用しない
Reading materials will be provided as PDF files.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/>

【授業外学修(予習・復習)等】

Students will have to read the assigned papers, book chapters, etc, before they are scheduled for class discussion. They are expected to prepare their presentations and essays on their own; assistance with the selection of topics will be offered when necessary.

(その他(オフィスアワー等))

Office hours: by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目82

科目ナンバリング		U-LET36 3JK10 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar(SEG) Foundations I-Seminar(SEG)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定助教 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		What Is Transcultural History?									
【授業の概要・目的】											
<p>Although national borders typically structure academic research, historical change extends beyond individual nation-states. In many cases, topics such as imperialism, migration, travel, scientific and technological change, capital flows, artistic movements, and language cannot be grasped without examining supra-national and sub-national scales.</p> <p>This course allows students to examine the methods, assumptions, and findings of recent historical work that can be variously (and perhaps simultaneously) be classified as "global," "transnational," and "transcultural." A key focus of the seminar is to engage deeply with book-length monographs that cover a wide range of case studies and approaches. Students will evaluate and discuss research that makes use of multi-location, multi-lingual historical archives, field sites, and interview subjects. Along the way, they will have the opportunity to plan global, transnational, and/or transcultural historical projects of their own.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> • To understand recent trends in English-language global, transnational, and transcultural historical research • To develop research questions that address border-crossing historical problems • To work with historical archival sources on campus and through online sources • To enable students to sharpen their skills in critical analysis through structured reading, discussion, written assignments and a small scale research project. 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Ideas of (Cultural) History 3. Space 4. Global/Transnational History 5. Material Culture 6. (Global) Microhistory 7. Mid-Term Exam 8. Migration and Mobility 9. Modes of Comparison and Connection 10. Gender 11. Labor 12. Race 13. Environment 14. Knowledge on the Move: Science and Technology 15. Paper presentations <p>(Please note that topics are subject to change)</p>											
----- Foundations I-Seminar(SEG) (2)へ続く -----											

Foundations I-Seminar(SEG) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Attendance, participation, and presentations in class (30%)
Short weekly reading responses (25%)
Midterm essay on course readings (15%)
Final paper (30%)

【教科書】

授業中に指示する

At least one copy of the books should be available in the library and through the university's online subscriptions, although in some cases (particularly during the weeks where you are responsible for presenting) it may be advisable to purchase a new or used copy for yourself.

In other cases, articles will be available for download through the university library or distributed before class.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

- Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions and presentations each week.
- Students are expected to actively participate in preparations for the final project.

(その他(オフィスアワー等))

- Office hours will be held once a week at a fixed time (to be determined) and by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目83

科目ナンバリング		U-LET36 3JK11 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar(VMC) Foundations I-Seminar(VMC)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 印南 芙沙子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Polygraphing Japonisme: (Re)tracing the circulation of cultural imaginaries									
【授業の概要・目的】											
<p>This course aims to approach Japonisme not only as a visually oriented “ Japanese/Eastern craze ” but as a critical whole-body engagement, with depictions and representations of “ other ” cultures in literature, visual culture, and performance. It also intends to proactively examine the formation and the development of cultural theory, in conjunction with the emergence of various “ -isms ” from the late nineteenth century onward. Through multimedia texts/examples (e.g., travel writing/diaries, essays/novels, operas/music scores, prints/photographs/films) produced by people who visited/lived/were interested in Japan, as well as by Japanese natives, with cross-cultural interactions and imaginations, this course explores how various ways of “ graphing ” (tracing creatively) cultural imaginaries shaped the broader trend of Japonisme. Overall, by approaching Japonisme through the interconnected web of multimedia representations and cultural discourses, this course critically rereads the modern circulation of cultural images focused on vision and literacy. Moreover, it suggests a mode of multisensory engagement in arts, which can ask several fundamental questions, including how each sense modality and art form relate to one another, how arts contribute to conscious living and to the environment, and above all, how we shape and “ rewrite/regraph ” cultural knowledge.</p>											
【到達目標】											
<p>By the end of this course, students are expected to possess a critical understanding of a range of texts, images, and representations with relevant artistic, theoretical, and political trends in a global sphere, as well as knowledge of relevant cultural debates, such as orientalism, colonialism/post-colonialism, and modernism in directly relevant fields. Students are expected to have the ability to critically analyze a variety of textual genres and performance/visual/media cultures, think across disciplines, and undertake cross-cultural analyses by proactively thinking about ways to bridge cultural and social differences. Moreover, they will have enhanced abilities in critical thinking, essay writing, oral presentation, and independent research, as well as skills in teamwork through peer support/group reading.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Session 1-2: Introduction: Art, Life, and Expression Session 3-4: Circulation: Objects, Commodities, or Float Session 5-6: Photogenic Screen and Cultural Imaginaries Session 7-8: Encounter: Emotion and Love as Matter of Political Economy Session 9-10: Operatic Japonisme Session 11-12: Impressionistic Sonic Sceneries Session 13-14: Living the Double Identities Session 15: Reflection: Cultural Translation</p>											
----- Foundations I-Seminar(VMC)(2)へ続く -----											

Foundations I-Seminar(VMC)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Students are expected to prepare a 500-word response paper for each of paired sessions - no submission is required, although students can use it as a part of their in-class oral presentations (this oral presentation weighs 10 points, 10% of overall mark), leading to the final assessment through one dossier submission. Students will submit a written essay/paper dossier (5,000 words, which weighs 90 point, 90%), to be marked according to 6 grades. Teaching and assessment will be in English; when the reading materials include texts written in other languages (i.e., when a published English translation is unavailable), English translation will be provided.

【教科書】

Chelsea Foxwell and Anne Leonard, eds 『Awash in Color: French and Japanese Prints』 (University of Chicago Press, 2012)
Miya Elise Mizuta Lippit 『Aesthetic Life: Beauty and Art in Modern Japan』 (Harvard University Asia Center, 2019)
Josephine D. Lee 『The Japan of Pure Invention: The Racial History of Gilbert and Sullivan ' s The Mikado』 (University of Minnesota Press, 2010)
Seiji Lippit , ed 『The Essential Akutagawa』 (Marsilio, 1999)
Maureen Honey and Jean Lee Cole 『Madame Butterfly and A Japanese Nightingale』 (Rutgers University Press, 2002)
Alexandra Kieffer 『Debussy ' s Critics: Sound, Affect, and the Experience of Modernism』 (Oxford University Press, 2019)
Chapters from above-mentioned books as well as journal articles and additional materials (handouts) will be used.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Students are expected to conduct independent learning and research during the course. This includes independent reading, critical/analytical thinking, and essay-writing. Above-mentioned 500-word response papers can be used toward oral presentation and the final paper, so that students will engage with essay writing as a process throughout the course.

(その他 (オフィスアワー等))

Office hours will be held with appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目84

科目ナンバリング		U-LET36 3JK11 LE36									
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar(VMC) Foundations I-Seminar(VMC)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 KITSNIK Lauri			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Transcultural Dialogues in Japanese Popular Music									
【授業の概要・目的】											
<p>The aim of this course is to provide a survey of major developments in Japanese popular music since 1945 to this day. Perhaps more than any other medium, popular music has been dependent on an ongoing dialogue with contemporaneous global trends, particularly those emerging from the US, and in the process adopting and adapting various genres ranging from jazz to hip-hop. This course will take us through the late 1940s proliferation of blues idioms, the rockabilly boom of the 1950s, 'Group Sounds' and folk rock movements of the 1960s, 'New Music' and 'Techno Pop' of the 1970s and 1980s, and rap music since the 1990s, leading to a regional expansion and global exposure of J-Pop around the turn of the century. By listening and paying attention to the soundtrack of contemporary Japan, we will reconsider the capacity of popular music to successfully navigate between polarities such as art and industry, authenticity and commercialism, mainstream and underground, tradition and innovation, indigenous and foreign. Methodologically, this course aims to strike a balance by drawing both from cultural studies and ethnographic approaches.</p>											
【到達目標】											
<p>The students will</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) gain knowledge on the historical development of Japanese popular music, its key genres and major artists; 2) learn to relate the above trends to a wider historical, social and geopolitical context; 3) become familiar with various approaches for studying popular music with an opportunity to apply these on their own future research projects; 4) acquire skills for textual and musical analysis of popular music; 5) extend their abilities to summarise past scholarship in oral presentation, and communicate their own original arguments in classroom discussion and writing. 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Bourdaghs, Introduction and The Music Will Set You Free, p. 1-48 3. Bourdaghs, Mapping Misora Hibari, p. 49-84 4. Bourdaghs, Mystery Plane, p. 85-112 5. Bourdaghs, Working within the System, p. 113-157 6. Bourdaghs, New Music and the Negation of the Negation, p. 159-194 7. Bourdaghs, The Japan Than Can "Say Yes" and Coda, p. 195-228 8. Condry, Introduction, p. 1-23 9. Condry, Yellow B-Boys, Black Culture, and the Elvis Effect, p. 24-48 10. Condry, Battling Hip-Hop Samurai, p. 49-86 11. Condry, Genba Globalization and Locations of Power, p. 87-110 12. Condry, Rap Fans and Consumer Culture, p. 111-133 13. Condry, Rhyming in Japanese, p. 134-163 14. Condry, Women Rappers and the Price of Cutismo, p. 164-180 15. Condry, Making Money, Japan-Style and Conclusion, p. 181-220 											
											Foundations I-Seminar(VMC)(2)へ続く

Foundations I-Seminar(VMC)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Individual presentation, participation in classroom discussion, final essay

【教科書】

Michael Bourdagh 『Sayonara America, Sayonara Nippon: A Geopolitical Prehistory of J-Pop』 (Columbia University Press, 2012)
Ian Condry 『Hip-Hop, Japan: Rap and the Paths of Cultural Globalization』 (Duke University Press, 2006)

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Read the assigned textbooks during the course

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目85

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		Foundations I-Seminar (KBR/VMC) Foundations I-Seminar (KBR/VMC)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 張本 研吾			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Tokusatsu films and TV shows: as a window to cultural transfers to and from Japan in the third quarter of the 20th century									
【授業の概要・目的】											
This course aims to introduce students to the transculturality of twenty-five years of post-WWII Japan by means of Tokusatsu films and TV shows represented by Godzilla movies and the Ultraman series. We pay attention to their interactions with other cultural phenomena of the era. Some of the cultures involved include the ones that adopted: the US, Europe and Asia. Other cultures that inspired the Japanese include that of India.											
【到達目標】											
Students will develop eyes to discern social and cultural phenomena that traversed different cultures through seemingly popular entertainment. They will become familiar with diverse social, political and cultural matters that influenced the creation and spread of such entertainment.											
【授業計画と内容】											
Week 1 and 2: Godzilla 1954: Birth of Godzilla, atomic bomb, hydrogen bomb, natural disasters, the century of science and technology											
Week 3: Acceptance of Godzilla movies in the West: Cold War, exoticism											
Week 4: Rodan 1956: Known better outside Japan, industry and economy of Japan in early post-war period, early movie tourism, JSDF											
Week 5: Mothra 1961: US occupation of Japan, Anpo protests (anti US-Japan Security Treaty movement), Japanese view of Southeast Asia											
Week 6: Godzilla vs King Kong (1962)											
Week 7: Mothra vs Godzilla (1964):											
Week 8: Ghidorah, the Three-headed Monster (1964): Roman Holiday, space age, Japan's changing mood											
Week 9: Invasion of Astro-Monster (1965): Japanese mythology, Space race, UFOs											
Week 10 and 11: Ultra series (1966#8211): Japanese answer to Superman; Buddhist inspiration?											
Week 12 and 13: Detour: From the Bhagavadg#299t#257 to Godzilla: Oppenheimer, Nazi leadership, Indian philosophy; the idea of avat#257ras											
Week 14: The 6 Ultra Brothers vs. the Monster Army (1974 Thai production): How cultures transfer and											
----- Foundations I-Seminar (KBR/VMC)(2)へ続く -----											

Foundations I-Seminar (KBR/VMC)(2)

merge, how the locality and age affect creations

Week 15: Godzilla vs Hedorah: back to the roots? clear case of cultural commentary to the current crisis and conclusion to the course

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class participation 40%; Homework 40%; Final paper: 20%

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

Due to time constraints, students are advised to watch the subject films prior to the class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目86

科目ナンバリング		U-LET36 3JK15 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 海田 大輔			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Contemporary Japanese Philosophy (Post-World War II Japanese Philosophy)									
【授業の概要・目的】											
<p>This course explores various aspects of contemporary Japanese philosophy (Post-World War II Japanese philosophy) by reading Japanese primary sources in English translation, and discussing them in English. Participants will read and discuss papers by: Yuasa Yasuo, Ueda Shizuteru, Omori Shozo, Nakamura Yujiro, Kimura Bin, and Sakabe Megumi.</p>											
【到達目標】											
By the end of the term students will gain some basic understanding of contemporary philosophy in Japan.											
【授業計画と内容】											
<p>1 Introduction 2-3 Yuasa Yasuo "Toward an East-West Dialogue" 4-5 Ueda Shizuteru "Horizon and the Other Side of the Horizon" 6-8 Omori Shozo "The Realism of 'Form qua Emptiness'" 9-10 Nakamura Yujiro "Common Sense and Place" 11-12 Kimura Bin "Time as the Between" 13-14 Sakabe Megumi "Appearance and Copula" 15 Feedback</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>At the end of the term students will be asked to write a paper. Students' grades will be weighed according to the following scheme: Attendance 20% Active participation in discussion 20% Term paper 60%</p>											
【教科書】											
<p>使用しない The reading materials will be uploaded on KULASIS.</p>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Students will be asked to read the materials for the class in advance and come prepared to discuss them.
Every student will be expected to raise at least one point that he or she thinks is worth discussing in a class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目87

科目ナンバリング		U-LET36 3JK15 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Franz Kafka and East Asian culture									
【授業の概要・目的】											
<p>The culture of East Asia enjoyed a great popularity in Europe at the beginning of the 20th century. Also the Prague author Franz Kafka (1883-1924), who wrote "The Great Wall of China" (1917) and other stories set in China, loved Chinese poetry and identified himself with great poets like Li Po (Li Bai) and Thu Fu (Du Fu). Since Elias Canetti emphasized the affinity of his literature with Taoist thought, Kafka has even been regarded as a "Chinese" poet. But in my lecture, I will keep a distance from such an essentialist point of view and instead, will analyze Kafka's representation of China and Chinese as a form of Orientalism in the sense defined by Edward Said. At the same time, the historical context in which East Asian culture was received enthusiastically among European intellectuals will be explored.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will on the one hand gain basic knowledge about Kafka's reception of East Asian culture, and on the other hand understand the correlation between the representation of the Other and the formation of national (ethnic) self-identities.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) Introduction: Kafka as a "Chinese" poet? (2) Characteristics of German colonialism (3) Karl Kraus: Jewish self-hatred and discourses on the Yellow Peril (4) Martin Buber: Taoism and Zionism (5) Exkursus: Hermann Hesse and Eastern thought (6) Kafka reads Chinese poetry: Hans Heilmann's "Chinese Lyrics" (7) The Jewish crisis of masculinity in "Letters to Felice" (8) East Asian elements in "Description of a Struggle" (9) "The Great Wall of China" in the Zionist context (10)-(14) Presentations by students (15) Conclusion: Representing the Other and the Self</p>											
【履修要件】											
<p>Completion of modules " Introduction to Transcultural Studies, " " Skills for Transcultural Studies, " " Focus 1 " and " Focus 2 "</p>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)

[成績評価の方法・観点]

Homework (30%), participation (30%), final report (40%).

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

Edward Said: Orientalism. New York: Pantheon Books, 1978.

Ritchie Robertson: Kafka. Judaism, Politics, and Literature. Oxford: Clarendon Press, 1987.

Adrian Hsia (ed.): Kafka and China. Bern: Peter Lang, 1996.

Rolf Goebel: Constructing China. Kafka ' s Orientalist Discourse. New York: Camden House, 1997.

Russell A. Berman: Enlightenment or Empire. Colonial Discourse in German Culture. Lincoln: University of Nebraska Press, 1998.

Scott Spector: Prague Territories. National Conflict and Cultural Innovation in Franz Kafka's Fin de Siècle. Berkeley: University of California Press, 2000.

Robert Lemon: Imperial Messages. Orientalism as Self-critique in the Habsburg Fin de Siecle. New York: Camden House, 2011.

(関連URL)

<https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/>

[授業外学修 (予習・復習) 等]

The participants are expected to read texts uploaded in the CATS websites at home before they attend each class.

(その他 (オフィスアワー等))

*Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目88

科目ナンバリング		U-LET36 3JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 佐野 真由子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Japan's early diplomacy during the last decade of the Tokugawa Shogunate									
【授業の概要・目的】											
<p>This course aims to explore Japanese diplomacy during the last decade of the Tokugawa Shogunate, through in-depth readings of documents (such as memoirs, diaries, and diplomatic correspondences) written by people who worked on the ground during that time.</p> <p>In the course of 2021, we will encounter with the British diplomat Ernest Mason Satow (1843-1929), one of the most famous figures in the early diplomatic history of Japan, who served in the country for the periods between 1862 and 1883, and from 1895 till 1900; he started as a young student-interpreter during the last years of Tokugawa regime and is known to have played an important role in the backstage of the Meiji Restoration. In a longer career, he also worked in Siam, Uruguay, Morocco, and finally in China.</p> <p>Large part of the course will be dedicated to looking into his own writings, in combination with some other sources when necessary. Students are not only expected to learn the Japanese history of Satow's time, but to critically discuss his conducts in and understanding of a culture different from his own.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will have apprehended the transcultural nature of Japan's path in the late 19th century. It is also aimed to familiarize the students with historical studies through carefully following an individual's experiences.</p> <p>Furthermore, it is an important objective of the course to critically discuss people's conducts and development of their work in the forefront of facing a different culture.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1: Introduction</p> <p>Week 2-13: Discussions on Satow's experiences mainly through his representative book "A Diplomat in Japan" (1921) and his diaries, in combination with some other sources when necessary, including his diplomatic correspondence.</p> <p>Classes will consist of: - Students' presentations on assigned readings (mainly from the above-mentioned book); - Discussions and further analyses in class; and - Introduction to additional sources and reading materials.</p> <p>Week 14-15: Final presentations and discussions (feedback) on the students' plans for their final papers.</p> <p>Note: The schedule and contents of the course may be reconsidered depending on the number of students, their knowledge of the Japanese language, and other related conditions.</p>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)

【履修要件】

Each student will be assigned in-depth readings and related research about a particular part of Satow's writings and will give at least two oral presentations (mid-term and final) during the course. All students are expected to have read the part to be covered in each class, if not personally assigned, and to actively participate in discussions.

【成績評価の方法・観点】

Evaluation criteria:

- 1) Oral presentations (each with an outline of several pages to be shared with all participants): 40%
- 2) Term paper (2,500-3,000 words): 60%

【教科書】

Sir Ernest Satow 『A diplomat in Japan』 (Seeley, Service; 1921)

The pages from the text book to be used in the course will be provided in class. (Otherwise, students may use the e-book version.)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修 (予習・復習) 等】

See [Class requirement].

(その他 (オフィスアワー等))

Consultation (office hours) by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目89

科目ナンバリング		U-LET36 3JK17 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 河合 淳子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		SocSci Research Methods in Education									
【授業の概要・目的】											
<p>This course will examine various approaches and topics in the study of Japanese education, culture and society through reading sociological works on Japan. Education is a complex subject partly because everyone, having been educated, has a personal view about what education should be and should not be. However, generalizing from one's own experience can be dangerous. This is one of the reasons why sociological perspectives become important in the field of education.</p> <p>Students will also learn the nature, purposes and methods of social science research in the field of education and each students will experience a small-scale research project to explore practical aspects of what students have learnt in class. Students will have opportunities to take a close look at what is happening and what has happened in Japanese education.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> • To understand sociological perspectives in education and the importance of social science research in education • To gain knowledge of various research methods and to experience one of them • To develop interests to participate in cooperative projects with members from various cultural background. • To enable students to sharpen their skills in critical analysis through structured reading, discussion, written assignments and small scale research project. 											
【授業計画と内容】											
<p>1. Sociological perspectives on education (Week 1) What do we know about education of our own? Do we really know about it?</p> <p>2. The nature and purposes of social research in the field of education (Week 2-3)</p> <p>3. Investigation on Japanese education (Week 4-7) 3-1: Condition of language education in Japan - Why do reforms return again and again? 3-2: Transition from schools to work - Introduction of various approaches- Functionalist approach, Conflict theorist approach, and Micro-interactionism 3-3: Futoko (Truancy, Non-attendance) - Discourse analysis of educational problems 3-4: Life of adolescences - Roles of Japanese school clubs, functions and culture of cram schools, teacherstudent relationship, relationship between schools and families.</p> <p>4. Research Planning: What are your research questions? (Week 8)</p> <p>5. Lecture: Introduction to Research Methods (Week 9-12) 5-1: Modes of Inquiry- Quantitative Modes of Inquiry and Qualitative Modes of Inquiry 5-2: Sampling Techniques</p>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)

5-3: Data Collection Techniques (1) Questionnaire (2) Observation (3) Interview

5-4: Interpretations of Data

6. Ethical issue in social research (Week 13)

7. Presentation on your project (Week 14)

Feedback

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Participation to the group project and class activities (30%), short reports(30%), and Final report(40%). 授業への参加 (30%)、課題レポート (30%)、期末レポート (40%) で評価する。

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

Grading for JDTS/MATS full seminar students.

The grading policy for JDTS/MATS full seminar students are same as above. Details are as follows.

- Short reports 1 and 2 (30%)
- Report 3 (40%)
- Class Participation (30%)

Grading for JDTS/MATS reduced seminar students

- Short reports 1 and 2 (40%)
- Final presentation handout (20%)
- Class Participation (40%)

Class participation includes i) Presentations (one short introductory presentation (5min.) of your topic and a final presentation), ii)Introducing assigned readings,and iii)Participation in discussions and activities in regular classes.

【教科書】

授業中に指示する

プリント配布

Handouts will be distributed.

【参考書等】

(参考書)

Fukuzawa, Rebecca E. and LeTendre, Gerald. 『Intense Years: How Japanese Adolescents Balance School, Family, and Friends』 (Taylor and Francis,2001)

Rohlen, Thomas and LeTendre, Gerald (eds.) 『Teaching and Learning in Japan』 (Cambridge University

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(3)

Press, 1998)

McMillan, James H. and Schumacher, Sally 『Research in Education; A Conceptual Introduction, 5th edition』 (Addison Wesley Longman, Inc., 2001)

Weiss, Robert S. 『Leaning from Strangers: The Art and Method of Qualitative Interview Studies』 (The Free Press, 1994)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

・ Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions in each week. ・ Students are expected to actively participate in preparations for the small-scale group project.

(その他 (オフィスアワー等))

・ Office hour by appointment ・ We will conduct a small-scale group (or individual) research project in the latter half of the course. Transportation fee, if necessary, should be covered by students. Enroll in Personal Accident Insurance for Students while Pursuing Education and Research.

講義後半には小グループまたは個人で簡単な実地調査に取り組む。旅費 (交通費) が必要な場合、原則として受講生の負担となります。学生教育研究災害傷害保険に各自加入しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目90

科目ナンバリング		U-LET36 3JK19 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 Mitsuyo Wada-Marciano			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4,5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Ecocinema: From Plastic Garbage to Art									
【授業の概要・目的】											
<p>The search for a sustainable life is a pressing issue in Japan, especially after the Fukushima disaster. However, those of us living in Japan are uncertain about where to start and how to proceed. This course will examine “ ecocinema, ” focusing specifically on films from the U.S., P.R.C. and Japan that tackle issues of nuclear power, agriculture, and sustainable life. By examining those issues in different regions, we will imagine how global sustainability might look and what roles our transcultural communities might play in the future.</p>											
【到達目標】											
<p>First, students will learn about a wide range of issues in present global ecology and a variety of documentary films categorized as “ ecocinema. ” Second, students will learn how to analyze those films. They will study, step-by-step, how to approach and analyze the medium of film. Third, in developing and writing their final essays, students will hone their ability to produce a persuasive paper. During our final two to three weeks, all students will present their final essay topics to the class.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The course will be offered in accordance with the following general structure. A detailed plan for each class will be determined depending on enrolment and feedback from the participants, and it will be announced in class. The reading materials for each week will be announced at the beginning of the course.</p> <p>(week 1-2) Introduction: What is Ecocinema?</p> <p>(week 3-4) Issues on Global Warming An Inconvenient Truth (2006, dir. Davis Guggenheim, 1 h 36 min) 35 Inconvenient Truths (adapted from a report by Christopher Monckton, 9:53 and 8:57 min)</p> <p>(week 5-6) Planet or Plastic? Plastic China (2016, dir. Jiuliang Wang, 1 h 22 min)</p> <p>(week 7-8) Issues on Alternative Energy Ashes to Honey (2010, dir. Hitomi Kamanaka, 2h 15 min)</p> <p>(week 9-10) Issues on Fukushima Nuclear Nation (2012, dir. Atsushi Funahashi, 1h 36 min)</p> <p>(week 11-12) Food Ecology and Animal Rights Food, inc. (2008, dir. Robert Kenner, 1h 34 min) A Story of a Butcher ' s Shop (2013, dir. Aya Hanabusa, 1h 49 min) excerpt</p>											
											Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)へ続く

Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)

(week 13-15) student presentations + wind down

【履修要件】

Number of participants not more than 10.

【成績評価の方法・観点】

Active Participation + Attendance (20%), Leading Discussion on Reading Materials (10%), Short Reaction Paper (20%), Presentation (10%), Final Paper (40%).

【教科書】

Not used. Reading materials will be retrieved digitally from our homepage.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

The participants are expected to complete all reading materials before they come to our class.

（その他（オフィスアワー等））

*Please visit KULASIS to find out about office hours.

*Consultation (office hours) by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目91

科目ナンバリング		U-LET36 3JK19 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture) Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 Mitsuyo Wada-Marciano			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4,5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Transcultural Asian Cinemas & Transcultural Cinema Forum 2021									
【授業の概要・目的】											
<p>This course examines contemporary East Asian cinemas' transnational current at various levels of industry, genre, filmic style, and global commodification. Despite Hollywood cinema's historical dominance of the global cinema market, the ways in which cinema is disseminated have never been monolithic. Such cultural traffic has occurred through negotiations among locales, regions, and nations, across Asian countries, including Japan, Hong Kong, Taiwan, and Korea, and with Hollywood as well.</p> <p>This 2-month intensive course, cosponsored with Transcultural Cinema Forum, scrutinizes the dynamic between the global and the local by focusing on those East Asian cinemas' strategies towards globalization and regionalization. The course has been constructed in multiple sections, investigating transcultural aspects in cinema with specific topics, such as "cross media images in/beyond Taiwan," "documentary as hybrid genre," "nuclear problems beyond national boundaries," "imperial Japan's tourism films," "talkies in Japan and colonial Korea," and "comparison of queer cinema in Taiwan and Korea." We will analyze films and other moving images from Okinawa, the rest of Japan, South Korea, and PRC this year.</p> <p>This course is designed for all students who are interested in screen culture in Asia. Attending lectures, which will be held on Tuesdays in class, is mandatory in order to discuss both films and reading assignments during our class. Due to the Covid-19, guest speakers reside outside Japan will participate via zoom.</p>											
【到達目標】											
<p>This class will give students the tools to map the current state of East Asian cinema and "transculturality" conformed among them, and to develop their original, compelling ideas on those films. All students will strengthen their ability to communicate clearly and make persuasive arguments orally and in writing. We will discuss various films from the PRC, Taiwan, South Korea, and Japan, and students will be assigned to see films outside a classroom due to the limitation of class hours.</p> <p>By the end of this course, students are expected to be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> • draw on concepts from Film Studies to analyze a film's narrative and form, not just its content • expand knowledge of issues in Asian and transnational cinemas, and apply critical frameworks, film theories, and historiographical approaches • make original arguments and support them with evidence and a logical chain of reasoning • communicate their ideas clearly in writing, discussions, and oral presentations 											
【授業計画と内容】											
Week 1-2 Introduction											
----- Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(2)

Week 3-4

Guest Lecturer: Dr. Yoshinobu Tsuno'o (Assistant Professor of Film Studies, Wako University)

Topic: TBA

Screening: TBA

Readings: TBA

Week 5-6:

Guest Lecturer: Dr. Tamako Akiyama (Assistant Professor of Chinese Studies, Kanagawa University)

Topic: TBA

Screening: TBA

Readings: TBA

Week 7-8

Guest Lecturer: Dr. Yutaka Kubo (Associate Professor of American Studies, Kanazawa University)

Topic: TBA

Screening: TBA

Readings: TBA

Week 9-10

Guest Lecturer: Dr. Kosuke Fujiki (Assistant Professor of Film Studies, Education Department, Okayama University of Science)

Topic: TBA

Screening: TBA

Readings: TBA

Week 11-12

Guest Lecturer: Dr. Lauri Kitsnik (Associate Professor of Japanese Studies, Hiroshima University)

Topic: TBA

Screening: TBA

Readings: TBA

Week 13-14

Guest Lecturer: Dr. Fumiko Tsuneishi (Associate Professor of German Studies, Dokkyo University)

Topic: TBA

Screening: TBA

Readings: TBA

Week 15

Students' presentations on their final papers.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

1. Attendance + Participation 20%

Research 1~3-Seminar (VMC)(Lecture)(3)

2. Essay Assignment 20%

Write a short paper analyzing one of the reading assignments. Your paper should be comprised of two sections: (1) summarize your chosen material and indicate what idea(s) that you like in the reading material and (2) point out problem(s) of the material, i.e. criticism.

You will submit your assignment in class. 3 page in length is maximum (double space; font 11). No late assignments will be accepted.

3. Presentation on your final essay topic 20%

The total length of your presentation is about 20 minutes.

Please come up with a one-page outline of your presentation, make copies of it and provide them to all classmates + me in class.

Evaluations of presentations are based on the following aspects:

- (1) level of thesis (focused, connected with any specific discourse related with our discussions in class, etc.)
- (2) adequate supports (quality of research on the topic, awareness of the existing literature, etc.)
- (3) organization of presentation

4. Final Essay 40%

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

The participants are expected to complete all reading materials before they come to our class. Each week, all students will have to view an assigned film prior to coming to class. The logistic will be explained in the introduction.

(その他(オフィスアワー等))

My office hours are TBA.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目92

科目ナンバリング		U-LET36 3JK21 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高嶋 航 人文科学研究所 准教授 村上 衛 文学研究科 特定助教 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Modern East Asian History									
【授業の概要・目的】											
<p>This course explores Modern East Asian History from transcultural perspectives.</p> <p>From Session 1 to Session 5: The first section will introduce the history of science and technology in 20th century East Asia.</p> <p>From Session 6 to Session 9: We will discuss various aspects of the South China Sea in the 19th century.</p> <p>From Session 10 to Session 14: Modern sports in East Asia have a long history. The sessions provide interesting topics of that history.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> -get a sense of major issues and new approaches to the study of science, technology, and society in East Asia. -further understand society and economy of Modern China from the perspective of maritime history. -develop a good understanding of sports in Modern East Asia. 											
【授業計画と内容】											
<p>Weeks 1-5</p> <ul style="list-style-type: none"> • Science, Technology, and Modern East Asia • Infrastructure • Waste, Scarcity, and Substitution • Cultivation "Revolutions": Red, Green, and Blue • Risk and Disaster <p>Weeks 6-10</p> <ul style="list-style-type: none"> • Opium Trade in the Coastal Area of China before the Opium War • "Traitors" and the Qing Government's Policies toward Coastal Residents of Fujian and Guangdong during the First Opium War • The End of the Coolie Trade in Southern China • Pirates of Fujian and Guangdong and the British Royal Navy <p>Weeks 11-14</p> <ul style="list-style-type: none"> • Introduction: Girl ' s Baseball in East Asia • The Japanese Empire and Sports • Sports and Masculinities in Japan <p>Week 15 Feedback</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Active participation (30%), short essays (30%), and final essay (40%).</p> <p>To JDTS/MATS students: This course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS).</p>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)

Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Hiromi Mizuno, Aaron S. Moore, John Dimoia, eds. 『Engineering Asia: Technology, Colonial Development, and the Cold War Order』 (Bloomsbury)

Shellen Wu 『China: How Science Made a Superpower』 (Nature (October 2019))

Eiko Maruko Siniawer 『Waste: Consuming Postwar Japan』 (Cornell University Press)

Sigrid Schmalzer 『Red Revolution, Green Revolution: Scientific Farming in Socialist China』 (University of Chicago Press)

Yeonsil Kang 『Bodies as Evidence: Activists and Patients Responses to Asbestos Risk in South Korea』 (Science, Technology, and Society (2016))

Sara Pritchard 『An Envirotechnical Disaster: Nature, Technology, and Politics at Fukushima』 (Environmental History (2012))

Fairbank, John K 『Trade and Diplomacy on the China Coast: The Opening of the Treaty Ports, 1842-1854』 (Harvard University Press)

Wakeman, Frederick, Jr. 『Strangers at the Gate: Social Disorder in South China, 1839-1861』 (University of California Press)

Yen Ching-hwang 『Coolies and Mandarins: China ' s Protection of Overseas Chinese during the Late Ch ' ing Period (1851-1911)』 (Singapore University Press)

Andrew D. Morris 『Marrow of the Nation: A History of Sport and Physical Culture in Republican China』 (University of California Press)

Stefan Huebner 『Pan-Asian Sports and the Emergence of Modern Asia』 (NUS Press)

【授業外学修（予習・復習）等】

The students are expected to read the assigned materials.

（その他（オフィスアワー等））

*Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目93

科目ナンバリング		U-LET36 3JK21 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 Bjorn-Ole Kamm			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Decisions, Orderings, and the Nation: Japan at Play									
【授業の概要・目的】											
<p>This course deals with leisure and play as matters of concern for politicians and many other actors in and outside Japan. Taking cues from relational materialism and a transcultural approach to studying culture as ordering difference, this course seeks to engage actors who have an ideal narrative about Japan and Japanese culture (e.g., expressed in leisure policies), how they ought to be, and analyzes the decision-making as well as the mechanisms, embodiments, and performances employed to reach that ideal. Such ideals and strategies are always in conflict with other ideals, thus always limited. Of interest are such orderings that actors are able to sustain, and, of course, where they fail.</p> <p>The picture of agents making a move and others a counter move, so that the outcome is not random chaos but that still no one has complete control, the metaphor of society or culture as some kind of game, framing social interactions as a game, asks to be taken seriously. Thus, this class includes a group project of designing a gaming simulation about leisure policies and nation-branding, such as a card game about tourism and taxes or temples and commodification.</p>											
【到達目標】											
<p>First and foremost, students will learn step-by-step protocols for critically reading existing literature and studies, followed by a framework for analyzing cultural phenomena by focusing on describable attempts of ordering (discourses, institutions, embodiments) that produce these phenomena using the example of Japan in a transcultural context.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Course sessions will be held in accordance with the following general structure. A detailed plan for each class will be determined depending on the number of and the feedback from the participants, and will be announced in class. Parts 2 and 3 may be organized as block sessions or held asynchronously with student presentations as videos on demand.</p> <p>(1) Introduction [3 weeks] Lecture on Cultural Studies as the study of ordering modes (theoretical concepts, basic terminology, methodological protocols) and "play" as an object of inquiry, followed by an introduction to debates about the "Japaneseness" of leisure activities in Japanese-language discourse (since the 1960s). Students will further be provided with guidelines for class preparation and exercises.</p> <p>(2) Readings and Discussion [5 weeks] Students will read studies on play, leisure and work taken from different moments in Japanese history (e.g., Meiji Restoration, prewar tourism, postwar income policies, lifestyle superpower, moratorium people or Akihabara redevelopment) to present and discuss these readings in class. The focus lies on the question if -- and how -- these readings exemplify studies of ordering modes and how different approaches may lead to different conclusions.</p> <p>(3) Exercises [6 weeks] Building on the previous sessions and depending on the number of participants, students will formulate and</p>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) (2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) (2)

conduct exercises on current issues in Japan in which play is ordered and managed. In a group project they will develop gaming simulations to understand cases of ordering.

(4) Conclusion and Feedback [1 week]

【履修要件】

3rd year or above (3年生以降).

【成績評価の方法・観点】

Bachelor students: Homework (20%), exercise and presentation script (50%), feedback (10%), active participation (20%).

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

The course materials as well as lecture slides will be made available via the course webpage.

The course takes guiding cues from

Kendall, Gavin, and Gary Wickham. 2001. *Understanding Culture: Cultural Studies, Order, Ordering*. London, Thousand Oaks: Sage.

Law, John. 1994. *Organizing Modernity*. Oxford: Blackwell.

Leheny, David. 2003. *The Rules of Play: National Identity and the Shaping of Japanese Leisure*. Ithaca: Cornell University Press.

Reading these books is not mandatory but the course will reference certain points of their discussion.

【授業外学修（予習・復習）等】

Regular homework as well as exercises will play an important role in this course. Participants need to prepare one reading before each class session and are asked to write short comprehension essays afterwards, both of which will require at least one hour. Participants present at least one topic in class, which also necessitates preparation out of class.

（その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment. The course webpage will be available to download the course material.

Please contact the instructor Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目94

科目ナンバリング		U-LET36 3JK21 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定助教 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Historical Seminar: Animals and Borders									
【授業の概要・目的】											
<p>This seminar introduces students to issues related to the historical study of animals. Animal history and the wider category of animal studies are areas of increased academic and popular interest, yet both encompass a wide range of approaches. In this course, we will examine persistent historical problems: defining (human and non-human) animals, living alongside them, working with them, fighting against them, memorializing them, and eating them. The course will make use of the explosive growth in English-language studies of animals in and around the Japanese archipelago. In so doing, it will allow students to consider how human-animal relationships have changed alongside political, cultural, and economic developments in Japan, East Asia, and the Pacific Ocean world.</p> <p>Classes will include discussion of books, articles, and films. The final project asks students to research the regional and transnational histories of institutions, spaces, and practices related to animals in the Kyoto area: the zoo, the aquarium, the mountains, the rivers, the pet cemetery, the cat cafe, and more.</p>											
【到達目標】											
<p>After this course, students should:</p> <ul style="list-style-type: none"> * better understand the methods, problems, and assumptions of animal history * undertake individual field and archival research * communicate ideas during in-class discussion and through written reports 											
【授業計画と内容】											
<p>Course Outline</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Why (and How) Do We Look at Animals? 3. Naming Nature 4. Domestication 5. Animal Actors 6. Creatures of Empire 7. Invasive Species 8. Species, Breed, Race 9. Disease 10. What is a Zoo? 11. Knowing Animals 12. The Sea 13. Conservation and Rewilding 14. Extinction 15. Presentations/Feedback 											
----- Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Attendance, participation, and reading presentations in class (30%), short book analyses (30%), and final research proposal and project presentation (40%).

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

- Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions and presentations each week.
- Students are expected to actively participate in preparations for the final project.

(その他(オフィスアワー等))

- Office hours will be held once a week at a fixed time (to be determined) and by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目95

科目ナンバリング		U-LET36 3JK21 LE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定助教 ERICSON, Kjell David			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期不定	曜時限	水6	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Transnational Japanese History Seminar: Migration, Labor, and Environment									
【授業の概要・目的】											
<p>This seminar-style course introduces students to recent approaches to the transnational study of Japanese history. In fall 2021, our focus will be on issues of migration, labor, and the environment. We will read about the history of diaspora and settler colonialism while delving into more intensive study of places beyond what might form the typical geographic focus of a course on Japanese history. In addition, the seminar is set up to be an interactive, hands-on introduction to ways of doing historical research in multi-lingual archives. A major feature of this course is its collaborative format, which will bring students at Kyoto University into direct conversation with students working in parallel on topics in transnational Japanese history at Zurich University.</p>											
【到達目標】											
<p>By the end of the course, students will:</p> <p>Better understand recent trends in the study of transnational Japanese history, particularly with regard to the history of migration, labor, and the environment.</p> <p>Have greater familiarity with the process of multi-lingual historical research. This includes ways of finding sources, reading them, forming arguments, and addressing ongoing academic debates.</p> <p>Improve their ability to express themselves in speech and in writing.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1: Introduction Week 2: Approaches to Diaspora and Settler Colonialism Week 3: Settler Colonialism in the Japanese Empire Week 4: Diaspora and Settler Colonialism beyond the Empire Week 5: Hawaii Week 6: Singapore Week 7: The World of the Arafura Sea Week 8: Central and South America Week 9: The North American Pacific Northwest Week 10: Returning to Categories of Diaspora and Settler Colonialism Weeks 11-13: Working on Individual Research Projects: Consultations and Peer Review Weeks 14-15: Final Presentations</p> <p>(Please note that the precise order of topics is subject to change.)</p>											
----- Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Evaluations will be based on attendance (20%), discussion participation (20%), reading responses (20%), and a final research paper (40%).

【教科書】

Most readings will be supplied as PDF files. Additional books will be available in the library.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

This course is open both to undergraduate and graduate students, but please note that the course will feature a substantial amount of discussion in English. If you have any questions about the course please contact the instructor.

（その他（オフィスアワー等））

Weekly office hours will be held along with individual consultations by request.

Please be aware that the current plan is to hold 5 of the course meetings in the evening starting at 18:00 to coordinate with students at Zurich University. Please refer above to the course plan and let the instructor know if you have any additional questions or concerns.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目96

科目ナンバリング		U-LET36 3JK24 SE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Colloquium) Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Colloquium)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Book Reading and Discussion on Japanese Thoughts and Culture: Japanese Traditional Drama, Two Plays by Chikamatsu Monzaemon									
【授業の概要・目的】											
<p>This Book Reading and Discussion course explores various aspects of Japanese thoughts and culture by reading Japanese Classics in English translation and discussing them in English. In this academic term participants will discuss Chikamatsu Monzaemon (1653-1725)'s two /sewamono/ ("the lives of ordinary people") plays written in his late years: /Shinju Ten no Amijima/(/The Love Suicides at Amijima/, 1721) and /Shinju Yoi Goshin/ (/Love Suicides on the Eve of the Koshin Festival/, 1722). Chikamatsu is arguably the most celebrated dramatist in Japan, who wrote many memorable and highly artistic plays for Ningyo-Joruri, or puppet drama, and Kabuki, or dance-drama, performance. Specifically, he is supposed to be the first dramatist in the world who staged common people as the protagonists of tragedies. As is often the case with his /sewamono/ plays, both /Shinju Ten no Amijima/ and /Shinju Yoi Goshin/ are based on the real incidents that happened in Chikamatsu's lifetime.</p> <p>The main purpose of this course is to provide occasions for communication between Japanese and international students, in a friendly atmosphere. By actively participating in discussions Japanese students will improve their English communication skills, and international students will deepen their understanding of Japanese culture.</p>											
【到達目標】											
By the end of the term students should gain some basic understanding of Ningyo-Joruri and Kabuki, and become confident in talking about Japanese culture in English.											
【授業計画と内容】											
<p>The plan of the course is as follows:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Reading /Shinju Ten no Amijima/ (1) Act 1 3. Reading /Shinju Ten no Amijima/ (2) Act 1 4. Reading /Shinju Ten no Amijima/ (3) Act 2 5. Reading /Shinju Ten no Amijima/ (4) Act 2-3 6. Reading /Shinju Ten no Amijima/ (4) Act 3 7. Reading /Shinju Ten no Amijima/ (5) Review 8. Reading /Shinju Yoi Goshin/ (1) Act 1 9. Reading /Shinju Yoi Goshin/ (2) Act 1-2 10. Reading /Shinju Yoi Goshin/ (3) Act 2 11. Reading /Shinju Yoi Goshin/ (4) Act 3 12. Reading /Shinju Yoi Goshin/ (5) Act 3 13. Reading /Shinju Yoi Goshin/ (6) Review 14. General discussion on Chikamatsu's works 											
----- Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Colloquium)(2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (KBR/VMC)(Colloquium)(2)

15. Feedback

Our discussion in each session will concentrate on a particular section indicated above.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

At the end of the term students will be asked to write an essay about /Shinju Ten no Amijima/ and /Shinju Yoi Goshin/ (2,000 words). Students' grades will be weighed according to the following scheme:

Active participation in discussion 50%

Course Essay 50%

【教科書】

授業中に指示する

Copies of the reading materials will be provided at the introductory session.

【参考書等】

(参考書)

Keene, Donald (tr.) 『Major Plays of Chikamatsu/.』 (New York, Columbia University Press, 1990)

Gerstle, Andrew (tr.) 『Chikamatsu: 5 Late Plays/.』 (New York: Columbia University Press, 2001.)

『Chikamatsu Zenshu/ 17 vols.』 (Tokyo: Iwanami Shoten, 1985-1994.)

Tsuchida, Mamoru (ed.) 『Joruri Shu/ (Shincho Nihon Koten Shusei).』 (Tokyo: Shincho Sha, 1985.)

Hitoshi, Matsuzaki et al. (ed.) 『Chikamatsu Joruri Shu/ (Shin Nihon Koten Bungaku Taikei).』 (Tokyo : Iwanami Shoten, 1995.)

【授業外学修（予習・復習）等】

Students will be asked carefully to read the materials for the class in advance and come prepared to discuss them. Every student is expected to raise at least one point that is worth discussing in the class.

（その他（オフィスアワー等））

*Please visit KULASIS to find out about office hours.

Consultation (office hours) by appointment. The course webpage will be available to download the course material.

Please contact Atsushi Hayase <hayase.atsushi.7n@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目97

科目ナンバリング		U-LET36 3JK26 SE36									
授業科目名 <英訳>		Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquium) Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquium)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 Bjorn-Ole Kamm			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Actors, Processes, and Networks: Studying (Sub-) Cultural Practices									
【授業の概要・目的】											
<p>Research into (sub-) cultures, for example fan studies, often focuses either on content or on the communities of fandom, at times essentialising involved persons or drawing borders around things that are highly interconnected and dynamic. Cultural practices, however, are performative, meaning that they exist through “doing,” through recreating, tracing the network of involved human and also non-human elements. With a focus on doing, transforming, and ordering, this course borrows from Wittgenstein, Foucault, Butler, Schatzki and Reckwitz but favours the heuristic device of the network: Practices are drawn as networks that have gained a certain durability that makes them recognisable for others with the consequence that they can be spoken about and be treated as a resource when doing the practice. A practice-as-network consists of interdependent material and non-material elements that encompass bodies, body parts, bodily movements, materials or things, practical knowledge or know-how/competences, and concepts/theoretical knowledge of the practice. Practices-as-networks are recursive: With each performance, the network is slightly reconfigured. With the example practice-as-network often abridged as role-playing games, this course introduces students to a (trans-) cultural studies approach of practices, actors and processes.</p>											
【到達目標】											
<p>Building on a Wittgensteinian approach to cultural practices, students will acquire knowledge and skills in how developing a matching research design for studies sensitive to the role of actors and materials alike. They will be introduced to theories of agency, networks, and practices on a general level, and learn about their concrete application with the example of non-digital role-playing games, focusing on games in and from Japan but in a global context.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Course sessions will be held in accordance with the following general structure. A detailed plan for each class will be determined depending on the number of and the feedback from the participants, and will be announced in class. Student presentations may be organized as block sessions or as videos on demand followed by discussion.</p> <p>The first sessions introduce students to actor, network, and practice theories as well as the case subject, role-playing games. Students will further be provided with guidelines for class preparation and exercises. Subsequent sessions look at the transcultural history of role-playing game practices, at game design theories, such as the Big Model, discussions about inclusion and exclusion among player groups, and detail tools for practice-oriented studies at home in the qualitative social sciences and engaging online as well as offline spheres of interaction.</p>											
----- Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquium) (2)へ続く -----											

Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquium) (2)

【履修要件】

3rd year or above (3回生以降).

【成績評価の方法・観点】

Students will have much flexibility in gaining points through various tasks they need to fulfill during the semester, such as actively guiding the discussion, translating course material into their own understanding, or presenting a topic in class. Evaluation depends on the number of fulfilled quests.

【教科書】

Fine, Gary Alan. 1983. 『Shared Fantasy: Role-Playing Games as Social Worlds.』 (Chicago: University of Chicago Press.)
Foucault, Michel. 1991. 『The Foucault Effect』 (Chicago: University of Chicago Press.)
Kamm, Bjorn-Ole. 2020. 『Role-Playing Games of Japan: Transcultural Dynamics and Orderings』 (New York: Palgrave Macmillan)
Latour, Bruno. 2005. 『Reassembling the Social. An Introduction to Actor-Network-Theory』 (Oxford: Oxford University Press)
Law, John, and Annemarie Mol, eds. 2002. 『Complexities: Social Studies of Knowledge Practices』 (Durham: Duke University Press)
Schatzki, Theodore R. 1996. 『Social Practices: A Wittgensteinian Approach to Human Activity and the Social』 (Cambridge: Cambridge University Press)
Zagal, Jose Pablo, and Sebastian Deterding, eds. 2018 『Role-Playing Game Studies: Transmedia Foundations』 (New York: Routledge)

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

The course materials as well as lecture slides will be made available via the course Panda webpage.

【授業外学修（予習・復習）等】

Regular homework as well as exercises will play an important role in this course. Participants need to prepare one reading before each class session and are asked to write short comprehension essays afterwards, both of which will require at least one hour. Participants present at least one topic in class, which also necessitates preparation out of class.

(その他（オフィスアワー等）)

Consultation (office hours) by appointment. The course webpage will be available to download the course material.

Please contact Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。